

# Dell PowerEdge T420 システム オーナーズマニュアル



<b>章 1: システムについて</b> .....	<b>8</b>
前面パネルの機能およびインジケータ — タワーモード.....	9
前面パネルの機能およびインジケータ — ラックモード.....	13
LCD パネル機能.....	14
ホーム画面.....	15
セットアップメニュー.....	15
ビューメニュー.....	16
診断インジケータ.....	16
ハードディスクドライブインジケータのパターン.....	18
背面パネルの機能とインジケータ.....	19
NIC インジケータコード.....	20
冗長電源ユニットの電源インジケータコード.....	21
非冗長電源ユニットの電源インジケータコード.....	21
その他の情報.....	22
<b>章 2: セットアップユーティリティとブートマネージャの使い方</b> .....	<b>23</b>
システム起動モードの選択.....	24
セットアップユーティリティの起動.....	24
エラーメッセージへの対応.....	24
セットアップユーティリティナビゲーションキーの使い方.....	24
セットアップユーティリティのオプション.....	25
セットアップユーティリティのメイン画面.....	25
システム BIOS 画面.....	25
システム情報画面.....	26
Memory Settings (メモリ設定) 画面.....	26
Processor Settings (プロセッサ設定) 画面.....	27
SATA Settings (SATA 設定) 画面.....	28
起動設定画面.....	28
Integrated Devices (内蔵デバイス) 画面.....	29
シリアル通信画面.....	30
System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面.....	30
System Security (システムセキュリティ) 画面.....	31
その他の設定.....	32
システムパスワードとセットアップパスワードの機能.....	32
システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの割り当て.....	33
既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの削除または変更.....	33
システムを保護するためのシステムパスワードの使い方.....	34
セットアップパスワード使用中の操作.....	34
UEFI ブートマネージャの起動.....	35
ブートマネージャのナビゲーションキーの使い方.....	35
ブートマネージャ画面.....	35
UEFI 起動メニュー.....	36
Embedded System Management (組み込みシステム管理).....	36
iDRAC 設定ユーティリティ.....	36

iDRAC 設定ユーティリティの起動.....	36
温度設定の変更.....	37
<b>章 3: システムコンポーネントの取り付け.....</b>	<b>38</b>
奨励するツール.....	38
前面ベゼル ( オプション ) .....	38
前面ベゼルの取り付け.....	38
前面ベゼルの取り外し.....	39
システムスタビライザー—タワーモード.....	39
システムスタビライザーの取り外し.....	39
システムスタビライザーの取り付け.....	40
ホイールアセンブリ ( オプション ) —タワーモード.....	40
ホイールアセンブリの取り外し.....	40
ホイールアセンブリの取り付け.....	41
システムカバーの開閉.....	41
システムカバーの取り外し.....	42
システムカバーの取り付け.....	42
システムの内部.....	43
光学ドライブとテープドライブ ( オプション ) .....	44
光学ドライブまたはテープドライブの取り外し.....	44
光学ドライブまたはテープドライブの取り付け.....	46
冷却用エアフローカバー.....	47
冷却用エアフローカバーの取り外し.....	47
冷却用エアフローカバーの取り付け.....	48
ハードドライブ—ホットスワップ対応.....	49
ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し.....	49
ホットスワップ対応ハードディスクドライブの取り付け.....	50
2.5 インチハードドライブダミーの取り外し.....	50
2.5 インチハードディスクドライブダミーの取り付け.....	51
3.5 インチハードドライブダミーの取り外し.....	51
3.5 インチハードドライブダミーの取り付け.....	51
3.5 インチハードドライブアダプタからの 2.5 インチハードドライブの取り外し.....	51
2.5 インチハードドライブを 3.5 インチハードドライブアダプタに取り付ける方法.....	52
ハードドライブまたはハードドライブアダプタをハードドライブキャリアから取り外す方法.....	52
ハードドライブまたはハードドライブアダプタをハードドライブキャリアに取り付ける方法.....	54
ハードドライブ—ケーブル接続済み.....	54
内蔵ハードドライブベイの取り外し.....	54
内蔵ハードドライブベイの取り付け.....	55
ケーブル接続されたハードドライブの取り外し.....	55
ケーブル接続されたハードドライブの取り付け.....	56
ハードドライブバックプレーン.....	57
ハードドライブバックプレーンの取り外し.....	57
ハードドライブバックプレーンの取り付け.....	61
4 スロットハードドライブダミー.....	62
4 スロットハードドライブダミーの取り外し.....	62
4 スロットハードドライブダミーの取り付け.....	63
System Memory.....	63
メモリモジュール取り付けガイドライン.....	65
モードごとのガイドライン.....	65
メモリ構成の例.....	66

メモリモジュールの取り外し.....	68
メモリモジュールの取り付け.....	69
冷却ファン.....	70
内蔵の冷却ファンの取り外し.....	70
内蔵の冷却ファンの取り付け.....	72
外付けの冷却ファンの取り外し.....	72
外付けの冷却ファンの取り付け.....	74
内蔵 USB メモリキー ( オプション ) .....	74
内蔵 USB キーの交換 / 取り付け.....	75
PCIe カードホルダ ( オプション ) .....	76
PCIe カードホルダの取り外し.....	76
PCIe カードホルダの取り付け.....	77
拡張カード.....	77
拡張カードの取り付けガイドライン.....	77
GPU カードの取り付けガイドライン.....	78
拡張カードの取り外し.....	78
拡張カードの取り付け.....	79
GPU カードの取り外し.....	80
GPU カードの取り付け.....	81
iDRAC ポートカード.....	82
iDRAC ポートカードの取り外し.....	82
iDRAC ポートカードの取り付け.....	83
SD vFlash カードの交換.....	84
内蔵デュアル SD モジュール.....	84
内蔵デュアル SD モジュールの取り外し.....	84
内蔵デュアル SD モジュールの取り付け.....	85
内蔵 SD カード.....	85
内蔵 SD カードの取り外し.....	85
内蔵 SD カードの取り付け.....	86
プロセッサ.....	86
プロセッサの取り外し.....	86
プロセッサの取り付け.....	88
冗長 AC 電源ユニット.....	89
冗長 AC 電源ユニットの取り外し.....	90
冗長 AC 電源ユニットの取り付け.....	90
電源装置ダミーの取り外し.....	91
電源装置ダミーの取り付け.....	91
電源ユニットの仕切りの交換.....	91
非冗長 AC 電源ユニット.....	92
非冗長 AC 電源ユニットの取り外し.....	92
非冗長 AC 電源ユニットの取り付け.....	94
配電基板と電源干渉基板.....	94
電源干渉基板の取り外し.....	94
電源干渉基板の取り付け.....	95
配電基板の交換.....	96
システムバッテリー.....	96
システムバッテリーの交換.....	96
コントロールパネルアセンブリ.....	97
コントロールパネルアセンブリの取り外し.....	97
コントロールパネルアセンブリの取り付け.....	100

コントロールパネルの取り外し.....	100
コントロールパネルの取り付け.....	101
LCD モジュールを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り外し.....	102
LCD モジュールを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り付け.....	103
診断インジケータを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り外し.....	103
診断インジケータを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り付け.....	104
LCD モジュールの取り外し.....	104
LCD モジュールの取り付け.....	105
VGA モジュールの取り外し — ラックモード.....	106
VGA モジュールの取り付け — ラックモード.....	106
システム基板.....	107
システム基板の取り外し.....	107
システム基板の取り付け.....	108
<b>章 4: タワーモードからラックモードへのシステムの変換.....</b>	<b>110</b>
安全にお使いいただくために.....	110
タワーモードからラックモードにシステムを変換するための準備.....	110
ラックの取り付け.....	112
<b>章 5: システムのトラブルシューティング.....</b>	<b>113</b>
システム起動エラーのトラブルシューティング.....	113
外部接続のトラブルシューティング.....	113
ビデオサブシステムのトラブルシューティング.....	113
USB デバイスのトラブルシューティング.....	114
シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング.....	114
NIC のトラブルシューティング.....	114
システムが濡れた場合のトラブルシューティング.....	115
システムが損傷した場合のトラブルシューティング.....	115
システムバッテリーのトラブルシューティング.....	116
冗長電源ユニットのトラブルシューティング.....	116
冗長電源ユニットのトラブルシューティング.....	116
冷却問題のトラブルシューティング.....	117
冷却ファンのトラブルシューティング.....	117
システムメモリのトラブルシューティング.....	117
内蔵 USB キーのトラブルシューティング.....	118
SD カードのトラブルシューティング.....	118
オプティカルドライブまたはテープドライブのトラブルシューティング.....	119
ハードディスクドライブのトラブルシューティング.....	119
拡張カードのトラブルシューティング.....	120
プロセッサのトラブルシューティング.....	120
<b>章 6: システム診断プログラムの使い方.....</b>	<b>122</b>
Dell Online Diagnostics.....	122
Dell Embedded System Diagnostics.....	122
内蔵されたシステム診断プログラムの実行が必要な場合.....	122
内蔵されたシステム診断プログラムの実行.....	122
システム診断プログラムのコントロール.....	123
<b>章 7: ジャンパとコネクタ.....</b>	<b>124</b>

システム基板のジャンパ設定.....	124
システム基板のジャンパとコネクタ.....	125
パスワードを忘れたとき.....	126
<b>章 8: 仕様.....</b>	<b>128</b>
<b>章 9: システムメッセージ.....</b>	<b>132</b>
LCD メッセージ.....	132
LCD メッセージの表示.....	132
LCD メッセージの削除.....	132
システムエラーメッセージ.....	132
警告メッセージ.....	145
診断メッセージ.....	145
アラートメッセージ.....	146
<b>章 10: 困ったときは.....</b>	<b>147</b>
デルへのお問い合わせ.....	147

# システムについて

## トピック：

- ・ 前面パネルの機能およびインジケータ — タワーモード
- ・ 前面パネルの機能およびインジケータ — ラックモード
- ・ LCD パネル機能
- ・ 診断インジケータ
- ・ ハードディスクドライブインジケータのパターン
- ・ 背面パネルの機能とインジケータ
- ・ NIC インジケータコード
- ・ 冗長電源ユニットの電源インジケータコード
- ・ 非冗長電源ユニットの電源インジケータコード
- ・ その他の情報

## 前面パネルの機能およびインジケータ — タワーモード

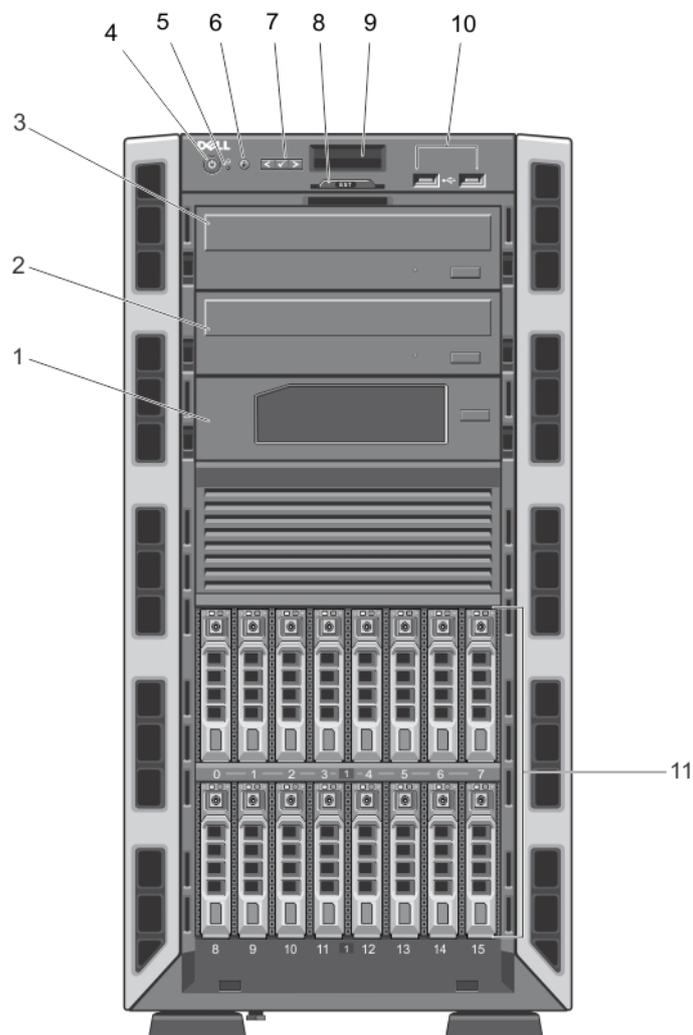


図 1. 前面パネルの機能およびインジケータ — ホットスワップ対応の 2.5 インチハードドライブシャーシ

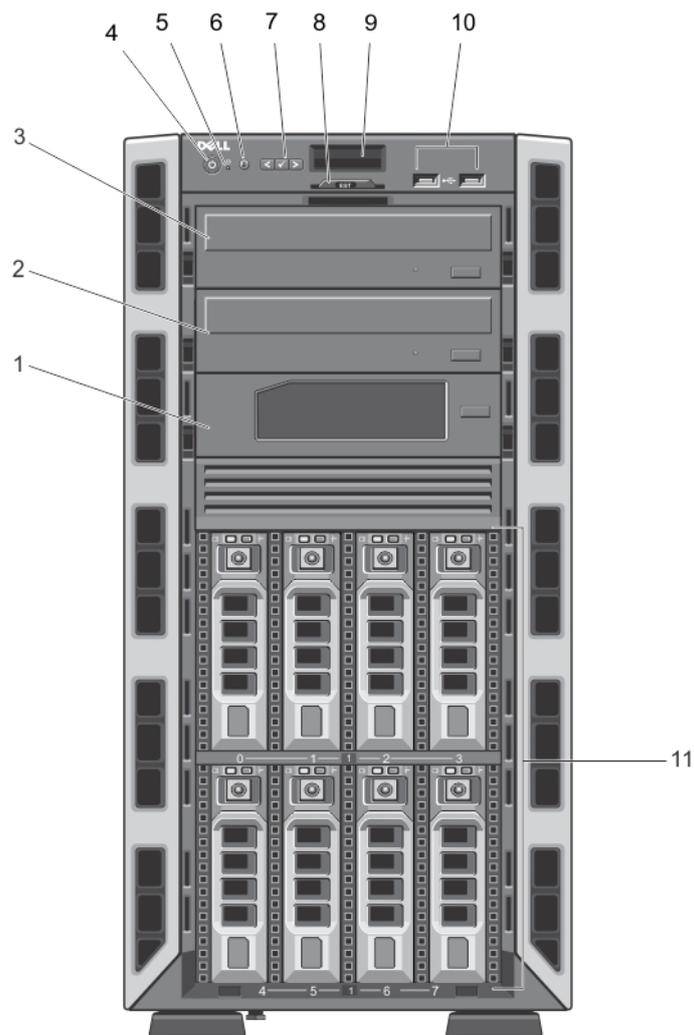


図 2. 前面パネルの機能およびインジケータ — ホットスワップ対応の 3.5 インチハードドライブシャーシ

項目	インジケータ、ボタン、またはコネクタ	アイコン	説明
1	テープドライブ (オプション)		オプションの 5.25 インチテープドライブ 1 台。 <b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
2	オプティカルドライブ 2 (オプション)		オプションの SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD+/-RW ドライブ 2 台まで。
3	オプティカルドライブ 1 (オプション)		<b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
4	電源オンインジケータ、電源ボタン	🔌	電源オンインジケータは、システムに電源が投入されると点灯します。電源ボタンはシステムへの電源ユニットの出力を制御します。 <b>メモ:</b> Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 対応の OS では、電源ボタンを使ってシステムの電源を切っても、システムの電源が切れる前にシステムが正常なシャットダウンを行います。

項目	インジケータ、ボタン、またはコネクタ	アイコン	説明
5	NMI ボタン		<p>特定の OS の実行中に、ソフトウェアエラーおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングに使用します。このボタンはペーパークリップの先端を使って押すことができます。</p> <p>認定を受けたサポート担当者によって指示された場合、または OS のマニュアルで指示されている場合にのみ、このボタンを使用してください。</p>
6	システム識別ボタン		<p>システムの前面パネルと背面パネルの識別ボタンを使用すると、ラック内の特定のシステムの位置を確認できます。これらのボタンの1つを押すと、前面の LCD パネルと背面のシステムステータスインジケータが、ボタンの1つがもう一度押されるまで点滅を続けます。</p> <p>ボタンを押してシステム識別のオン/オフを切り替えます。</p> <p>POST 中にシステムの反応が停止した場合は、システム識別ボタンを5秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。</p> <p>integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) をリセットするには (F2 iDRAC セットアップで無効に設定されていない場合)、15 秒以上長押しします。</p>
7	LCD メニューボタン		コントロールパネル LCD メニューの切り替えに使用します。
8	情報タグ		サービスタグ、NIC、MAC アドレスなどのシステム情報を記録できる、引き出し式のラベルパネルです。
9	LCD パネル		<p>システム ID、ステータス情報、システムエラーメッセージが表示されます。LCD は、通常のシステム動作中は青色に点灯します。システムに注意が必要な状況になると LCD が黄色に点灯し、エラーコードとエラーの内容を説明するテキストが表示されます。</p> <p><b>i</b> <b>メモ:</b> システムが電源に接続されている状態でエラーが検知されると、システムの電源がオンかオフかに関係なく、LCD が黄色に点灯します。</p>
10	USB コネクタ (2)		システムに USB デバイスを接続できます。ポートは USB 2.0 に準拠しています。
11	ハードドライブ		<p>お使いのシステムでは、以下のいずれかの構成がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホットスワップ対応の 3.5 インチハードドライブを 8 台まで。</li> <li>3.5 インチハードドライブキャリアに取り付けられた、ホットスワップ対応の 2.5 インチハードドライブを 8 台まで</li> <li>ホットスワップ対応の 2.5 インチハードドライブを 16 台まで。</li> </ul>

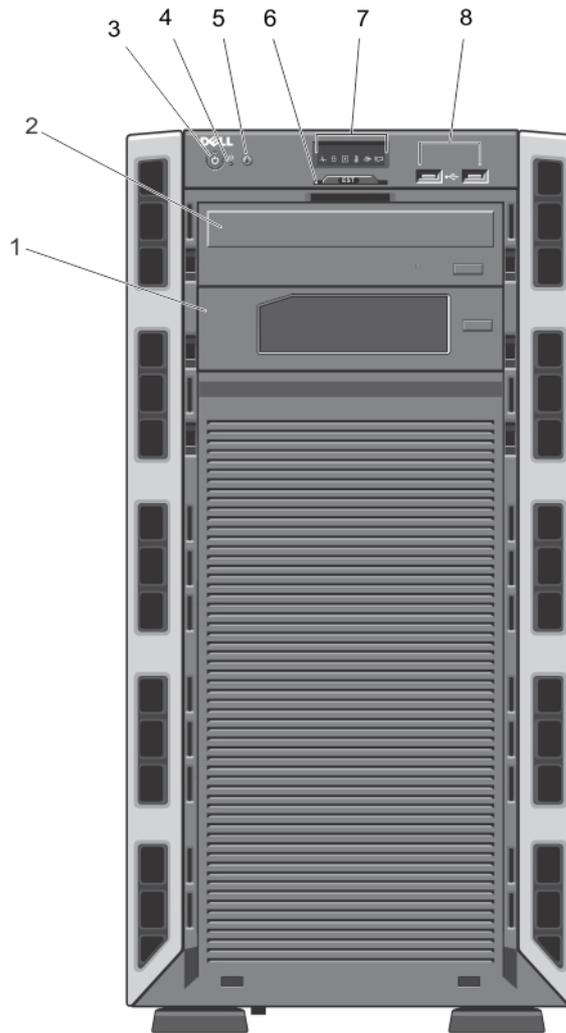


図 3. 前面パネルの機能およびインジケータ — ケーブル接続された 3.5 インチハードドライブシャーシ

**メモ:** ケーブル接続されたハードドライブシステムは、ラック搭載できません。

項目	インジケータ、ボタン、または アイコン	説明
1	テープドライブ (オプション)	オプションの 5.25 インチテープドライブ 1 台。
2	オプティカルドライブ (オプション)	オプションの SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD+/-RW ドライブ 1 台。
3	電源オンインジケータ、電源ボタン 	電源オンインジケータは、システムに電源が投入されると点灯します。電源ボタンはシステムへの電源ユニットの出力を制御します。 <b>メモ:</b> ACPI 対応の OS では、電源ボタンを使ってシステムの電源を切っても、システムの電源が切れる前にシステムが正常なシャットダウンを行います。
4	NMI ボタン 	特定の OS の実行中に、ソフトウェアエラーおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングに使用します。このボタンはペーパークリップの先端を使って押すことができます。 認定を受けたサポート担当者によって指示された場合、または OS のマニュアルで指示されている場合にのみ、このボタンを使用してください。

項目	インジケータ、ボタン、またはアイコンコネクタ	説明
5	システム識別ボタン 	<p>システムの前面パネルと背面パネルの識別ボタンを使用すると、ラック内の特定のシステムの位置を確認できます。これらのボタンの1つを押すと、前面シャーシのLCDパネルと背面シャーシのシステムステータスインジケータが、ボタンの1つがもう一度押されるまで点滅を続けます。</p> <p>ボタンを押してシステム識別のオン/オフを切り替えます。</p> <p>POST中にシステムの反応が停止した場合は、システム識別ボタンを5秒以上押し続けてBIOSプログレスモードに入ります。</p> <p>iDRACをリセットするには(F2 iDRAC セットアップで無効に設定されていない場合)、15秒以上長押しします。</p>
6	情報タグ	サービスタグ、NIC、MACアドレスなどのシステム情報を記録できる、引き出し式のラベルパネルです。
7	診断インジケータ	診断インジケータは、エラーステータスを示すために点灯します。
8	USBコネクタ(2) 	システムにUSBデバイスを接続できます。ポートはUSB 2.0に準拠しています。

## 前面パネルの機能およびインジケータ — ラックモード

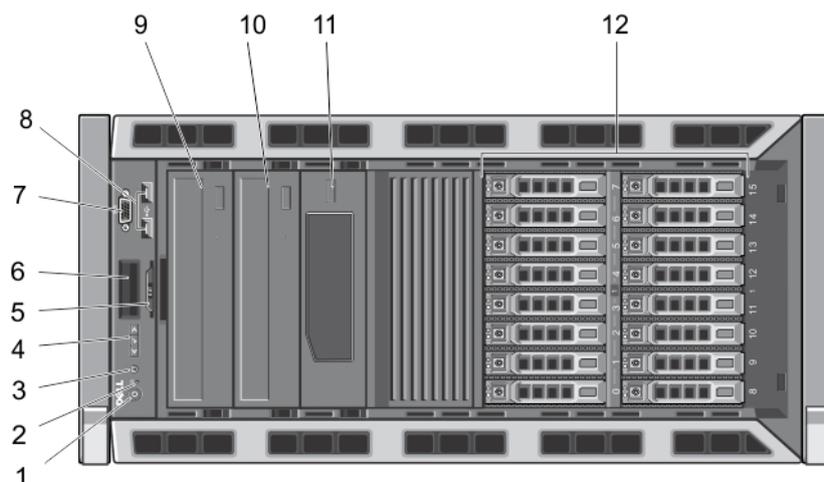


図 4. 前面パネルの機能とインジケータ

 **メモ:** ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムのみをラックに取り付けることができます。

項目	インジケータ、ボタン、またはアイコンコネクタ	説明
1	電源オンインジケータ、電源ボタン 	<p>電源オンインジケータは、システムに電源が投入されると点灯します。電源ボタンはシステムへの電源ユニットの出力を制御します。</p> <p> <b>メモ:</b> ACPI対応のOSでは、電源ボタンを使ってシステムの電源を切っても、システムの電源が切れる前にシステムが正常なシャットダウンを行います。</p>
2	NMIボタン 	特定のOSの実行中に、ソフトウェアエラーおよびデバイスドライバエラーのトラブルシューティングに使用します。このボタンはペーパークリップの先端を使って押すことができます。

項目	インジケータ、ボタン、またはアイコンコネクタ	説明
3	システム識別ボタン 	<p>認定を受けたサポート担当者によって指示された場合、または OS のマニュアルで指示されている場合にのみ、このボタンを使用してください。</p> <p>前面パネルと背面パネルの識別ボタンを使用すると、ラック内の特定のシステムの位置を確認できます。これらのボタンの1つを押すと、前面の LCD パネルと背面のシステムステータスインジケータは、ボタンの1つがもう一度押されるまで点滅を続けます。</p> <p>ボタンを押してシステム識別のオン/オフを切り替えます。</p> <p>POST 中にシステムの反応が停止した場合は、システム識別ボタンを 5 秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。</p> <p>iDRAC をリセットするには ( F2 iDRAC セットアップで無効に設定されていない場合 )、15 秒以上長押しします。</p>
4	LCD メニューボタン	コントロールパネル LCD メニューの切り替えに使用します。
5	情報タグ	サービスタグ、NIC、MAC アドレスなどのシステム情報を記録できる、引き出し式のラベルパネルです。
6	LCD パネル	<p>システム ID、ステータス情報、システムエラーメッセージが表示されます。LCD は、通常のシステム動作中は青色に点灯します。システムに注意が必要な状況になると LCD が黄色に点灯し、LCD パネルにはエラーコードとエラーの内容を説明するテキストが表示されます。</p> <p> <b>メモ:</b> システムが電源に接続されている状態でエラーが検知されると、システムの電源がオンかオフかに関係なく、LCD が黄色に点灯します。</p>
7	ビデオコネクタ	VGA ディスプレイをシステムに接続できます。
8	USB コネクタ ( 2 ) 	システムに USB デバイスを接続できます。ポートは USB 2.0 に準拠しています。
9	オプティカルドライブ 1 ( オプション )	オプションの SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD+/-RW ドライブ 2 台まで。
10	オプティカルドライブ 2 ( オプション )	 <b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
11	テープドライブ ( オプション )	オプションの 5.25 インチテープドライブ 1 台。  <b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
12	ハードドライブ	<p>お使いのシステムでは、以下のいずれかの構成がサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホットスワップ対応の 3.5 インチハードドライブを 8 台まで。</li> <li>3.5 インチハードドライブキャリアに取り付けられた、ホットスワップ対応の 2.5 インチハードドライブを 8 台まで</li> <li>ホットスワップ対応の 2.5 インチハードドライブを 16 台まで。</li> </ul>

## LCD パネル機能

 **メモ:** LCD パネルは、ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムのみでサポートされます。

システムの LCD パネルには、システム情報、ステータスおよびエラーメッセージが表示されて、システムが正常に動作しているか、またはシステムに注意が必要かが示されます。特定のエラーコードについては、「システムエラーメッセージ」を参照してください。

- LCD バックライトは、正常な動作状態では青色に、エラー状態では黄色に点灯します。
- システムがスタンバイモードのとき、LCD バックライトは消灯しますが、LCD パネルの選択ボタン、左ボタン、または右ボタンのいずれかを押しすると点灯します。
- iDRAC ユーティリティ、LCD パネル、またはその他のツールを使用して LCD メッセージをオフにしている場合、LCD バックライトは消灯したままになります。

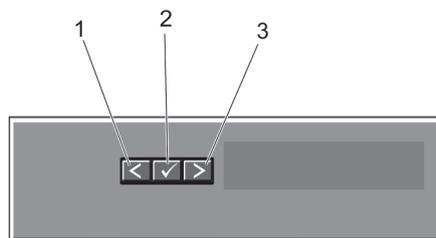


図 5. LCD パネル機能

項目	ボタン	説明
1	左	カーソルが後方に1つ分移動します。
2	選択	カーソルによってハイライト表示されているメニュー項目を選択します。
3	右	カーソルが前方に1つ分移動します。 メッセージのスクロール中に次の操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1回押しと、スクロールが速くなります。</li> <li>● 再び押しと停止します。</li> <li>● もう1回押しと、デフォルトのスクロール速度に戻ります。</li> <li>● もう1回押しと、同じ操作が繰り返されます。</li> </ul>

## ホーム画面

ホーム画面には、ユーザーが設定できるシステム情報が表示されます。この画面は、ステータスメッセージやエラーがない通常のシステム動作中に表示されます。システムがスタンバイモードのときは、エラーメッセージがなければ、非アクティブ状態が5分続いた後に LCD バックライトが消灯されます。ホーム画面を表示するには、3つのナビゲーションボタン (Select (選択)、Left (左)、または Right (右)) のうちひとつを押します。

別のメニューからホーム画面に移動するには、 ホームアイコンが表示されるまで上矢印を押し続けてから、 ホームアイコンを選択します。

ホーム画面から、Select (選択) ボタンを押してメインメニューを立ち上げます。

## セットアップメニュー

**メモ:** セットアップメニューでオプションを選択すると、次の動作に進む前にオプションを確認する必要があります。

オプション	説明
iDRAC	DHCP または <b>Static IP</b> (静的 IP) を選択してネットワークモードを設定します。 <b>Static IP</b> (静的 IP) を選択した場合の使用可能なフィールドは、 <b>IP</b> 、 <b>Subnet (Sub)</b> (サブネット (サブ)) および <b>Gateway (Gtw)</b> (ゲートウェイ (Gtw)) です。 <b>Setup DNS</b> (DNS のセットアップ) を選択して DNS を有効化し、ドメインアドレスを表示します。2つの個別の ENS エントリが利用できます。
エラーの設定	SEL の IPMI 記述に一致するフォーマットで LCD エラーメッセージを表示させるには、 <b>SEL</b> を選択します。これは、LCD メッセージを SEL エントリと一致させようとする際に便利です。 簡易化された使いやすい記述で LCD エラーメッセージを表示させるには、 <b>Simple</b> (シンプル) を選択します。このフォーマットでのメッセージ一覧は、「システムエラーメッセージ」を参照してください。

オプション	説明
ホームの設定	LCD ホーム画面に表示されるデフォルト情報を選択します。ホーム画面にデフォルトとして設定できるオプションおよびオプション項目は、「ビューメニュー」を参照してください。

## ビューメニュー

**メモ:** 表示メニューでオプションを選択すると、次の動作に進む前にオプションを確認する必要があります。

オプション	説明
iDRAC IP	iDRAC7 の IPv4 または IPv6 アドレスを表示します。アドレスには、DNS ( <b>Primary</b> (プライマリ) ) および <b>Secondary</b> (セカンダリ)、 <b>Gateway</b> (ゲートウェイ)、 <b>IP</b> 、および <b>Subnet</b> (サブネット) (IPv6 にはサブネットはありません) が含まれます。
MAC	iDRAC、iSCSI、または <b>Network</b> (ネットワーク) デバイスの MAC アドレスを表示します。
Name (名前)	システムの <b>Host</b> (ホスト)、 <b>Model</b> (モデル)、または <b>User String</b> (ユーザー文字列) の名前を表示します。
番号	システムの <b>Asset tag</b> (アセットタグ) または <b>Service Tag</b> (サービスタグ) を表示します。
電源	電源出力を BTU/時 または ワット で表示します。表示フォーマットは、 <b>Setup</b> (セットアップ) メニューの <b>Set Home</b> (ホームの設定) サブメニューで設定できます。
温度	システムの温度を摂氏または華氏で表示します。 <b>Setup</b> (セットアップ) メニューの <b>Set Home</b> (ホームの設定) サブメニューで設定できます。

## 診断インジケータ

**メモ:** ケーブル接続されたハードドライブを搭載したシステムで、診断インジケータがサポートされます。

システムの前面パネルにある診断インジケータには、システム起動時にエラーステータスが表示されます。

**メモ:** システムの電源がオフの場合、診断インジケータは点灯しません。システムを起動するには、機能している電源に差し込み、電源ボタンを押します。

次項では、これらのインジケータに関連するシステムの状態と可能な対応策について説明します。



### ヘルスインジケータ

状態	対応処置
システムの電源がオンで、良好な状態の場合、インジケータは青色に点灯します。	不要。
システムの電源がオンまたはスタンバイ状態で、(ファンまたはハードドライブに障害があるなどの) エラーが発生している場合、インジケータは黄色に点滅します。	<p>特定の問題については、システムイベントログまたはシステムメッセージを参照してください。</p> <p>メモリ構成が無効な場合は、起動時にビデオ出力がなく、システムが停止することがあります。「困ったときは」を参照してください。</p>



## ハードドライブインジケータ

### 状態 対応処置

インジケータが緑色に点灯し、ハードドライブのアクティビティを示します。

不要。



## 電気インジケータ

### 状態 対応処置

システムに電氣的なエラー(電圧の異常、電源ユニットや電圧レギュレータの障害など)が発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。

特定の問題については、システムイベントログまたはシステムメッセージを参照してください。電源ユニットが原因である場合は、電源ユニットのLEDを確認します。電源ユニットをいったん取り外して取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。



## 温度インジケータ

### 状態 対応処置

システムに温度に関するエラー(温度の異常やファンの障害など)が発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。

次の状態が発生していないことを確認してください。

- 冷却ファンが取り外された、または故障した。
- システムカバー、冷却用エアフローカバー、EMI フィラーパネル、メモリモジュールのダミーカード、または背面フィラーブラケットが取り外されている。
- 室温が高すぎる。
- 外部の通気が遮断されている。

「困ったときは」を参照してください。



## メモリインジケータ

### 状態 対応処置

メモリエラーが発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。

障害が発生したメモリの位置については、システムイベントログまたはシステムメッセージを参照してください。メモリデバイスを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。



## PCIe インジケータ

### 状態 対応処置

PCIe カードにエラーが発生すると、このインジケータが黄色に点滅します。

システムを再起動します。PCIe カードに必要なドライバをすべてアップデートします。カードを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

# ハードディスクドライブインジケータのパターン



図 6. ハードディスクドライブインジケータ

1. ハードディスクドライブアクティビティインジケータ ( 緑色 )
2. ハードディスクドライブステータスインジケータ ( 緑色とオレンジ色 )

**① メモ:** ハードディスクドライブが AHCI ( Advanced Host Controller Interface ) モードの場合、ステータスインジケータ ( 右側 ) は機能せず、消灯したままになります。

## ドライブステータスインジケータのパターン ( RAID のみ )

1 秒間に 2 回緑色に点滅  
消灯

ドライブの識別中または取り外し準備中

**① メモ:** システムへの電源投入後、ドライブステータスインジケータは、すべてのハードディスクドライブが初期化されるまで消灯したままです。この間、ドライブの挿入または取り外し準備はできていません。

緑色、オレンジ色に点滅し、消灯

予期されたドライブの故障

1 秒間に 4 回オレンジ色に点滅

ドライブが故障

緑色にゆっくり点滅

ドライブの再構築中

緑色の点灯

ドライブがオンライン

緑色に 3 秒間点滅、  
オレンジ色に 3 秒間点滅、  
6 秒間消灯

再構築中止

## 背面パネルの機能とインジケータ

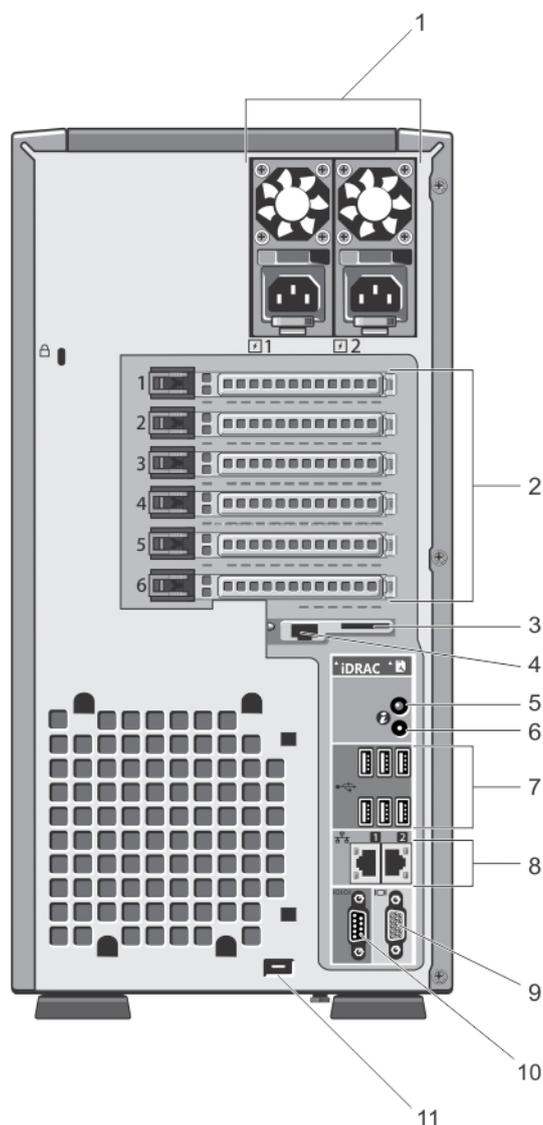


図 7. 背面パネルの機能とインジケータ

項目	インジケータ、ボタン、またはアイコン	説明
1	電源ユニット ( PSU1 と PSU2 )	<p><b>冗長電源ユニット</b> 495 W、750 W、または 1100 W 冗長 AC 電源ユニットを 2 台まで。</p> <p><b>非冗長電源ユニット</b> 550 W 非冗長 AC 電源ユニット 1 台。  <b>メモ:</b> 非冗長電源ユニットは、x8 バックプレーンでハードドライブとシステムがケーブル接続されたシステムでサポートされます。</p>
2	PCIe 拡張カードスロット ( 6 )	フルハイト PCI Express 拡張カードを 6 枚まで取り付けることができます。
3	vFlash メディアカードスロット 	vFlash メディアカードを挿入できます。

項目	インジケータ、ボタン、またはコネクタ	アイコン	説明
4	iDRAC7 Enterprise ポート		専用管理ポートです。 <b>メモ:</b> このポートは、お使いのシステムに iDRAC7 Enterprise ライセンスがインストールされている場合のみ使用可能です。
5	システム識別ボタン		前面パネルと背面パネルの識別ボタンを使用すると、ラック内の特定のシステムの位置を確認できます。これらのボタンの1つを押すと、前面の LCD パネルと背面のシステムステータスインジケータは、ボタンの1つがもう一度押されるまで点滅を続けます。  ボタンを押してシステム識別のオン/オフを切り替えます。  POST 中にシステムの反応が停止した場合は、システム識別ボタンを5秒以上押し続けて BIOS プログレスモードに入ります。  iDRAC をリセットするには ( F2 iDRAC セットアップで無効に設定されていない場合 )、15 秒以上長押しします。
6	システム識別コネクタ		オプションのシステムステータスインジケータアセンブリを、オプションのケーブル管理アームを通じて接続することができます。
7	USB コネクタ ( 6 )		システムに USB デバイスを接続できます。ポートは USB 2.0 に準拠しています。
8	イーサネットコネクタ ( 2 )		内蔵 10/100/1000 Mbps NIC コネクタ 2 個。
9	ビデオコネクタ		VGA ディスプレイをシステムに接続できます。
10	シリアルコネクタ		システムにシリアルデバイスを接続できます。
11	外付けの冷却ファンの電源ケーブルスロット		外付けの冷却ファン ( オプション ) の電源ケーブルをシャーシに配線するためのスロット。

## NIC インジケータコード

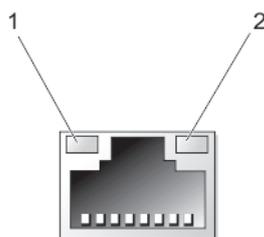


図 8. NIC インジケータ

1. リンクインジケータ
2. アクティビティインジケータ

### インジケータ インジケータコード

リンクおよびアクティビティインジケータが消灯      NIC がネットワークに接続されていません。

リンクインジケータが緑色      NIC は、最大ポート速度 ( 1 Gbps または 10 Gbps ) で有効なネットワークに接続されています。

インジケータ	インジケータコード
リンクインジケータが橙色	NIC は、最大ポート速度未満で有効なネットワークに接続されています。
アクティビティインジケータが緑色に点滅	ネットワークデータの送信中または受信中です。

## 冗長電源ユニットの電源インジケータコード

各冗長 AC 電源ユニットには光る半透明のハンドルがあり、電力が供給されているかどうか、電源の障害が発生しているかどうかを示します。

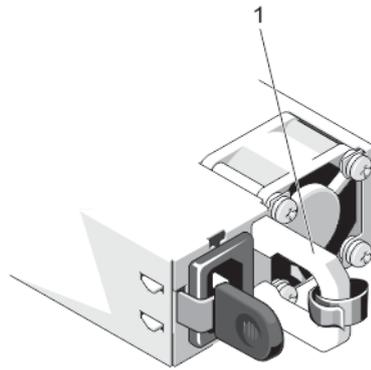


図 9. 冗長 AC 電源ユニットのステータスインジケータ

1. AC 電源ユニットのステータスハンドル

### 電源インジケータの状態のパターン

消灯	電源が接続されていません。
緑色	有効な電源が電源ユニットに接続されていて、電源ユニットが稼動しています。
黄色に点滅	電源ユニットに問題があることを示します。 <b>注意:</b> 電源ユニットのミスマッチを解決する場合は、インジケータが点滅している電源ユニットのみを交換してください。ペアを一致させるために反対側の電源ユニットを交換すると、エラー状態および予期しないシステムシャットダウンの原因となる場合があります。高出力構成から低出力構成、またはその逆へ変更するには、システムの電源を切る必要があります。 <b>注意:</b> AC 電源ユニットは 220 V および 110 V 入力電圧の両方をサポートします。2 台の電源ユニットに異なる入力電圧が供給されると、出力されるワット数が異なり、ミスマッチを招くことがあります。 <b>注意:</b> 2 台の電源ユニットを使用する場合は、どちらも同じタイプで最大出力電力も同一である必要があります。
緑色の点滅	電源ユニットのホットアッド時にこのシグナルが出た場合は、電源ユニット同士がミスマッチであることを示します (効率、機能セット、稼動状態、対応電圧に関して)。インジケータが点滅している電源ユニットを、取り付けられているもう一台の電源ユニットとワット数が一致するものに交換してください。

## 非冗長電源ユニットの電源インジケータコード

自己診断ボタンを押すと、システムの非冗長電源ユニットのクイック正常性検査が実行されます。

## 診断インジケータの状態

消灯	電源が接続されていないか、または電源ユニットが故障しています。
緑色	有効な電源が電源ユニットに接続されていて、電源ユニットが稼動しています。

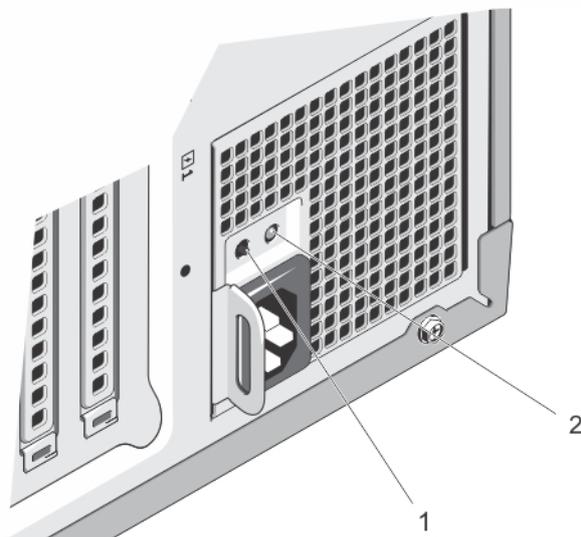


図 10. 非冗長 AC 電源ユニットのステータスインジケータと自己診断ボタン

1. 自己診断ボタン
2. AC 電源ユニットのステータスインジケータ

## その他の情報

**メモ:** システムに付属のマニュアルで安全および認可機能に関する情報を参照してください。保証に関する情報は、この文書に含まれている場合と、別の文書として付属する場合とがあります。

- 『はじめに』では、システムのセットアップと仕様の概要を説明しています。この文書は [www.dell.com/support/manuals](http://www.dell.com/support/manuals) からオンラインで入手できます。
- ラックソリューションに付属のマニュアルでは、システムをラックに取り付ける方法について説明しています（必要な場合）。
- システムに付属のメディアには、OS、システム管理ソフトウェア、システムアップデート、およびシステムと同時に購入されたシステムコンポーネントに関するものを含め、システムの設定と管理用のマニュアルとツールが収録されています。
- 本書で使用されている略語や頭字語の正式名については、[www.dell.com/support/manuals](http://www.dell.com/support/manuals) で『Glossary』（用語集）を参照してください。

**メモ:** アップデートには他の文書の内容を差し替える情報が含まれている場合がよくありますので、[www.dell.com/support/manuals](http://www.dell.com/support/manuals) でアップデートがないかどうかを常に確認し、初めにお読みください。

# セットアップユーティリティとブートマネージャの使い方

セットアップユーティリティでは、システムハードウェアの管理と BIOS レベルオプションの指定を行うことができます。起動時に以下のキー操作を行うと、システム機能にアクセスできます。

キーストローク	説明
<F2>	セットアップユーティリティ が起動します。
<F10>	System Services が起動し、Dell Lifecycle Controller 2 ( LC2 ) が開きます。Dell LC2 は、グラフィカルユーザーインターフェースを使用して、オペレーティングシステム導入、ハードウェア診断、ファームウェアアップデート、およびプラットフォーム設定などのシステム管理機能をサポートします。正確な LC2 の機能セットは、ご購入いただいた iDRAC ライセンスによって異なります。詳細については、Dell LC2 のマニュアルを参照してください。
<F11>	システムの起動設定に応じて、BIOS ブートマネージャまたは UEFI ( Unified Extensible Firmware Interface ) ブートマネージャが起動します。 をクリックします。
<F12>	Preboot Execution Environment ( PXE ) 起動が開始されます。

セットアップユーティリティ から実行できる操作は次のとおりです。

- ハードウェアの追加または削除後に NVRAM 設定を変更する。
- システムハードウェアの構成を表示する。
- 内蔵デバイスの有効 / 無効を切り替える。
- パフォーマンスと電力管理のしきい値を設定する。
- システムセキュリティを管理する。

セットアップユーティリティ へのアクセスには、次を使用できます。

- 標準のグラフィカルブラウザ ( デフォルトで有効 )
- テキストブラウザ ( **Console Redirection** ( コンソールのリダイレクト ) を使用して有効にします )

**Console Redirection** ( コンソールのリダイレクト ) を有効にするには、**System Setup** ( セットアップユーティリティ ) で **System BIOS** ( システム BIOS ) > **Serial Communication** ( シリアル通信 ) 画面 > **Serial Communication** ( シリアル通信 ) の順に選択し、**On with Console Redirection** ( コンソールのリダイレクトでオン ) を選択します。

**メモ:** デフォルトでは、選択したフィールドのヘルプテキストはグラフィカルブラウザ内に表示されます。テキストブラウザ内でヘルプテキストを表示するには、<F1> を押してください。

トピック :

- ・ システム起動モードの選択
- ・ セットアップユーティリティの起動
- ・ セットアップユーティリティのオプション
- ・ システムパスワードとセットアップパスワードの機能
- ・ UEFI ブートマネージャの起動
- ・ Embedded System Management ( 組み込みシステム管理 )
- ・ iDRAC 設定ユーティリティ

# システム起動モードの選択

セットアップユーティリティでは、オペレーティングシステムインストール用の起動モードを指定することができます。

- BIOS 起動モード ( デフォルト ) は、標準的な BIOS レベルの起動インタフェースです。
- UEFI 起動モードは、システム BIOS にオーバーレイする UEFI ( Unified Extensible Firmware Interface ) 仕様に基づく拡張 64 ビット起動インタフェースです。

起動モードの選択は、セットアップユーティリティの **Boot Settings** ( 起動設定 ) 画面の **Boot Mode** ( 起動モード ) フィールドで行う必要があります。起動モードを指定すると、システムは指定された起動モードで起動し、そのモードからオペレーティングシステムのインストールに進むことができます。それ以降は、インストールしたオペレーティングシステムにアクセスするには同じ起動モード ( BIOS または UEFI ) でシステムを起動する必要があります。ほかの起動モードからオペレーティングシステムの起動を試みると、システムは起動時に停止します。

**メモ:** UEFI 起動モードからインストールする OS は UEFI 対応である必要があります。DOS および 32 ビットの OS は UEFI 非対応で、BIOS 起動モードからのみインストールできます。

**メモ:** 対応オペレーティングシステムの最新情報については、[dell.com/ossupport](http://dell.com/ossupport) を参照してください。

## セットアップユーティリティの起動

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたらすぐに <F2> を押します。

<F2> = System Setup

<F2> を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを起動して再試行してください。

## エラーメッセージへの対応

システム起動中にエラーメッセージが表示された場合は、そのメッセージをメモしてください。詳細については、「システムエラーメッセージ」を参照してください。

**メモ:** メモリのアップグレード後、最初にシステムを起動する際にメッセージが表示されるのは正常です。

## セットアップユーティリティナビゲーションキーの使い方

キー	処置
上矢印	前のフィールドに移動します。
下矢印	次のフィールドへ移動します。
<Enter>	選択したフィールドに値を入力するか ( 該当する場合 )、フィールド内のリンクに移動することができます。
スペースバー	ドロップダウンメニューがある場合は、展開したり折りたたんだりします。
<Tab>	次のフォーカス対象領域に移動します。 <b>メモ:</b> 標準グラフィックブラウザ用に限られます。
<Esc>	メイン画面が表示されるまで、前のページに戻ります。メイン画面で <Esc> を押すと、未保存の変更を保存するプロンプトが表示され、システムが再起動します。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。 <b>メモ:</b> ほとんどのオプションでは、変更内容は自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

# セットアップユーティリティのオプション

## セットアップユーティリティのメイン画面

**メモ:** BIOS または UEFI の設定をデフォルトにリセットするには、<Alt><F> を押します。

メニュー項目	説明
<b>System BIOS(システム BIOS)</b>	このオプションは、BIOS 設定の表示と設定を行うために使用します。
<b>iDRAC Settings (iDRAC 設定)</b>	このオプションは、iDRAC 設定の表示と設定を行うために使用します。
<b>Device Settings (デバイス設定)</b>	このオプションは、デバイス設定の表示と設定を行うために使用します。

## システム BIOS 画面

**メモ:** セットアップユーティリティのオプションはシステム構成に応じて変わります。

**メモ:** セットアップユーティリティのデフォルト設定は、次の項の該当する各オプションに示されています。

メニュー項目	説明
<b>System Information (システム情報)</b>	システムモデル名、BIOS バージョン、サービスタグなど、システムに関する情報が表示されます。
<b>Memory Settings (メモリ設定)</b>	取り付けられているメモリに関連する情報とオプションが表示されます。
<b>Processor Settings (プロセッサ設定)</b>	速度、キャッシュサイズなど、プロセッサに関する情報とオプションが表示されます。
<b>SATA Settings (SATA 設定)</b>	内蔵 SATA コントローラとポートの有効/無効を切り替えるオプションが表示されます。
<b>Boot Settings (起動設定)</b>	起動モード (BIOS または UEFI) を指定するオプションが表示されます。UEFI と BIOS の起動設定を変更することができます。
<b>Integrated Devices (内蔵デバイス)</b>	内蔵デバイスコントローラとポートの有効/無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションが表示されます。
<b>Serial Communication (シリアル通信)</b>	シリアルポートの有効/無効の切り替え、および関連する機能とオプションの指定を行うオプションが表示されます。
<b>System Profile Settings (システムプロファイル設定)</b>	プロセッサの電力管理設定、メモリ周波数などを変更するオプションが表示されます。
<b>System Security (システムセキュリティ)</b>	システムパスワード、セットアップパスワード、TPM セキュリティなどのシステムセキュリティ設定を行うオプションが表示されます。ローカル BIOS のアップデートや、システムの電源および NMI ボタンに対するサポートの有効/無効の切り替えも可能です。
<b>Miscellaneous Settings (その他の設定)</b>	システムの日時などを変更するオプションが表示されます。

## システム情報画面

メニュー項目	説明
<b>System Model Name</b> (システムモデル名)	システムモデル名が表示されます。
<b>System BIOS Version</b> (システム BIOS バージョン)	システムにインストールされている BIOS バージョンが表示されます。
<b>System Service Tag</b> (システムのサービスタグ)	システムのサービスタグが表示されます。
<b>System Manufacturer</b> (システム製造元)	システム製造元の名前が表示されます。
<b>System Manufacturer Contact Information</b> (システム製造元の連絡先情報)	システム製造元の連絡先情報が表示されます。

## Memory Settings (メモリ設定) 画面

メニュー項目	説明
<b>System Memory Size</b> (システムメモリのサイズ)	システムに取り付けられているメモリの容量が表示されます。
システムメモリのタイプ	システムに取り付けられているメモリのタイプが表示されます。
<b>System Memory Speed</b>	システムメモリの速度が表示されます。
システムメモリ電圧	システムメモリの電圧が表示されます。
<b>Video Memory</b>	ビデオメモリの容量が表示されます。
システムメモリテスト	システム起動時にシステムメモリテストを実行するかどうかを指定します。オプションは <b>Enabled</b> (有効) および <b>Disabled</b> (無効) です。デフォルトでは、 <b>System Memory Testing</b> (システムメモリテスト) オプションは <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。
メモリ動作モード	メモリの動作モードを指定します。お使いのシステムのメモリ構成に応じて使用可能なオプションは、 <b>Optimizer Mode</b> (オプティマイザモード)、 <b>Advanced ECC Mode</b> (アドバンス ECC モード)、 <b>Mirror Mode</b> (ミラーモード)、 <b>Spare Mode</b> (スペアモード)、 <b>Spare with Advanced ECC Mode</b> (スペア + アドバンス ECC モード)、 <b>Dell Fault Resilient Mode</b> (Dell フォールトレジリエントモード) です。デフォルトでは、 <b>Memory Operating Mode</b> (メモリ動作モード) オプションは <b>Optimizer Mode</b> (オプティマイザモード) に設定されています。  <b>メモ:</b> Memory Operating Mode (メモリ動作モード) には、メモリ設定に基づいて、異なるデフォルトおよび利用可能オプションがあります。  <b>メモ:</b> Dell Fault Resilient Mode (Dell フォールトレジリエントモード) では、フォールトレジリエントな部分がメモリ内に確率されます。このモードは、重要なアプリケーションをロードする機能、またはシステムの可用性を最大化するためにオペレーティングシステムのカーネルを有効にする機能をサポートするオペレーティングシステムで使用できます。
ノードインターリーブ	対称的なメモリ構成の場合、このフィールドが <b>Enabled</b> (有効) に設定されていると、メモリのインターリーブがサポートされます。このフィールドが <b>Disabled</b> (無効) に設定されていると、システムは NUMA

## メニュー項目 説明

( Non-Uniform Memory Architecture ) ( 非対称 ) メモリ構成をサポートします。デフォルトでは、**Node Interleaving** ( ノードのインタリービング ) オプションは **Disabled** ( 無効 ) に設定されています。

## Processor Settings ( プロセッサ設定 ) 画面

### メニュー項目 説明

論理プロセッサ	論理プロセッサの有効/無効を切り替え、論理プロセッサの数を表示することができます。 <b>Logical Processor</b> ( 論理プロセッサ ) オプションが <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されていると、BIOS にはすべての論理プロセッサが表示されます。このオプションが <b>Disabled</b> ( 無効 ) に設定されていると、BIOS にはコアごとに1つの論理プロセッサのみが表示されます。デフォルトでは、 <b>Logical Processor</b> ( 論理プロセッサ ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
GPI 速度	QuickPath Interconnect のデータ速度を設定できます。デフォルトでは、 <b>GPI Speed</b> ( GPI スピード ) オプションは <b>Maximum data rate</b> ( 最大データ速度 ) に設定されています。  <b>メモ:</b> GPI スピードオプションは、両方のプロセッサが取り付けられている場合にのみ表示されます。
Alternate RTID (Requestor Transaction ID) Setting ( 代替 RTID ( 要求元トランザクション ID ) 設定 )	リモートソケットへの RTID の割り当てを増やして、ソケット間のキャッシュパフォーマンスを高めるか、または NUMA の標準モードでシステムを動作させることができます。デフォルトでは、 <b>Alternate RTID (Requestor Transaction ID) Setting</b> ( 代替 RTID ( 要求元トランザクション ID ) 設定 ) は <b>Disabled</b> ( 無効 ) に設定されています。
仮想化テクノロジー	仮想化のために提供されている追加のハードウェア機能の有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>Virtualization Technology</b> ( 仮想化テクノロジー ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
隣接キャッシュラインのプリフェッチ	シーケンシャルメモリアクセスの頻繁な使用を必要とするアプリケーション用にシステムを最適化することができます。デフォルトでは、 <b>Adjacent Cache Line Prefetch</b> ( 隣接キャッシュラインのプリフェッチ ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。ランダムなメモリアクセスの頻度が高いアプリケーションを使用する場合は、このオプションを無効にします。
ハードウェアプリフェッチャー	ハードウェアのプリフェッチャの有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>Hardware Prefetcher</b> ( ハードウェアのプリフェッチャ ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
DCU ストリーマプリフェッチャー	データキャッシュユニットストリーマのプリフェッチャの有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>DCU Streamer Prefetcher</b> ( DCU ストリーマのプリフェッチャ ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
DCU IP プリフェッチャー	データキャッシュユニット IP のプリフェッチャの有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>DCU IP Prefetcher</b> ( DCU IP のプリフェッチャ ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
無効化を実行する	不正コード実行防止によるメモリ保護機能の有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>Execute Disable</b> ( 不正コード実行防止 ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
論理プロセッサのアイドルング	消費電力を削減するために、論理プロセッサをアイドル状態にする OS 機能を有効化または無効化することができます。デフォルトで、このオプションは <b>Disabled</b> ( 無効 ) に設定されています。
プロセッサごとのコア数	各プロセッサ内の有効なコアの数を制御することができます。デフォルトでは、 <b>Number of Cores per Processor</b> ( プロセッサごとのコア数 ) オプションは <b>All</b> ( すべて ) に設定されています。
プロセッサ 64 ビットサポート	プロセッサが 64 ビット拡張をサポートするかどうかを指定します。
プロセッサコアスピード	プロセッサの最大コア周波数が表示されます。
Processor Bus Speed ( プロセッサバス速度 )	プロセッサのバス速度が表示されます。  <b>メモ:</b> プロセッサバス速度オプションは、両方のプロセッサが取り付けられている場合にのみ表示されます。
プロセッサ 1	 <b>メモ:</b> システムに取り付けられている各プロセッサについて、次の設定が表示されます。

メニュー項目	説明
シリーズ - モデル - 段階	Intel によって定義されている、プロセッサのシリーズ、モデル、およびステッピングが表示されます。
ブランド	プロセッサによって報告されるブランド名が表示されます。
レベル 2 キャッシュ	L2 キャッシュの合計が表示されます。
レベル 3 キャッシュ	L3 キャッシュの合計が表示されます。
コア数	プロセッサごとのコア数が表示されます。

## SATA Settings ( SATA 設定 ) 画面

メニュー項目	説明
<b>Embedded SATA (内蔵 SATA)</b>	内蔵 SATA を <b>Off</b> ( オフ )、 <b>ATA</b> モード、 <b>AHCI</b> モード、または <b>RAID</b> モードに設定できるようにします。デフォルトでは、 <b>Embedded SATA</b> (内蔵 SATA) オプションは <b>AHCI</b> に設定されています。
<b>Port A (ポート A)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート A に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートが無効になります。デフォルトでは、Port A (ポート A) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
<b>Port B (ポート B)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート B に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートが無効になります。デフォルトでは、Port B (ポート B) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
<b>Port C (ポート C)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート C に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートが無効になります。デフォルトでは、Port C (ポート C) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
<b>Port D (ポート D)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート D に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートは無効になります。デフォルトでは、Port D (ポート D) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
<b>Port E (ポート E)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート E に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートが無効になります。デフォルトでは、Port E (ポート E) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
<b>Port F (ポート F)</b>	Auto (自動) に設定すると、SATA ポート F に接続されているデバイスへの BIOS サポートが有効になります。Off (オフ) に設定すると、デバイスへの BIOS サポートが無効になります。デフォルトでは、Port F (ポート F) は <b>Auto</b> (自動) に設定されています。

## 起動設定画面

メニュー項目	説明
<b>Boot Mode (起動モード)</b>	<p>システムの起動モードを設定できます。</p> <p> <b>注意:</b> OS インストール時の起動モードが異なる場合、起動モードを切り替えるとシステムが起動しなくなることがあります。</p> <p>オペレーティングシステムが UEFI をサポートしている場合は、このオプションを UEFI に設定できます。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI 非対応のオペレーティングシステムとの互換性が有効になります。デフォルトでは、<b>Boot Mode</b> (起動モード) オプションは <b>BIOS</b> に設定されています。</p> <p> <b>メモ:</b> このフィールドを UEFI に設定すると、BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定) メニューが無効になります。このフィールドを BIOS に設定すると、UEFI Boot Settings (UEFI 起動設定) メニューが無効になります。</p>
<b>Boot Sequence Retry (起動順序再試行)</b>	<p>起動順序の再試行機能の有効/無効を切り替えることができます。このフィールドが有効に設定されていて、システムが起動に失敗した場合、システムは 30 秒後に起動を再試行します。デフォルトでは、<b>Boot Sequence Retry</b> (起動順序試行) オプションは <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。</p>

メニュー項目	説明
BIOS Boot Settings ( BIOS 起動設定 )	BIOS Boot ( BIOS 起動 ) オプションの有効 / 無効を切り替えることができます。  <b>メモ:</b> このオプションは、起動モードが BIOS の場合にのみ有効になります。
UEFI Boot Settings ( UEFI 起動設定 )	UEFI 起動オプションを有効化または無効化することができます。この起動オプションには、 <b>IPv4 PXE</b> および <b>IPv6 PXE</b> が含まれます。 <b>UEFI PXE boot protocol</b> ( UEFI PXE 起動プロトコル ) はデフォルトで <b>IPv4</b> に設定されています。  <b>メモ:</b> このオプションは、起動モードが UEFI の場合にのみ有効になります。
One-Time Boot ( 1 回限りの起動 )	選択したデバイスからの 1 回限りの起動の有効 / 無効を切り替えることができます。

## Integrated Devices ( 内蔵デバイス ) 画面

メニュー項目	説明
ユーザーのアクセスが可能な USB ポート	ユーザーのアクセスが可能な USB ポートの有効 / 無効を切り替えることができます。 <b>Only Back Ports On</b> ( 背面ポートのみオン ) を選択すると前面 USB ポートが無効になり、 <b>All Ports Off</b> ( すべてのポートがオフ ) を選択すると前面および背面 USB ポートの両方が無効になります。デフォルトでは、 <b>User Accessible USB Ports</b> ( ユーザーのアクセスが可能な USB ポート ) オプションは <b>All Ports On</b> ( すべてのポートがオン ) に設定されています。
内部 USB ポート	内蔵 USB ポートの有効 / 無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>Internal USB Port</b> ( 内蔵 USB ポート ) オプションは <b>On</b> ( オン ) に設定されています。
内部 SD カードポート	システムの内蔵 SD カードポートの有効 / 無効を切り替えます。デフォルトでは、 <b>Internal SD Card Port</b> ( 内蔵 SD カードポート ) オプションは <b>On</b> ( オン ) に設定されています。  <b>メモ:</b> このオプションは、システム基板に <b>IDSDM</b> が取り付けられている場合にのみ表示されます。
内部 SD カードの冗長性	<b>Mirror</b> ( ミラー ) モードに設定すると、データは両方の SD カードに書き込まれます。どちらかの SD カードに障害が発生した場合、データは正常な SD カードに書き込まれます。このカードに書き込まれたデータは、次の起動時に交換用の SD カードにコピーされます。デフォルトでは、 <b>Internal SD Card Redundancy</b> ( 内蔵 SD カードの冗長性 ) オプションは <b>Mirror</b> ( ミラー ) に設定されています。  <b>メモ:</b> このオプションは、システム基板に <b>IDSDM</b> が取り付けられている場合にのみ表示されます。
Embedded NIC1 and NIC2 ( 内蔵 NIC1 および NIC2 )	内蔵されたネットワークカード 1 と 2 を有効または無効にできます。デフォルトでは、 <b>Embedded NIC1 and NIC2</b> ( 内蔵された NIC1 と NIC2 ) オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
OS ウォッチドッグタイマー	OS ウォッチドッグタイマーの有効 / 無効を切り替えることができます。このフィールドが有効の場合、OS がタイマーを初期化し、OS ウォッチドッグタイマーが OS のリカバリを支援します。デフォルトでは、 <b>OS Watchdog Timer</b> ( OS ウォッチドッグタイマー ) オプションは <b>Disabled</b> ( 無効 ) に設定されています。
組込みビデオコントローラ	<b>Embedded Video Controller</b> ( 内蔵ビデオコントローラ ) の有効 / 無効を切り替えることができます。デフォルトでは、内蔵ビデオコントローラは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
SR-IOV グローバル有効	SR-IOV ( Single Root I/O Virtualization ) デバイスの BIOS 設定の有効 / 無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>SR-IOV Global Enable</b> ( SR-IOV グローバル有効 ) オプションは <b>Disabled</b> ( 無効 ) に設定されています。
4GB を超える I/O のメモリマップ化	大容量メモリを必要とする PCIe デバイスのサポートの有効化を可能にします。デフォルトで、オプションは <b>Enabled</b> ( 有効 ) に設定されています。
Slot Disablement ( スロット無効 )	お使いのシステム上にある利用可能な PCIe スロットの有効 / 無効を切り替えることができます。 <b>Slot Disablement</b> ( スロット無効 ) 機能により、指定のスロットに取り付けられている PCIe カードの構成を制御できます。  <b>注意:</b> スロット無効は、取り付けられている周辺機器 ( 拡張 ) カードによって OS の起動が妨げられているか、またはシステムの起動に遅延が発生している場合にのみ使用してください。スロットが無効になると、 <b>Option ROM</b> と <b>UEFI</b> ドライバの両方が無効になります。

## シリアル通信画面

メニュー項目	説明
<b>Serial Communication</b> (シリアル通信)	BIOS 内でシリアル通信デバイス (シリアルデバイス 1 およびシリアルデバイス 2) を選択することができます。BIOS コンソールのリダイレクトを有効化することも可能で、使用するポートアドレスを指定できます。デフォルトで、 <b>Serial Communication</b> (シリアル通信) オプションは <b>On without Console Redirection</b> (コンソールのリダイレクト無しでオン) に設定されています。
<b>Serial Port Address</b> (シリアルポートアドレス)	シリアルデバイスのポートアドレスを設定することができます。デフォルトでは、 <b>Serial Port Address</b> (シリアルポートアドレス) オプションは <b>Serial Device 1=COM2, Serial Device 2=COM1</b> (シリアルデバイス 1=COM2、シリアルデバイス 2=COM1) に設定されています。 <b>メモ:</b> SOL (Serial Over LAN) にはシリアルデバイス 2 のみを使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。
<b>External Serial Connector</b> (外付けシリアルコネクタ)	外付けシリアルコネクタをシリアルデバイス 1、シリアルデバイス 2、またはリモートアクセスデバイスに関連付けることができます。デフォルトでは、 <b>External Serial Connector</b> (外付けシリアルコネクタ) オプションは <b>Serial Device1</b> (シリアルデバイス 1) に設定されています。 <b>メモ:</b> SOL にはシリアルデバイス 2 のみを使用できます。SOL でコンソールのリダイレクトを使用するには、コンソールのリダイレクトとシリアルデバイスに同じポートアドレスを設定します。
<b>Failsafe Baud Rate</b> (フェイルセーフボーレート)	コンソールのリダイレクトに使用されているフェイルセーフボーレートが表示されます。BIOS は自動的にボーレートの決定を試みます。このフェイルセーフボーレートは、その試みが失敗した場合にのみ使用されます。また、値は変更しないでください。デフォルトでは、 <b>Failsafe Baud Rate</b> (フェイルセーフボーレート) オプションは <b>11520</b> に設定されています。
<b>Remote Terminal Type</b> (リモートターミナルのタイプ)	リモートコンソールターミナルのタイプを設定することができます。デフォルトでは、 <b>Remote Terminal Type</b> (リモートターミナルのタイプ) オプションは <b>VT 100/VT 220</b> に設定されています。
<b>Redirection After Boot</b> (起動後のリダイレクト)	オペレーティングシステムのロード時に BIOS コンソールのリダイレクトを有効または無効化することができます。デフォルトでは、 <b>Redirection After Boot</b> (起動後のリダイレクト) オプションは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。

## System Profile Settings (システムプロファイル設定) 画面

メニュー項目	説明
<b>System Profile</b> (システムプロファイル)	システムプロファイルを設定することができます。 <b>System Profile</b> (システムプロファイル) オプションを <b>Custom</b> (カスタム) 以外のオプションに設定すると、残りのオプションが BIOS によって自動的に設定されます。モードを <b>Custom</b> (カスタム) に設定している場合に限り、残りのオプションを変更できます。デフォルトでは、 <b>System Profile</b> (システムプロファイル) オプションは <b>Performance Per Watt Optimized (DAPC)</b> (ワットあたりのパフォーマンス最適化 (DAPC)) に設定されています。DAPC は Dell Active Power Controller (Dell アクティブ電力コントローラ) の略です。 <b>メモ:</b> 以下のパラメータは、 <b>System Profile</b> (システムプロファイル) が <b>Custom</b> (カスタム) に設定されている場合に限り利用できます。
<b>CPU Power Management</b> (CPU 電力の管理)	CPU 電力の管理を設定できます。デフォルトでは、 <b>CPU Power Management</b> (CPU 電力の管理) オプションは <b>System DBPM (DAPC)</b> (システム DBPM (DAPC)) に設定されています。DBPM は Demand-Based Power Management (デマンドベースの電力管理) の略です。
<b>Memory Frequency</b> (メモリ周波数)	メモリ周波数を設定することができます。デフォルトでは、 <b>Memory Frequency</b> (メモリ周波数) オプションは <b>Maximum Performance</b> (最大パフォーマンス) に設定されています。
<b>Turbo Boost</b> (ターボブースト)	プロセッサがターボブーストモードで動作するかどうかを設定できます。デフォルトでは、 <b>Turbo Boost</b> (ターボブースト) オプションは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。
<b>C1E</b>	アイドル時にプロセッサが最小パフォーマンス状態に切り替わるかどうかを設定できます。デフォルトでは、 <b>C1E</b> オプションは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。
<b>C States</b> (C ステート)	プロセッサが利用可能なすべての電源状態で動作するかどうかを設定できます。デフォルトでは、 <b>C States</b> (C ステート) オプションは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。

メニュー項目	説明
Monitor/Mwait	<p>プロセッサ内の Monitor/Mwait 命令を有効にすることができます。デフォルトでは、Monitor/Mwait オプションは <b>Custom</b> (カスタム) を除くすべてのシステムプロファイルに対して <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。</p> <p> <b>メモ:</b> このオプションは、<b>Custom</b> (モード) の <b>C States</b> (C ステート) オプションが無効に設定されている場合に限り、無効に設定できます。</p> <p> <b>メモ:</b> <b>Custom</b> (カスタム) モードで <b>C States</b> (C ステート) が有効に設定されていると、Monitor/Mwait 設定を変更してもシステムの能力/パフォーマンスは影響を受けません。</p>
Memory Patrol Scrub (メモリ巡回スクラブ)	メモリパトロールスクラブの周波数を設定することができます。デフォルトでは、 <b>Memory Patrol Scrub</b> (メモリパトロールスクラブ) オプションは <b>Standard</b> (スタンダード) に設定されています。
Memory Refresh Rate (メモリリフレッシュレート)	メモリリフレッシュレートを設定することができます。デフォルトでは、 <b>Memory Refresh Rate</b> (メモリリフレッシュレート) オプションは <b>1x</b> に設定されています。
Memory Operating Voltage (メモリ動作電圧)	DIMM 電圧選択を設定することができます。 <b>Auto</b> (自動) に設定すると、DIMM の容量と取り付けられている DIMM の数に応じて、システム電圧が自動的に最適に設定されます。デフォルトで、 <b>Memory Operating Voltage</b> (メモリ動作電圧) オプションは <b>Auto</b> (自動) に設定されています。
Collaborative CPU Performance Control (CPU パフォーマンス協調制御)	有効に設定すると、CPU 電源管理が OS DBPM およびシステムの DBPM (DAPC) によって制御されます。デフォルトで、このオプションは <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。

## System Security (システムセキュリティ) 画面

メニュー項目	説明
Intel AES-NI	<b>Intel AES-NI</b> オプションは、Advanced Encryption Standard Instruction セットを使用して暗号化と復号化を行うことにより、アプリケーションの速度を向上させます。デフォルトでは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。
System Password (システムパスワード)	システムパスワードを設定できます。このオプションは、デフォルトで <b>Enabled</b> (有効) に設定されており、システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合は、読み取り専用になります。
Setup Password (セットアップパスワード)	セットアップパスワードを設定できます。システムにパスワードジャンプが取り付けられていない場合、このオプションは読み取り専用です。
Password Status (パスワードステータス)	システムパスワードをロックできます。デフォルトでは、 <b>Password Status</b> (パスワードステータス) オプションは <b>Unlocked</b> (ロック解除) に設定されています。
TPM Security (TPM セキュリティ)	信頼済みプラットフォームモジュール (TPM) の報告モードを制御できます。デフォルトでは、 <b>TPM Security</b> (TPM セキュリティ) オプションは <b>Off</b> (オフ) に設定されています。 <b>TPM Status</b> (TPM ステータス) フィールド、TPM Activation (TPM の有効化) フィールド、および Intel TXT フィールドは、TPM Status (TPM ステータス) フィールドが <b>On with Pre-boot Measurements</b> (起動前測定ありでオン) または <b>On without Pre-boot Measurements</b> (起動前測定なしでオン) のいずれかに設定されている場合に限り、変更できません。
TPM Activation (TPM の有効化)	TPM の動作状態を変更できます。デフォルトでは、 <b>TPM Activation</b> (TPM の有効化) オプションは <b>No Change</b> (変更なし) に設定されています。
TPM Status (TPM ステータス)	TPM の状態が表示されます。
TPM Clear (TPM のクリア)	<p> <b>注意:</b> TPM をクリアすると、TPM 内のすべてのキーが失われます。TPM キーが失われると、OS の起動に影響するおそれがあります。</p> <p>TPM の全コンテンツをクリアできます。デフォルトでは、<b>TPM Clear</b> (TPM のクリア) オプションは <b>No</b> (なし) に設定されています。</p>

メニュー項目	説明
Intel TXT	Intel Trusted Execution Technology を有効または無効にできます。 <b>Intel TXT</b> を有効にするには、Virtualization Technology (仮想化テクノロジー) が有効で、TPM Security (TPM セキュリティ) を起動前測定付きで <b>Enabled</b> (有効) に設定する必要があります。デフォルトでは、 <b>Intel TXT</b> オプションは <b>Off</b> (オフ) に設定されています。
Power Button (電源ボタン)	システム前面の電源ボタンの有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>Power Button</b> (電源ボタン) オプションは <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。
NMI Button (NMI ボタン)	システム前面の NMI ボタンを有効または無効にできます。デフォルトでは、 <b>NMI Button</b> (NMI ボタン) オプションは <b>Disabled</b> (無効) に設定されています。
AC Power Recovery (AC 電源の回復)	AC 電源が回復した後のシステムの動作を設定することができます。デフォルトでは、 <b>AC Power Recovery</b> (AC 電源の回復) オプションは <b>Last</b> (前回) に設定されています。
AC Power Recovery Delay (AC 電源の回復遅延)	AC 電源がシステムに回復された後、電源投入の時期をシステムがどのようにサポートするかを設定できます。デフォルトで、 <b>AC Power Recovery Delay</b> (AC 電源の回復遅延) オプションは <b>Immediate</b> (即時) に設定されています。
User Defined Delay (60s to 240s) (ユーザー定義の遅延) (60~240 秒)	<b>AC Power Recovery Delay</b> (AC 電源の回復遅延) に <b>User Defined</b> (ユーザー定義) オプションが選択されている場合、 <b>User Defined Delay</b> (ユーザー定義の遅延) を設定できます。

## その他の設定

メニュー項目	説明
システム時刻	システムの時刻を設定することができます。
System Date	システムの日付を設定することができます。
資産タグ	Asset Tag が表示されます。Asset Tag はセキュリティと追跡のために変更することができます。
キーボード NumLock	NumLock が有効または無効のどちらの状態でもシステムが起動するかを設定することができます。デフォルトでは、 <b>Keyboard NumLock</b> (キーボードの NumLock) は <b>On</b> (オン) に設定されています。  <b>メモ:</b> このフィールドは 84 キーのキーボードには適用されません。
キーボードエラーのレポート	システム起動時にキーボード関連のエラーメッセージが報告されるかどうかを設定することができます。デフォルトでは、 <b>Report Keyboard Errors</b> (キーボードエラーの報告) フィールドは <b>Report</b> (報告する) に設定されています。
F1/F2 Prompt on Error (エラー時 F1/F2 プロンプト)	エラー時 F1/F2 プロンプトの有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、 <b>F1/F2 Prompt on Error</b> (エラー時 F1/F2 プロンプト) は <b>Enabled</b> (有効) に設定されています。

## システムパスワードとセットアップパスワードの機能

システムのセキュリティを確保するために、システムパスワードとセットアップパスワードを設定することができます。システムパスワードとセットアップパスワードの設定を有効にするには、パスワードジャンプを有効に設定する必要があります。パスワードジャンプの設定については、「システム基板のジャンプ設定」を参照してください。

**システムパスワード** お使いのシステムを起動する前に入力する必要のあるパスワードです。

**セットアップパスワード** システムの BIOS または UEFI 設定にアクセスして変更する際に入力が必要なパスワードです。

 **注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。

 **注意:** システムが無人で稼働中の場合は、システムに格納されているデータにだれでもアクセスできます。

 **メモ:** お使いのシステムは、出荷時にシステムパスワードとセットアップパスワードの機能が無効に設定されています。

## システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの割り当て

 **メモ:** パスワードジャンプによって、システムパスワードとセットアップパスワードの機能の有効/無効を切り替えることができます。パスワードジャンプの設定については、「システム基板のジャンプ設定」を参照してください。

パスワードジャンプの設定が有効で **Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) の場合に限り、新しい **System Password** (システムパスワード) や **Setup Password** (セットアップパスワード) の設定、または既存の **System Password** (システムパスワード) や **Setup Password** (セットアップパスワード) の変更が可能です。Password Status (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) に設定されている場合、System Password (システムパスワード) や Setup Password (セットアップパスワード) の変更はできません。

パスワードジャンプの設定を無効にすると、既存の System Password (システムパスワード) と Setup Password (セットアップパスワード) は削除され、システムの起動にシステムパスワードを入力する必要がなくなります。

システムパスワードやセットアップパスワードの設定は次の手順で行います。

1. セットアップユーティリティを起動するには、電源投入または再起動の直後に <F2> を押します。
  2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティのメインメニュー) で **System BIOS** (システム BIOS) を選択し、<Enter> を押します。  
**System BIOS** (システム BIOS) 画面が表示されます。
  3. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) を選択し、<Enter> を押します。  
システムセキュリティ画面が表示されます。
  4. システムセキュリティ画面で **パスワードステータス** が **ロック解除** に設定されていることを確認します。
  5. システムパスワードを選択してシステムパスワードを入力し、<Enter> または <Tab> を押します。  
以下のガイドラインに従ってシステムパスワードを設定します。
    - パスワードの文字数は 32 文字までです。
    - 0 から 9 までの数字を含めることができます。
    - 小文字のみ有効です。大文字は使用できません。
    - 特殊文字は、次の文字のみが利用可能です：スペース、( )、( + )、( , )、( - )、( . )、( / )、( ; )、( [ )、( \ )、( ] )、( ' )。
- システムパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。
6. 入力したシステムパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
  7. **Setup Password** (セットアップパスワード) を選択してセットアップパスワードを入力し、<Enter> または <Tab> を押します。  
セットアップパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。
  8. 入力したセットアップパスワードをもう一度入力し、**OK** をクリックします。
  9. <Esc> を押して System BIOS (システム BIOS) 画面に戻ります。もう一度 <Esc> を押すと、変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。

 **メモ:** システムが再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

## 既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの削除または変更

既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードの削除または変更を試みる前に、パスワードジャンプが有効に設定され、**Password Status** (パスワードステータス) が **Unlocked** (ロック解除) になっていることを確認します。**Password Status** (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) の場合、既存のシステムパスワードやセットアップパスワードを削除または変更することはできません。

既存のシステムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを削除または変更する手順は、次のとおりです。

1. セットアップユーティリティを起動するには、電源投入または再起動の直後に <F2> を押します。
2. **System Setup Main Menu** (セットアップユーティリティのメインメニュー) で **System BIOS** (システム BIOS) を選択し、<Enter> を押します。  
**System BIOS** (システム BIOS) 画面が表示されます。

3. **System BIOS** (システム BIOS) 画面で **System Security** (システムセキュリティ) を選択し、**<Enter>** を押します。**System Security** (システムセキュリティ) 画面が表示されます。
4. システムセキュリティ画面でパスワードステータスが**ロック解除**に設定されていることを確認します。
5. **System Password** (システムパスワード) を選択し、既存のシステムパスワードを変更または削除して、**<Enter>** または **<Tab>** を押します。
6. **Setup Password** (セットアップパスワード) を選択し、既存のセットアップパスワードを変更または削除して、**<Enter>** または **<Tab>** を押します。
  - ① **メモ:** システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを変更する場合は、新しいパスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。システムパスワードおよび/またはセットアップパスワードを削除する場合は、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
7. **<Esc>** を押してシステム BIOS 画面に戻ります。もう一度 **<Esc>** を押すと、変更の保存を求めるプロンプトが表示されます。
  - ① **メモ:** システムへのログオン中はパスワードセキュリティを無効にすることができます。パスワードセキュリティを無効にするには、システムの電源をオンにするかシステムを再起動し、パスワードを入力して **<Ctrl><Enter>** を押します。

## システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

- ① **メモ:** セットアップパスワードが設定されている場合、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け入れます。
1. システムの電源を入れるか、再起動します。
  2. パスワードを入力し、**<Enter>** を押します。

**Password Status** (パスワードステータス) が **Locked** (ロック) に設定されている場合は、再起動時に画面の指示に従ってパスワードを入力し、**<Enter>** を押します。

間違ったシステムパスワードを入力すると、パスワードの再入力を求めるメッセージが表示されます。3回目までに正しいパスワードを入力してください。間違ったパスワードを3回入力すると、システムの停止を示すエラーメッセージが表示され、システムの電源が切れます。

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。

- ① **メモ:** 不正な変更からシステムを保護するために、**System Password** (システムパスワード) と **Setup Password** (セットアップパスワード) オプションを **Password Status** (パスワードステータス) オプションと併用することができます。

## セットアップパスワード使用中の操作

**Setup Password** (セットアップパスワード) が **Enabled** (有効) に設定されている場合は、ほとんどのシステムセットアップオプションを変更する前に、正しいセットアップパスワードを入力します。

3回目までに正しいパスワードを入力しないと、次のメッセージが表示されます。

```
Incorrect Password! Number of unsuccessful password attempts: <x> System Halted! Must power down. (無効なパスワードです。間違ったパスワードの入力回数:<x> システムが停止されました。電源が切れます。)
```

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードを入力するまで、このエラーメッセージが表示されます。以下のオプションは例外です。

- 次のオプションは例外です。**System Password** (システムパスワード) が **Enabled** (有効) に設定されておらず、**Password Status** (パスワードステータス) オプションを通じてロックされていない場合は、システムパスワードを設定できます。
- 既存のシステムパスワードは、無効にすることも変更することもできません。

- ① **メモ:** 不正な変更からシステムパスワードを保護するために、**Password Status** (パスワードステータス) オプションを **Setup Password** (セットアップパスワード) オプションと併用することができます。

# UEFI ブートマネージャの起動

**メモ:** UEFI 起動モードからインストールするオペレーティングシステムは 64 ビット UEFI 対応 ( Microsoft Windows Server 2008 x64 バージョンなど ) である必要があります。DOS および 32 ビットのオペレーティングシステムは BIOS 起動モードからのみインストールできます。

ブートマネージャでは次の操作ができます。

- 起動オプションの追加、削除、配置。
- 再起動なしでのセットアップユーティリティオプションおよび BIOS レベル起動オプションへのアクセス。

ブートマネージャは次の手順で起動します。

1. システムの電源を入れるか、再起動します。
2. 次のメッセージが表示されたら **<F11>** を押します。

```
<F11> = UEFI Boot Manager ( UEFI ブートマネージャ )
```

**<F11>** を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動し、この手順を実行してください。

## ブートマネージャのナビゲーションキーの使い方

キー	説明
上矢印	前のフィールドに移動します。
下矢印	次のフィールドへ移動します。
<Enter>	選択したフィールドに値を入力するか ( 該当する場合 )、フィールド内のリンクに従うことができます。
スペースバー	ドロップダウンリストがある場合は、展開したり折りたたんだりします。
<Tab>	次のフォーカス対象領域に移動します。 <b>メモ:</b> 標準グラフィックブラウザ用に限られます。
<Esc>	メイン画面が表示されるまで、前のページに戻ります。メイン画面で <Esc> を押すと、ブートマネージャが終了し、システム起動が続行されます。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

**メモ:** ほとんどのオプションでは、変更内容は自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

## ブートマネージャ画面

メニュー項目	説明
<b>Continue Normal Boot</b> ( 通常の起動を続行 )	システムは起動順序の先頭にあるデバイスから順に起動を試みます。起動が失敗すると、システムは起動順序内の次のデバイスから起動を試みます。起動が成功するか、起動オプションがなくなるまで処理は続行されます。
<b>BIOS Boot Menu</b> ( BIOS 起動メニュー )	使用可能な BIOS 起動オプション ( アスタリスク [*] 付き ) のリストが表示されます。使用する起動オプションを選択し、<Enter> を押します。
<b>UEFI Boot Menu</b> ( UEFI 起動メニュー )	使用可能な UEFI 起動オプション ( アスタリスク [*] 付き ) のリストが表示されます。使用する起動オプションを選択し、<Enter> を押します。UEFI Boot Menu ( UEFI 起動メニュー ) では、 <b>Add Boot Option</b> ( 起動オプションの追加 )、 <b>Delete Boot Option</b> ( 起動オプションの削除 )、または <b>Boot From File</b> ( ファイルからの起動 ) ができます。
<b>Driver Health Menu</b> ( ドライバの正常性メニュー )	システムにインストールされているドライバのリストとその正常性が表示されます。

メニュー項目	説明
<b>Launch System Setup</b> ( セットアップユーティリティの起動 )	セットアップユーティリティにアクセスできます。
<b>System Utilities</b> ( システムユーティリティ )	BIOS Update File Explorer へのアクセス、Dell Diagnostics プログラムの実行、システムの再起動ができます。

## UEFI 起動メニュー

メニュー項目	説明
<b>Select UEFI Boot Option</b> ( UEFI 起動オプションの選択 )	使用可能な UEFI 起動オプション ( アスタリスク [*] 付き ) のリストが表示されます。使用する起動オプションを選択し、<Enter> を押します。
<b>Add Boot Option</b> ( 起動オプションの追加 )	新しい起動オプションを追加します。
<b>Delete Boot Option</b> ( 起動オプションの削除 )	既存の起動オプションを削除します。
<b>Boot From File</b> ( ファイルからの起動 )	起動オプションリストに含まれていない 1 回限りの起動オプションを設定します。

## Embedded System Management ( 組み込みシステム管理 )

Dell Lifecycle Controller により、サーバーのライフサイクル中、高度な組み込みシステム管理が実行できます。Lifecycle Controller は起動中に開始でき、オペレーティングシステムに依存せずに機能することができます。

 **メモ:** 一部のプラットフォーム構成では、Lifecycle Controller の提供する機能の一部がサポートされない場合があります。

Lifecycle Controller のセットアップ、ハードウェアとファームウェアの設定、およびオペレーティングシステムの導入の詳細については、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) で Lifecycle Controller のマニュアルを参照してください。

## iDRAC 設定ユーティリティ

iDRAC 設定ユーティリティは、UEFI を使用して iDRAC パラメータをセットアップおよび設定するためのインターフェースです。iDRAC 設定ユーティリティを使用して、さまざまな iDRAC パラメータを有効または無効化できます。

 **メモ:** 一部の iDRAC 設定ユーティリティ機能へのアクセスには、iDRAC7 Enterprise ライセンスへのアップグレードが必要です。

iDRAC の使用についての詳細は、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) の **Software ( ソフトウェア ) > Systems Management ( システム管理 ) > Dell Remote Access Controllers** で『iDRAC7 User's Guide』( iDRAC7 ユーザーズガイド ) を参照してください。

## iDRAC 設定ユーティリティの起動

1. 管理対象システムの電源を入れるか、再起動します。
2. POST 中に <F2> を押します。
3. **System Setup Main Menu** ( セットアップユーティリティのメインメニュー ) ページで **iDRAC Settings** ( iDRAC 設定 ) をクリックします。  
iDRAC Settings ( iDRAC 設定 ) 画面が表示されます。

## 温度設定の変更

iDRAC 設定ユーティリティでは、お使いのシステムの温度制御設定を選択してカスタマイズすることができます。

1. iDRAC 設定ユーティリティを起動します。
2. **iDRAC Settings (iDRAC 設定) > Thermal (温度) > User Option (ユーザーオプション)** で、次のオプションのいずれかを選択します。
  - Default (デフォルト)
  - Maximum Exhaust Temperature (最大排気温度)
  - Fan Speed Offset (ファン速度オフセット)

 **メモ:** User Option (ユーザーオプション) がデフォルトの Auto (自動) に設定されている場合、ユーザーオプションは変更できません。
3. **Maximum Air Exhaust Temperature (最大排気温度)** または **Fan Speed Offset (ファン速度オフセット)** フィールドを設定します。
4. **Back (戻る) > Finish (終了) > Yes (はい)** をクリックします。

# システムコンポーネントの取り付け

## トピック：

- ・ 奨励するツール
- ・ 前面ベゼル ( オプション )
- ・ システムスタビライザー—タワーモード
- ・ ホイールアセンブリ ( オプション )—タワーモード
- ・ システムカバーの開閉
- ・ システムの内部
- ・ オプティカルドライブとテープドライブ ( オプション )
- ・ 冷却用エアフローカバー
- ・ ハードドライブ—ホットスワップ対応
- ・ ハードドライブ—ケーブル接続済み
- ・ ハードドライブバックプレーン
- ・ 4 スロットハードドライブダミー
- ・ System Memory
- ・ 冷却ファン
- ・ 内蔵 USB メモリキー ( オプション )
- ・ PCIe カードホルダ ( オプション )
- ・ 拡張カード
- ・ iDRAC ポートカード
- ・ 内蔵デュアル SD モジュール
- ・ 内蔵 SD カード
- ・ プロセッサ
- ・ 冗長 AC 電源ユニット
- ・ 非冗長 AC 電源ユニット
- ・ 配電基板と電源干渉基板
- ・ システムバッテリー
- ・ コントロールパネルアセンブリ
- ・ システム基板

## 奨励するツール

本項の手順を実行するには、以下のものがが必要です。

- システムキーロックのキー
- #1 および #2 のプラスドライバ
- アースされた静電気防止用リストバンド

## 前面ベゼル ( オプション )

### 前面ベゼルの取り付け

1. ベゼルタブをシャーシのベゼルタブスロットに挿入します。
2. ベゼルが所定の位置に固定されるまで、ベゼルの上端をシャーシに押し込みます。
3. ベゼルキーをキーロックに挿入します。
4. キーロックをベゼルキーで押したまま、ロック位置に回します。

**メモ:** ベゼルキーは、ベザル内側にテープで貼り付けられています。

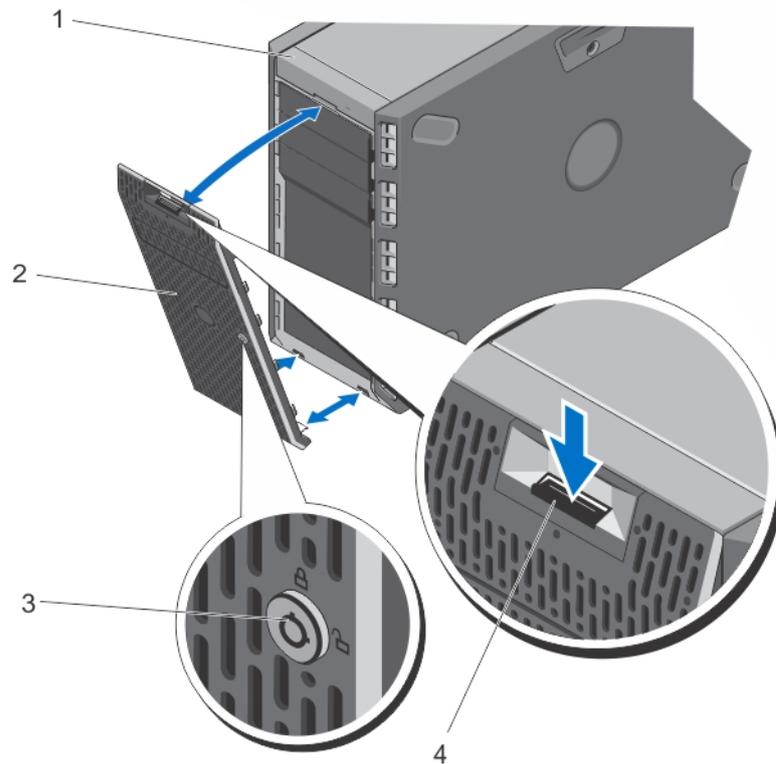


図 11. 前面ベゼルの取り外しと取り付け

- |          |            |
|----------|------------|
| 1. システム  | 2. 前面ベゼル   |
| 3. キーロック | 4. リリースラッチ |

## 前面ベゼルの取り外し

1. ベゼルキーをキーロックに挿入します。
2. キーロックをベゼルキーで押したまま、アンロック位置に回します。
3. ベゼル上部のリリースラッチを押し下げます。
4. ベゼルの上端をシステムから離れる方向に動かします。
5. ベゼルタブをシャーシ前面のスロットから外します。

## システムスタビライザー—タワーモード

システムスタビライザーは、タワーモードのシステムを安定させます。

### システムスタビライザーの取り外し

**メモ:** システムをタワーモードからラックモードに変える場合、またはシステムスタビライザーをホイールアセンブリに交換する場合にのみ、システムスタビライザーを取り外すことをお勧めします。

1. システムスタビライザーを内側に回します。
2. システムを安定した平面に横向きに置きます。
3. システムスタビライザーをタワーのベースに固定しているネジを外します。

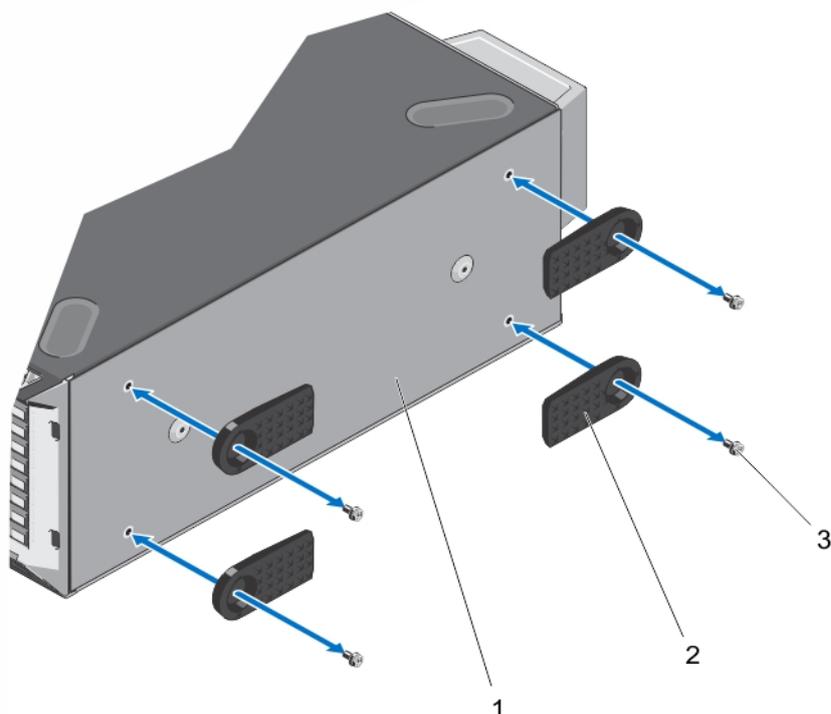


図 12. システムスタビライザーの取り外しと取り付け

- a. タワーのベース
- b. システムスタビライザー (4)
- c. ネジ (4)

## システムスタビライザーの取り付け

1. システムを安定した平面に横向きに置きます。
2. システムスタビライザーをタワーのベースにネジで固定します。
3. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます。

## ホイールアセンブリ (オプション) — タワーモード

ホイールアセンブリにより、タワーモードのシステムを移動させることが可能になります。

ホイールアセンブリは次のコンポーネントで構成されています。

- ホイールアセンブリユニット (前面と背面)
- ホイールアセンブリユニット用の 2 本のネジ
- 2 本のネジで固定するサポートユニット

## ホイールアセンブリの取り外し

1. システムを硬い安定した平面に配置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
2. サポートユニットをシャーシのベースに固定している 2 本のネジを外して、サポートユニットを引き出します。
3. ホイールアセンブリユニットをシャーシのベースに固定しているネジを外します。
4. 前面ホイールアセンブリユニットをシステム背面へと少しずらして、保持フックを外し、前面ホイールアセンブリユニットを引き出します。
5. 背面ホイールアセンブリユニットをシャーシのベースに固定しているネジを外します。

- 背面ホイールアセンブリユニットをシステム前面へと少しずらして、保持フックを外し、背面ホイールアセンブリユニットを引き出します。
- ホイールアセンブリを交換しない場合は、システムスタビライザーを取り付けます。
- システムを安定した平面に置いて、システムスタビライザーを外側に開きます。

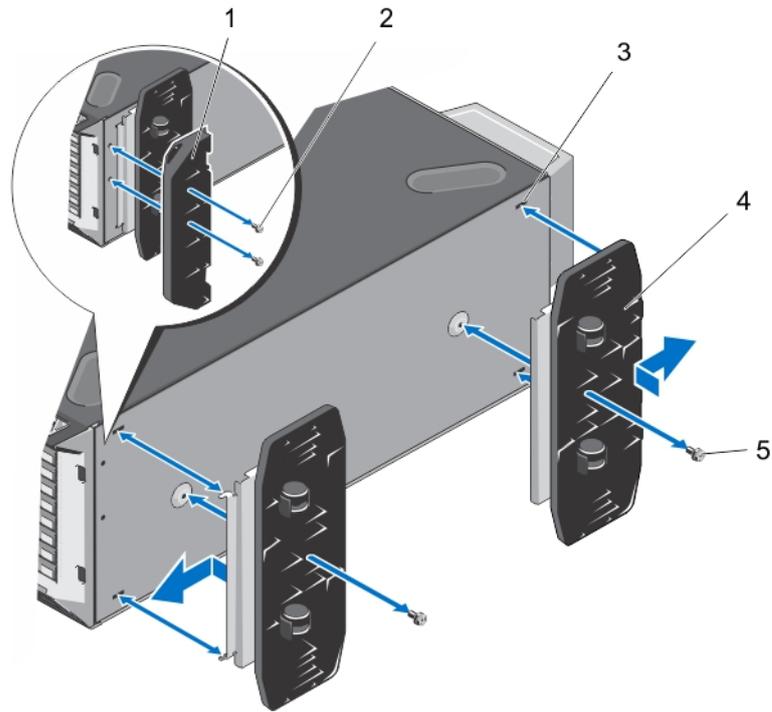


図 13. ホイールアセンブリの取り外しと取り付け

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1. サポートユニット         | 2. サポートユニットのネジ (2)   |
| 3. タワーのベースのスロット (4) | 4. ホイールアセンブリユニット (2) |
| 5. ホイールアセンブリのネジ (2) |                      |

## ホイールアセンブリの取り付け

- 必要に応じて、システムスタビライザーを内側に回します。
- システムを硬い安定した平面に横向きに配置して、システムのベースが平面の端から出た状態にします。
- 必要に応じて、システムスタビライザーを取り外します。
- 背面ホイールアセンブリユニットの2つの保持フックを、シャーシ基部の2つのスロットに合わせて挿入します。
- 背面ホイールアセンブリをシステムの背面に向けて少しずらし、1本のネジでユニットを所定の位置に固定します。
- 前面ホイールアセンブリの2つの保持フックを、シャーシ基部の2つのスロットに合わせて挿入します。
- 前面ホイールアセンブリを正面に向けて少しずらし、1本のネジでユニットを所定の位置に固定します。
- サポートユニットを2本のネジで、シャーシの基部に取り付けます。
- システムを安定した平面に縦置きにします。

## システムカバーの開閉

- ① **メモ:** システムを持ち上げる必要がある場合は、必ずだれかの手を借りてください。けがを防ぐため、決してシステムを一人で持ち上げようとしないでください。
- ① **メモ:** システムの電源が入っている状態でシステムカバーを開いたり取り外したりすると、感電するおそれがあります。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムは、カバー無しで5分以上動作させないでください。

## システムカバーの取り外し

① **メモ:** システム内部のコンポーネントの取り外しや取り付けを行う際には、静電マットと静電ストラップを常に使用することをお勧めします。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. ドライバを使って、システムカバーのラッチリリースロックを反時計方向に回し、アンロックの位置にします。
4. カバーリリースラッチを押してカバーをシステムから持ち上げます。

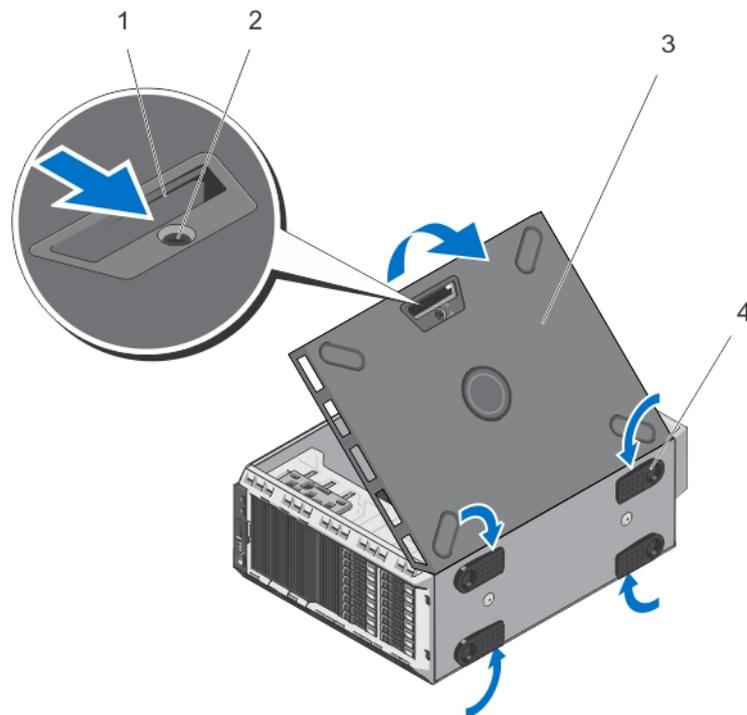


図 14. システムカバーの取り外しと取り付け

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1. カバーリリースラッチ | 2. ラッチリリースロック     |
| 3. システムカバー    | 4. システムスタビライザー（4） |

## システムカバーの取り付け

1. すべての内部ケーブルが確実に接続され、邪魔にならないように束ねられていて、システム内部に工具や余分な部品が残っていないことを確認します。
2. システムカバーの下端をシステムシャーシの対応するスロットに入れます。
3. システムカバーをシャーシに被せます。

4. ラッチが所定の位置にロックされるまで、システムカバーのラッチがある側をシャーシに押し込みます。
5. ラッチリリースロックを時計方向に回してロック位置にします。
6. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
7. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## システムの内部

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**① メモ:** ホットスワップ対応のコンポーネントはオレンジ色のマークが付いており、コンポーネントのタッチポイントは青色のマークが付いています。

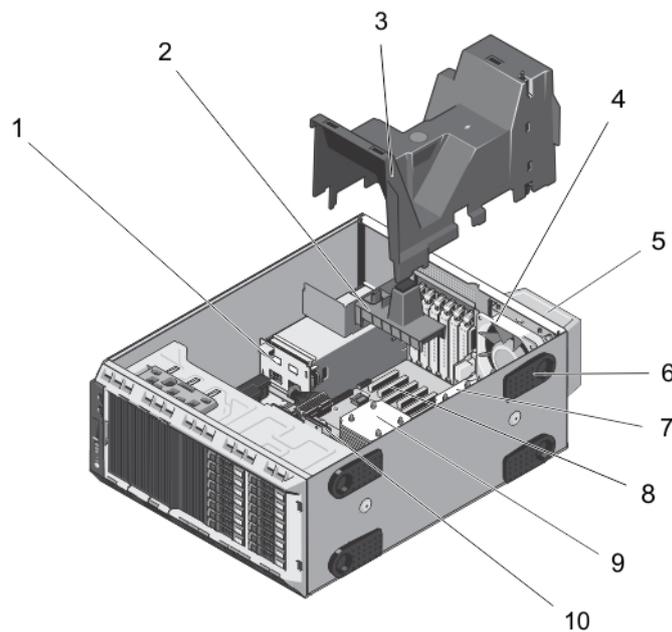


図 15. システムの内部—ホットスワップ対応ハードドライブ搭載

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 電源干渉基板           | 2. PCIe カードホルダ（オプション） |
| 3. 冷却用エアフローカバー      | 4. 内蔵の冷却ファン           |
| 5. 外付けの冷却ファン（オプション） | 6. システムスタビライザー（4）     |
| 7. プロセッサ2のヒートシンク    | 8. 拡張カードスロット（6）       |
| 9. プロセッサ1のヒートシンク    | 10. ハードドライブバックプレーン    |

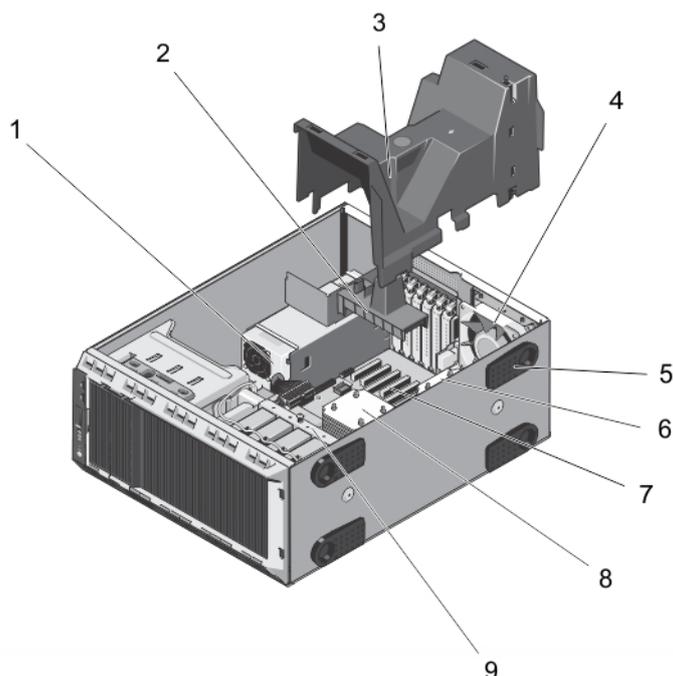


図 16. システムの内部—ケーブル接続されたハードドライブ搭載

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| 1. ケーブル接続された電源ユニット   | 2. PCIe カードホルダ ( オプション ) |
| 3. 冷却用エアフローカバー       | 4. 内蔵の冷却ファン              |
| 5. システムスタビライザー ( 4 ) | 6. プロセッサ 2 のヒートシンク       |
| 7. 拡張カードスロット ( 6 )   | 8. プロセッサ 1 のヒートシンク       |
| 9. 内蔵ハードドライブベイ       |                          |

## オプティカルドライブとテープドライブ ( オプション )

お使いのシステムでは、以下のいずれかの構成がサポートされています。

- ケーブル接続されたドライブを搭載しているシステムでは、オプティカルドライブ 1 台とテープドライブ 1 台をサポートします。
- ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムでは、オプティカルドライブ 2 台までとテープドライブ 1 台をサポートします。

**メモ:** システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージ 1 台のみがサポートされます。

**メモ:** オプティカルドライブは、Dell PowerVault RD1000 リムーバブルメディアデバイスに交換できます。

ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムの場合、オプティカルドライブとテープドライブを次のように構成できます。

スロット 1	SATA オプティカルドライブまたは PowerVault RD1000
スロット 2	SATA オプティカルドライブまたは PowerVault RD1000 またはダミー
スロット 3	SAS テープドライブまたはダミー

## オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 ( 内部作業 ) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
  - ① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブの背面から外します。
 

シャーシに配線されている電源ケーブルとデータケーブルをシステム基板とドライブから外す際には、配線経路をメモしておきます。これらのケーブルを再び取り付ける際に、挟まれたり折れ曲がったりしないように、正しく配線する必要があります。
5. ドライブを取り外すには、リリースラッチをシステムの下方向に押します。
6. ドライブをシステムから引き出して、ドライブベイから外します。
  - ① メモ:** ドライブをずっと外したままにする場合は、スロットにダミーを取り付けます。
  - ① メモ:** FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空のオプティカルドライブまたはテープドライブのスロットにフィルターブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける役割もあります。
7. システムカバーを閉じます。
8. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。
9. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
10. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

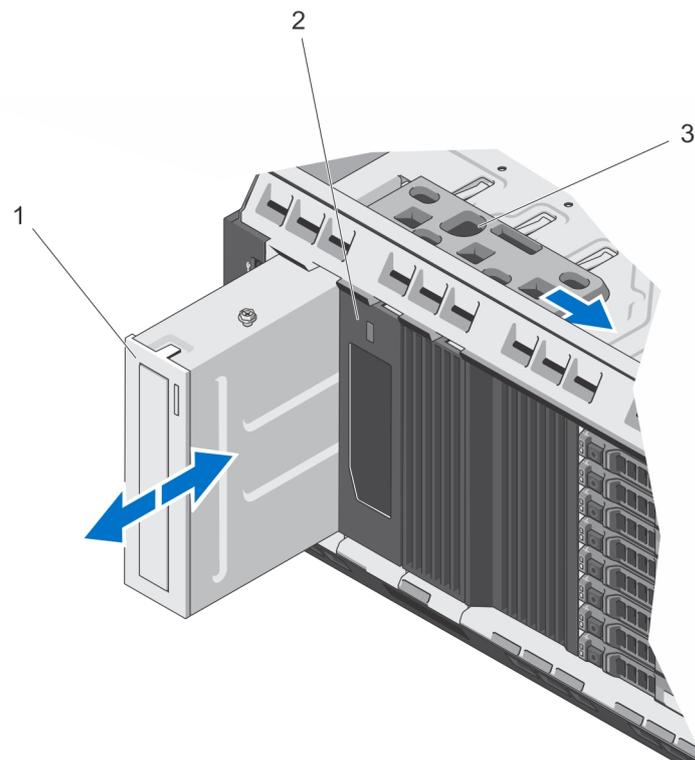


図 17. オプティカルドライブまたはテープドライブの取り外しと取り付け

- a. オプティカルドライブ
- b. テープドライブ
- c. リリースラッチ

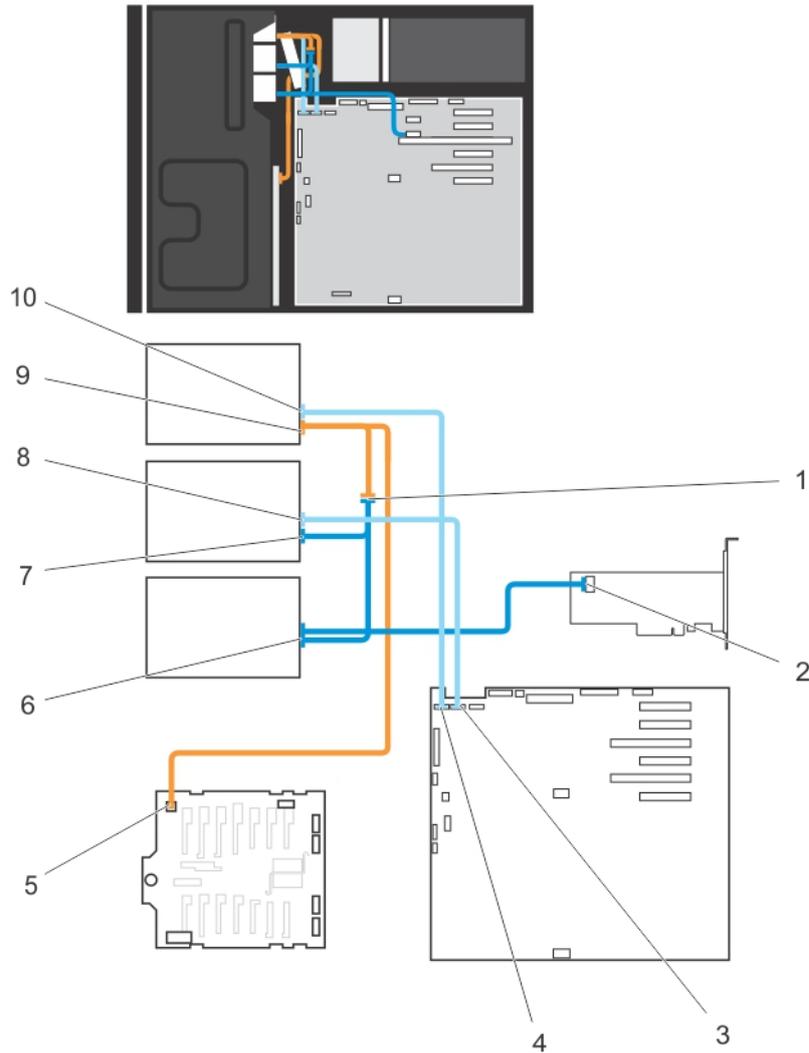


図 18. ケーブル接続—オプティカルドライブとテープドライブ

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 電源延長ケーブルのコネクタ         | 2. PERC カードのミニ SAS コネクタ   |
| 3. システム基板の ODD2/TBU コネクタ | 4. システム基板の ODD1/TBU コネクタ  |
| 5. x8 バックプレーンの電源コネクタ     | 6. SAS テープドライブのデータ/電源コネクタ |
| 7. オプティカルドライブ 2 の電源コネクタ  | 8. オプティカルドライブ 2 のデータコネクタ  |
| 9. オプティカルドライブ 1 の電源コネクタ  | 10. オプティカルドライブ 1 のデータコネクタ |

## オプティカルドライブまたはテープドライブの取り付け

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

- ドライブをパッケージから取り出して、取り付けの準備をします。  
手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。  
SAS テープドライブを取り付ける場合は、内蔵 SAS 拡張カードを取り付けている必要があります。「拡張カードの取り付け」を参照。
- 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。

3. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
4. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
5. システムカバーを開きます。
6. 古いドライブまたはドライブダミーがある場合は取り外します。
7. ドライブをドライブベイに合わせます。
8. ラッチがカチッと固定されるまで、ドライブをスロットに挿入します。
9. ドライブの背面に電源ケーブルとデータケーブルを接続します。
10. 電源ケーブルとデータケーブルをバックプレーンとシステム基板に接続します。
 

システム基板コネクタは ODD1/TBU および ODD2/TBU です。システムは Dell OpenManage IT Assistant を使用することで、2 台までのオプティカル・ドライブ、または 1 台のオプティカルドライブと 1 台の SATA テープバックアップユニット、および 1 台の SAS テープバックアップユニットを接続できます。

  - ① **メモ:** ソフトウェア RAID が構成され、PowerVault RD1000 が取り付けられたシステムの場合は、PowerVault RD1000 のデータケーブルをシステム基板の ODD1/TBU (SATA\_E) ポートに、オプティカルドライブのデータケーブルをシステム基板の ODD2/TBU (SATA\_F) ポートにそれぞれ接続します。
11. システムカバーを閉じます。
12. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
13. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
14. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## 冷却用エアフローカバー

### 冷却用エアフローカバーの取り外し

- △ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。
  - △ **注意:** 冷却用エアフローカバーを取り外した状態でシステムを使用しないでください。システムが急激にオーバーヒートする可能性があります。システムのシャットダウンや、データ損失の原因となります。
1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
  2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを平面に横向きに配置します（該当する場合）。
    - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
  3. システムカバーを開きます。
  4. 冷却用エアフローカバーを持ち上げてシステムから取り出します。

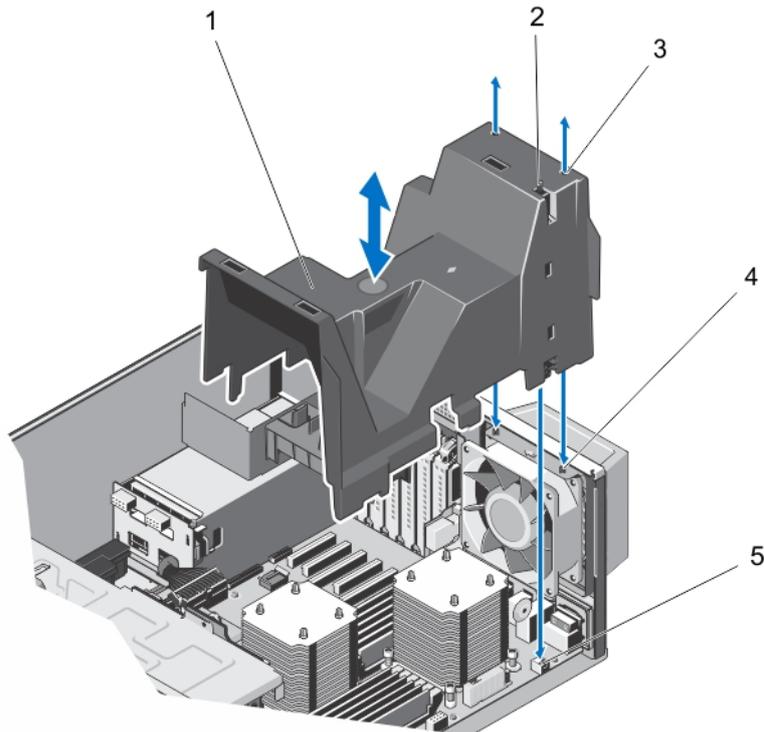


図 19. 冷却用エアフローカバーの取り外しと取り付け

- |                               |                     |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 冷却用エアフローカバー                | 2. シャーシントルージョンスイッチ  |
| 3. スロット (2)                   | 4. システム冷却ファンのタブ (2) |
| 5. システム基板のシャーシントルージョンスイッチコネクタ |                     |

## 冷却用エアフローカバーの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**△ 注意:** システムはカバーを外したまま 5 分以上動作させないでください。

**① メモ:** 冷却用エアフローカバーをシステムシャーシに正しく装着するため、システム内のケーブルがシャーシ側面に沿って配線されており、ケーブル固定クリップで固定されていることを確認してください。

1. 冷却用エアフローカバーの 2 つのスロットを、内蔵の冷却ファンのタブに合わせます。
2. 冷却用エアフローカバーの 2 つのスロットが内蔵の冷却ファンのタブにぴったり合わさるまで、冷却ファン用エアフローカバーをシャーシに押し下げます。

**① メモ:** 冷却用エアフローカバーが正しく装着すると、冷却用エアフローカバーのシャーシントルージョンスイッチが、システム基板のシャーシントルージョンスイッチコネクタに接続します。

3. システムカバーを閉じます。
4. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
5. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## ハードドライブ—ホットスワップ対応

お使いのシステムでは、以下のいずれかの構成がサポートされています。

- ホットスワップ対応の 3.5 インチ (SAS、SATA、または SSD) ハードドライブ 8 台まで
- ホットスワップ対応の 2.5 インチ (SAS、SATA、または SSD) ハードドライブ 8 台まで。これらを 3.5 インチハードドライブアダプタに取り付けた後、アダプタを 3.5 インチハードドライブキャリアに搭載
- ホットスワップ対応の 2.5 インチ (SAS、SATA、または SSD) ハードドライブ 16 台まで

△ **注意:** システムの動作中にホットスワップ対応ドライブを取り付けたり取り外したりする前に、ストレージコントローラカードのマニュアルを参照して、ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しと挿入をサポートするように、ホストアダプタが正しく設定されていることを確認します。

△ **注意:** ハードドライブのフォーマット中は、システムの電源を切ったり、再起動したりしないでください。電源を切ったり再起動を行ったりすると、ハードドライブが故障する恐れがあります。大容量ハードドライブのフォーマットには数時間かかることがあるので注意してください。

① **メモ:** 全てのホットスワップ対応のハードドライブは、ハードドライブバックプレーンを介してシステム基板に接続されます。ハードドライブは、ハードドライブスロットに収まるホットスワップ対応ハードドライブキャリア内に設置されます。

① **メモ:** ハードドライブバックプレーン用として使用が認められているテスト済みのホットスワップ対応ハードドライブのみを使用してください。

## ホットスワップ対応ハードドライブの取り外し

△ **注意:** データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップによるドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

1. サーバー管理ソフトウェアでは、**取り外しの準備**タスクを使用して物理ディスクをスピンドルダウンし、システムから安全に取り外せるようにします。ハードドライブの安全な取り外しが可能であることをハードドライブキャリア上のインジケータが示すまで待ちます。詳細については、[Dell.com/support](http://Dell.com/support) でサーバー管理ソフトウェアに関するドキュメントを参照してください。ハードドライブがオンラインの場合、緑色のアクティビティ/障害インジケータが点滅します。ハードドライブインジケータが消えたら、ハードドライブを安全に取り外すことができます。
2. リリースボタンを押してハードドライブキャリアリリースハンドルを開きます。
3. ハードドライブスロットから外れるまで、ハードドライブキャリアを手前に引き出します。

△ **注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

4. ハードドライブダミーを空のハードドライブスロットに挿入します。

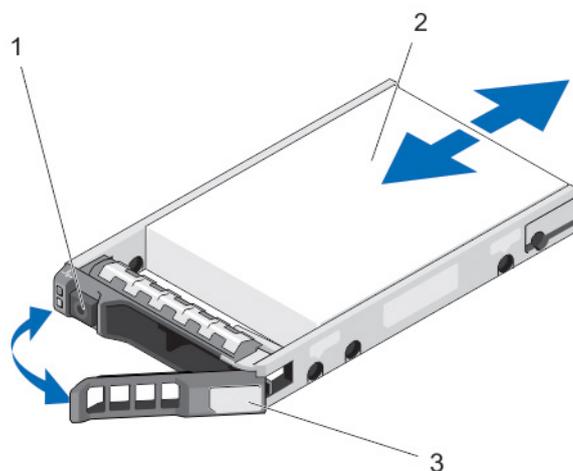


図 20. ホットスワップ対応ハードドライブの取り外しと取り付け

1. リリースボタン

2. ハードドライブ
3. ハードドライブキャリアハンドル

## ホットスワップ対応ハードディスクドライブの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** ハードディスクドライブバックプレーンとの使用がテストおよび承認済みのハードディスクドライブのみを使用してください。

△ **注意:** 同じ RAID ボリューム内での SAS および SATA ハードディスクドライブの組み合わせはサポートされていません。

△ **注意:** ハードディスクドライブの取り付け時は、隣接するドライブが完全に取り付けられている事を確認してください。完全に取り付けられていないキャリアの隣にハードディスクキャリアを挿入してハンドルをロックしようとする、完全に取り付けられていないキャリアのシールドバネが損傷し、使用できなくなる可能性があります。

△ **注意:** データの損失を防ぐために、お使いのオペレーティングシステムがホットスワップによるドライブの取り付けに対応していることを確認してください。お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

△ **注意:** ホットスワップ対応の交換用ハードディスクドライブを取り付け、システムの電源を入れると、ハードディスクドライブの再構築が自動的に始まります。交換用ハードディスクドライブが空であるか、または上書きしてよいデータのみが格納されていることの確認を確実に行ってください。交換用ハードディスクドライブ上のデータはすべて、ハードディスクドライブの取り付け後ただちに失われます。

1. ハードディスクドライブスロットにハードディスクドライブダミーが取り付けられている場合は、ダミーを取り外してください。
2. ハードディスクドライブキャリアにハードディスクドライブを取り付けます。
3. ハードディスクドライブキャリア前面のリリースボタンを押して、ハードディスクドライブのハンドルを開きます。
4. ハードディスクドライブキャリアがバックプレーンに接続されるまで、キャリアをハードディスクドライブスロットに挿入します。
5. ハードディスクドライブのキャリアハンドルを閉じて、ハードディスクドライブを所定の位置にロックします。

## 2.5 インチハードドライブダミーの取り外し

△ **注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. リリースボタンを押し、ハードドライブダミーをハードドライブスロットから完全に引き出します。

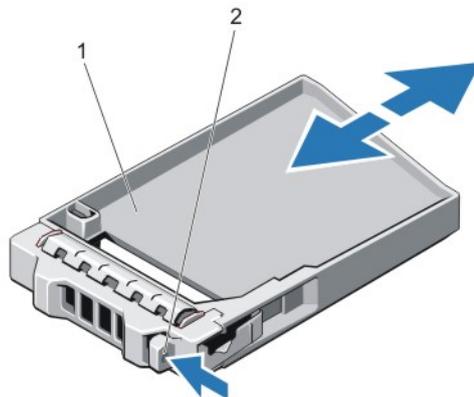


図 21. 2.5 インチハードドライブダミーの取り外しと取り付け

1. ハードドライブダミー

## 2. リリースボタン

### 2.5 インチハードディスクドライブダミーの取り付け

1. 必要であれば、前面ベゼルを取り外します。
2. ハードディスクドライブスロットに、リリースボタンが所定の位置にカチッと収まるまでハードディスクドライブダミーを挿入します。
3. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

### 3.5 インチハードドライブダミーの取り外し

**△注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにドライブダミーを取り付ける必要があります。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. ハードドライブダミーの前面を持ち、リリースボタンを押しながら、ハードドライブスロットから外れるまでダミーを手前に引き出します。

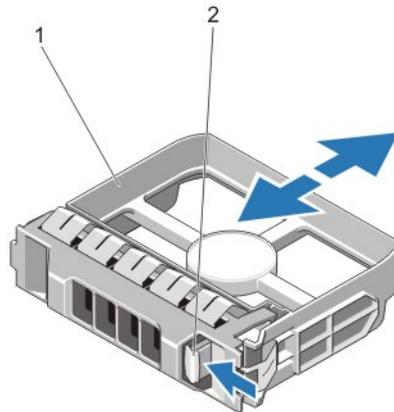


図 22. 3.5 インチハードドライブダミーの取り外しと取り付け

1. ハードドライブダミー
2. リリースボタン

### 3.5 インチハードドライブダミーの取り付け

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. リリースボタンがカチッと固定されるまで、ハードドライブダミーをハードドライブスロットに挿入します。
3. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

### 3.5 インチハードドライブアダプタからの 2.5 インチハードドライブの取り外し

**ⓘメモ:** 2.5 インチハードドライブは 3.5 インチハードドライブアダプタに取り付けられており、ハードドライブアダプタは 3.5 インチハードドライブキャリアに取り付けられています。

1. 3.5 インチハードドライブアダプタの側面から 2 本のネジを外します。
2. ハードドライブをハードドライブアダプタから取り外します。

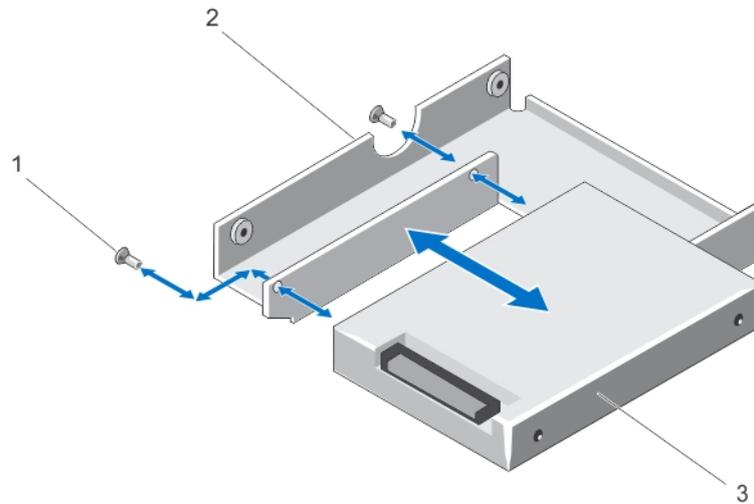


図 23. 3.5 インチハードドライブアダプタからの 2.5 インチハードドライブの取り外しと取り付け

- a. ネジ (2)
- b. 3.5 インチハードドライブアダプタ
- c. 2.5 インチハードドライブ

## 2.5 インチハードドライブを 3.5 インチハードドライブアダプタに取り付ける方法

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 2.5 インチハードドライブのネジ穴を 3.5 インチハードドライブアダプタのネジ穴に合わせます。
2. ネジを取り付けて、ハードドライブをハードドライブアダプタに固定します。

## ハードドライブまたはハードドライブアダプタをハードドライブキャリアから取り外す方法

1. ハードドライブキャリアのスライドレールからネジを外します。
2. ハードドライブアダプタを持ち上げてハードドライブキャリアから取り出します。

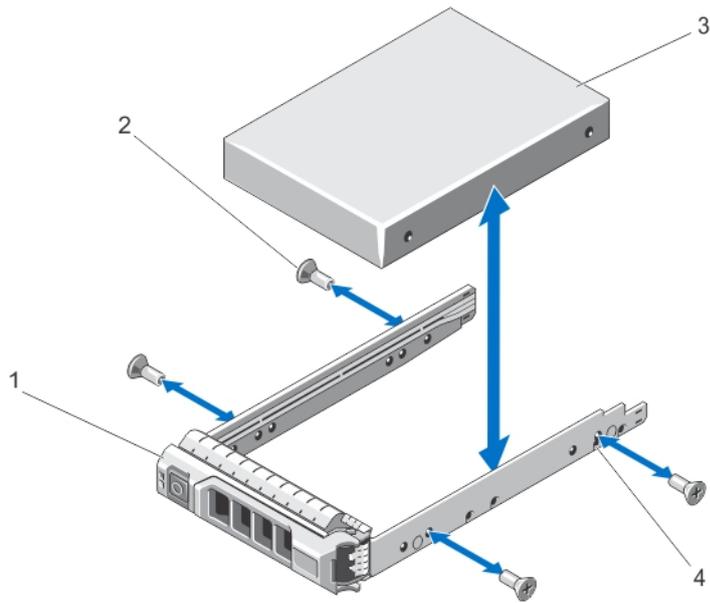


図 24. ホットスワップ対応ハードドライブをハードドライブキャリアから取り外す/取り付ける方法

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. ハードドライブキャリア | 2. ネジ (4)  |
| 3. ハードドライブ     | 4. ネジ穴 (4) |

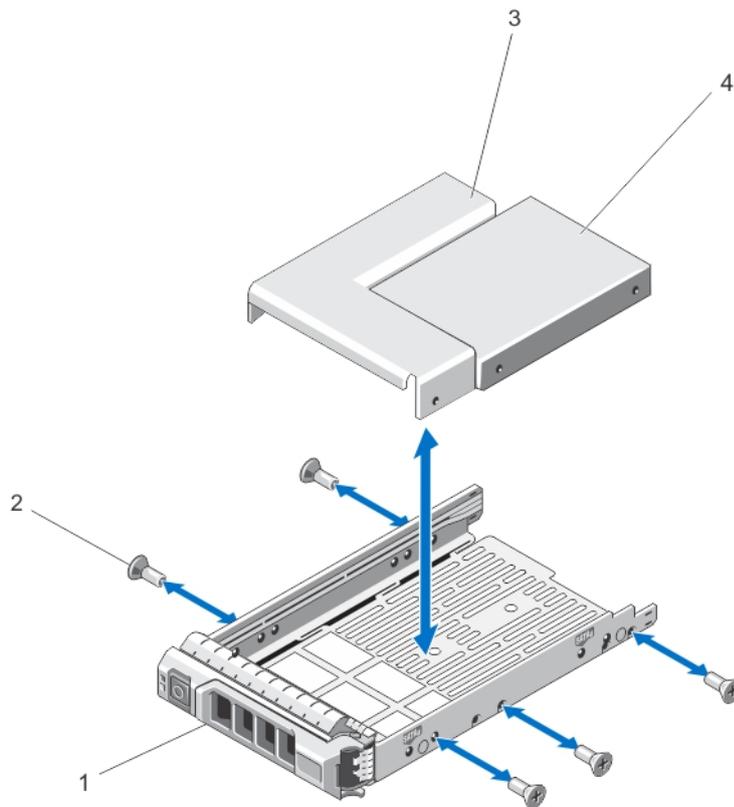


図 25. ハードドライブアダプタを 3.5 インチハードドライブキャリアから取り外す/取り付ける方法

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. ハードドライブキャリア | 2. ネジ (5) |
|----------------|-----------|

## ハードドライブまたはハードドライブアダプタをハードドライブキャリアに取り付ける方法

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. ハードドライブのコネクタ側を後部に向けて、ハードドライブアダプタをハードドライブキャリアに挿入します。
2. ハードドライブのネジ穴をハードドライブキャリアの後部の穴に合わせます。  
正しく揃うと、ハードドライブの背面がハードドライブキャリアの背面と同一面に揃います。
3. ネジを取り付けて、ハードドライブをハードドライブキャリアに固定します。

## ハードドライブケーブル接続済み

お使いのシステムでは、ケーブル接続された 3.5 インチ（SAS または SATA）ハードドライブを 4 台までサポートします。ケーブル接続されたハードドライブは、内蔵ハードドライブベイに取り付けられます。

**△ 注意:** ハードドライブのフォーマット中は、システムの電源を切ったり、再起動を行ったりしないでください。ハードドライブの故障の原因となります。

**① メモ:** お使いのシステムでの使用が認められているテスト済みのハードディスクドライブのみを使用してください。

## 内蔵ハードドライブベイの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. データケーブルと電源ケーブルをハードドライブから外します。
5. 内蔵ハードドライブベイをシャーシに固定している 2 本の拘束ネジを緩めます。
6. 内蔵ハードドライブベイをシャーシから持ち上げて取り出します。

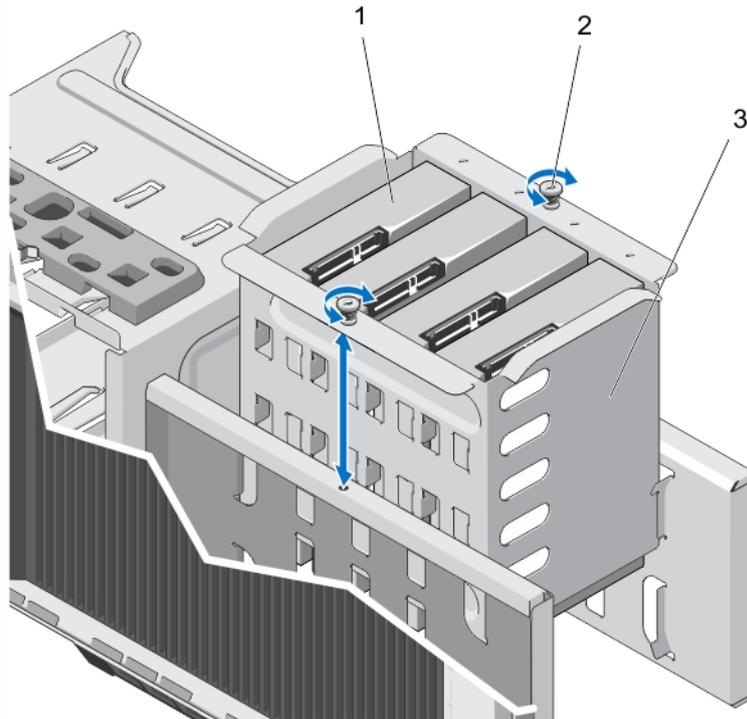


図 26. 内蔵ハードドライブベイの取り付けと取り外し

- a. ケーブル接続されたハードドライブ (4)
- b. 拘束ネジ (2)
- c. 内蔵ハードドライブベイ

## 内蔵ハードドライブベイの取り付け

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 内蔵ハードドライブベイをシャーシのタブに合わせて、シャーシ内にスライドします。
2. 内蔵ハードドライブベイを2本の拘束ネジでシャーシに固定します。
3. データケーブルと電源ケーブルをハードドライブに接続します。
4. システムカバーを閉じます。
5. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます。
6. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## ケーブル接続されたハードドライブの取り外し

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. 電源ケーブルとデータケーブルを内蔵ハードドライブベイ内のハードドライブから取り外します。
5. 内蔵ハードドライブベイを取り外します。
6. ハードドライブを内蔵ハードドライブベイに固定している4本のネジを外します。
7. ハードドライブベイからハードドライブを取り外します。
8. 内蔵ハードドライブベイをシャーシ内に取り付けます。
9. 電源ケーブルとデータケーブルを内蔵ハードドライブベイ内の残りのハードドライブに適宜接続します。

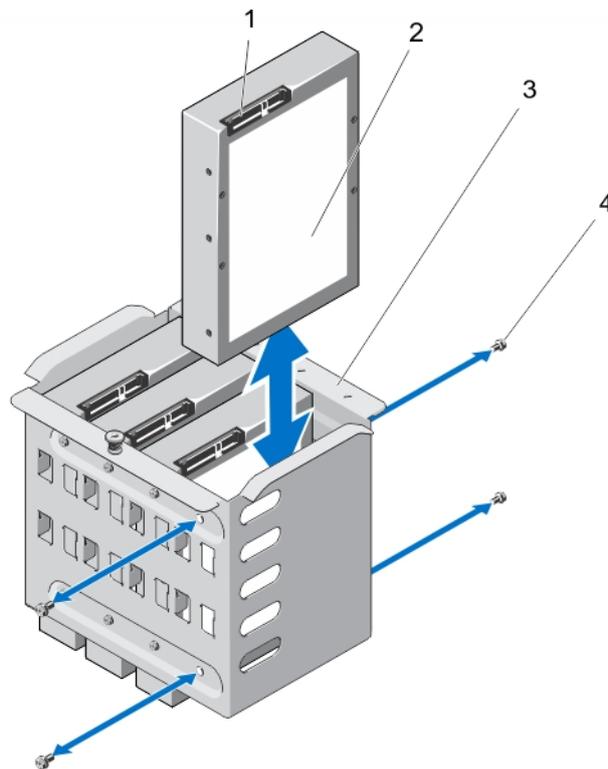


図 27. ケーブル接続されたハードドライブの取り外しと取り付け

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. ハードドライブコネクタ | 2. ハードドライブ |
| 3. 内蔵ハードドライブベイ | 4. ネジ (4)  |

## ケーブル接続されたハードドライブの取り付け

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. 電源ケーブルとデータケーブルを内蔵ハードドライブベイ内のハードドライブから取り外します。
5. 内蔵ハードドライブベイを取り外します。

6. ハードドライブコネクタが外側に向くようにして、ハードドライブを内蔵ハードドライブベイに挿入します。
7. 4本のネジを使って、ハードドライブを内蔵ハードドライブベイに固定します。
8. 内蔵ハードドライブベイをシャーシ内に取り付けます。
9. 電源ケーブルとデータケーブルをハードドライブに接続します。
10. システムカバーを閉じます。
11. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます。
12. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
13. セットアップユーティリティを起動し、ハードドライブのコントローラが有効になっていることを確認します。
14. セットアップユーティリティを終了し、システムを再起動します。
15. ハードドライブのマニュアルに従って、ハードドライブの使用に必要なすべてのソフトウェアをインストールします。

## ハードドライブバックプレーン

お使いのシステムでは、以下のいずれかの構成がサポートされています。

- 3.5 インチハードドライブ用の x8 SAS/SATA バックプレーン
  - ① **メモ:** x8 バックプレーンは、ホットスワップ対応の 2.5 インチ (SAS、SATA、または SSD) ハードドライブも 8 台までサポートします。これらを 3.5 インチハードドライブアダプタに取り付けた後、アダプタを 3.5 インチハードドライブキャリアに搭載します。
- 2.5 インチハードドライブ用の x16 SAS/SATA バックプレーン
  - ① **メモ:** お使いのシステムバックプレーンでは、SAS/SATA SSD もサポートできます。
  - ① **メモ:** ハードドライブバックプレーンは、ホットスワップ対応のハードドライブのみを搭載したシステムでサポートされます。

## ハードドライブバックプレーンの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
  - △ 注意:** ドライブおよびバックプレーンの損傷を防ぐため、バックプレーンを取り外す前にハードドライブをシステムから取り外す必要があります。
  - △ 注意:** 後で同じ場所に取り付けることができるように、取り外す前に各ハードドライブのロット番号を書き留め、一時的にラベルを貼っておく必要があります。
3. すべてのハードドライブを取り外します。
4. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します (該当する場合)。
  - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状にします。
5. システムカバーを開きます。
6. SAS、電源、信号、および I2C のケーブルをハードドライブバックプレーンから外します。
  - ① **メモ:** x8 バックプレーンの場合、SAS コネクタを押し、コネクタをシステム上部に向かって押して、SAS ケーブルをバックプレーンから外します。
7. リリースピンを抜いて、バックプレーンをシステムから持ち上げます。

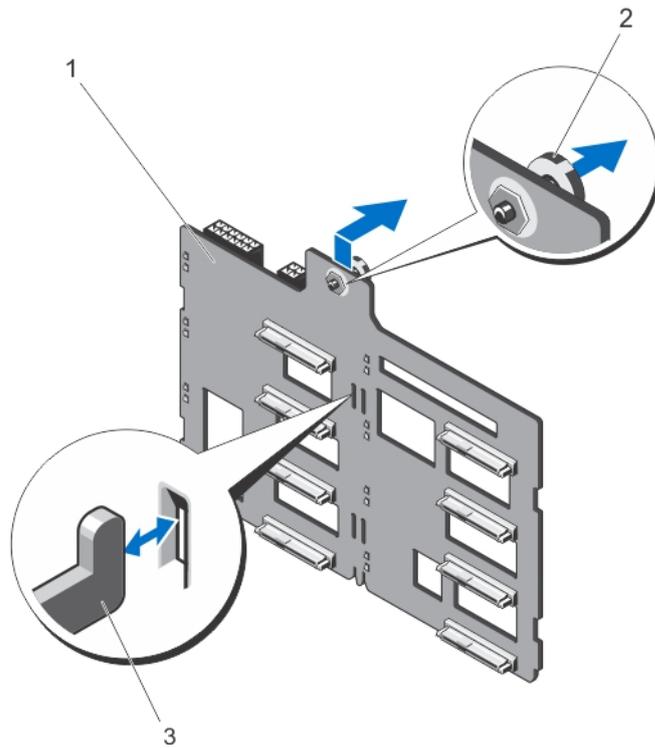


図 28. x8 ハードドライブバックプレーンの取り外しおよび取り付け

- a. x8 ハードドライブバックプレーン
- b. リリースピン
- c. フック (11)

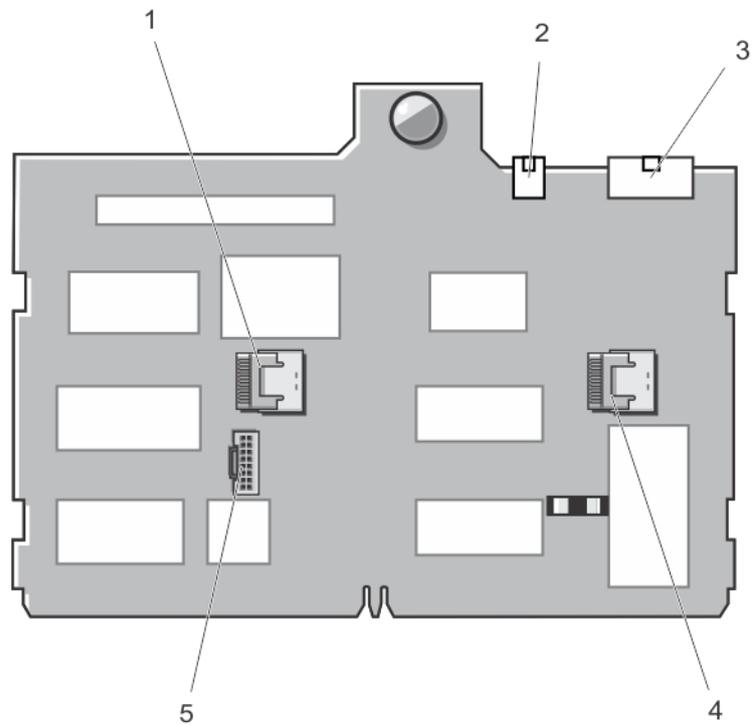


図 29. x8 ハードドライブバックプレーンのコネクタ

- 1. SAS B コネクタ
- 2. オプティカルドライブとテープドライブの電源コネクタ
- 3. バックプレーン電源コネクタ
- 4. SAS A コネクタ
- 5. SAS B コネクタ

## 5. I2C コネクタ

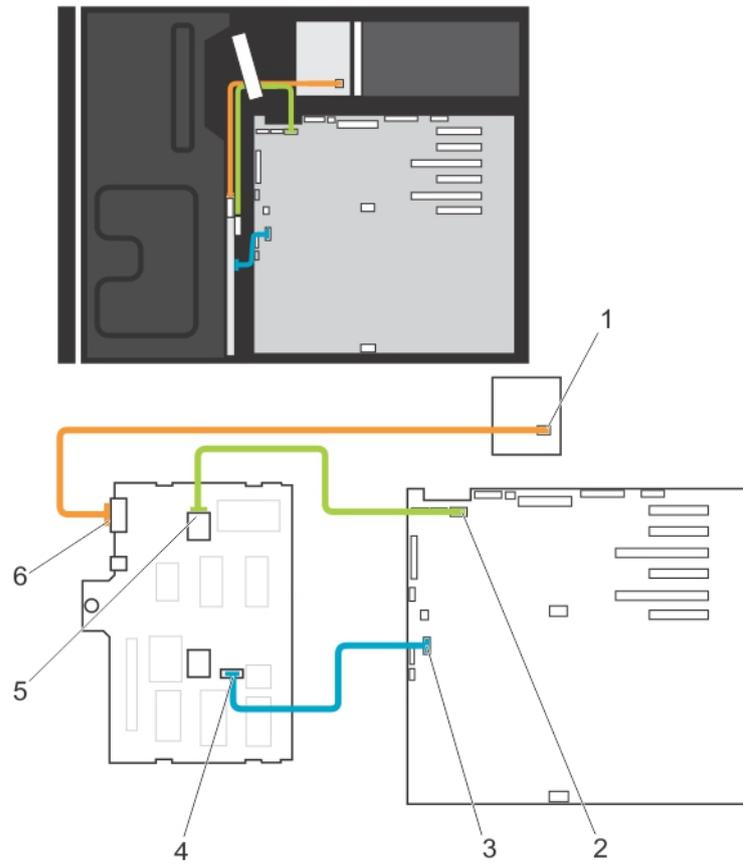


図 30. ケーブル接続—x8 ハードドライブバックプレーン

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 電源コネクタ              | 2. システム基板の SAS A コネクタ |
| 3. システム基板の I2C コネクタ    | 4. バックプレーンの I2C コネクタ  |
| 5. バックプレーンの SAS A コネクタ | 6. バックプレーン電源コネクタ      |

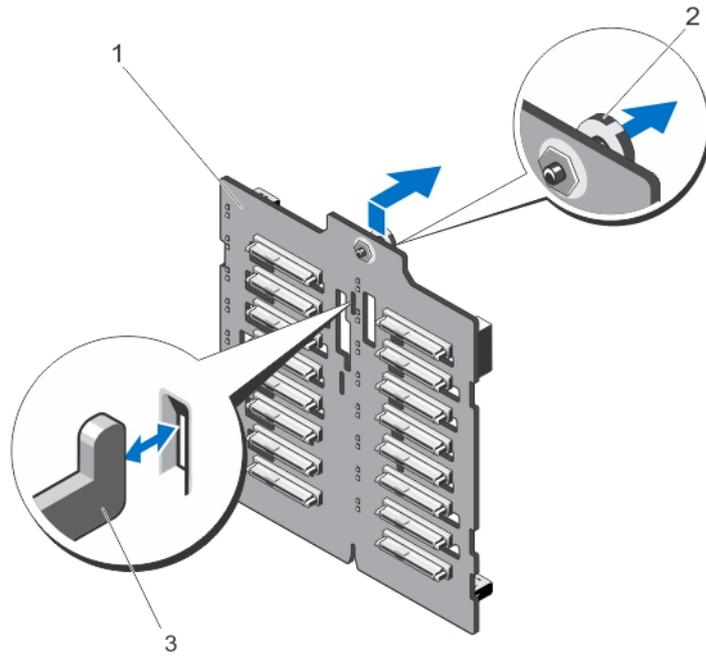


図 31. x16 ハードドライブバックプレーンの取り外しと取り付け

- a. x16 ハードドライブバックプレーン
- b. リリースピン
- c. フック (7)

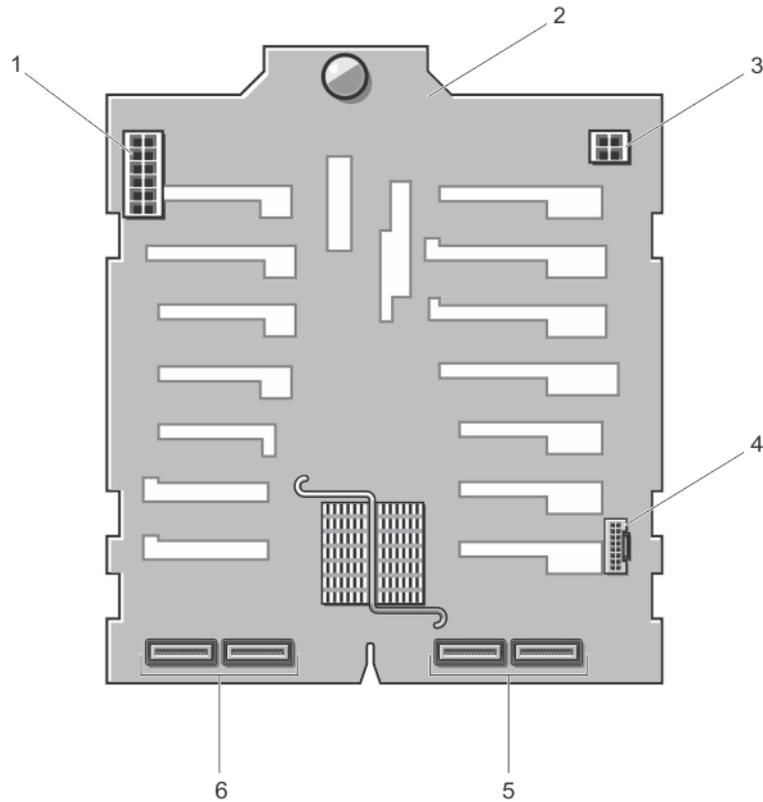


図 32. x16 ハードドライブバックプレーンのコネクタ

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1. バックプレーン電源コネクタ             | 2. バックプレーン                  |
| 3. オプティカルドライブとテープドライブの電源コネクタ | 4. I2C コネクタ                 |
| 5. プライマリ SAS コネクタ (A と B)    | 6. セカンダリ SAS コネクタ (A1 と B1) |

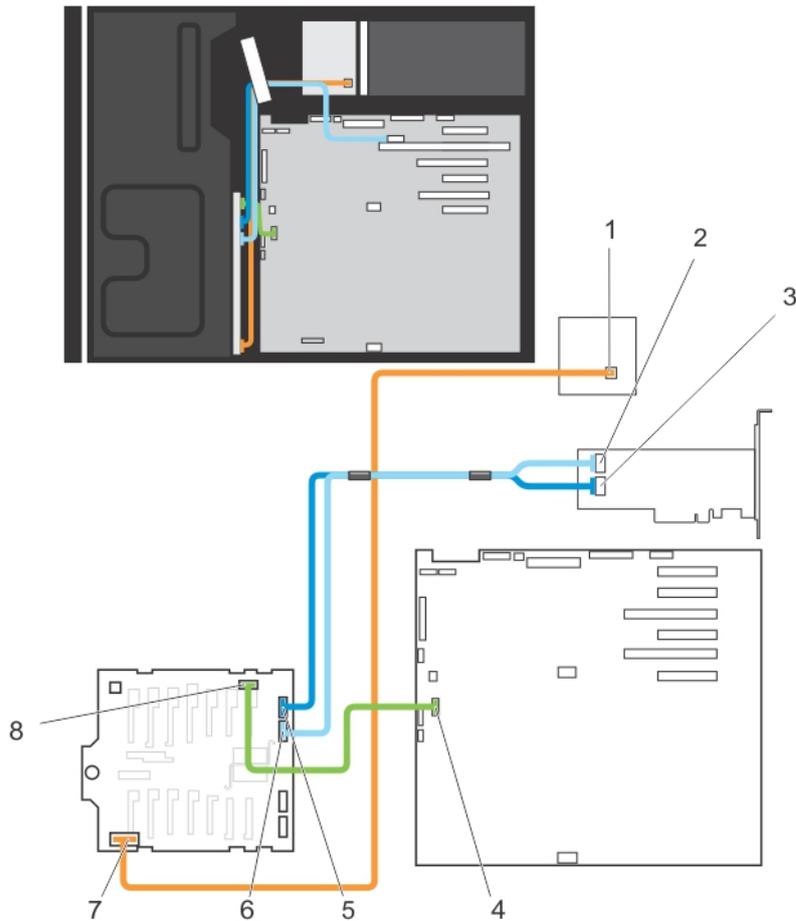


図 33. ケーブル接続—x16 ハードドライブバックプレーンと拡張カード

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 配電基板の電源コネクタ          | 2. PowerEdge RAID Controller ( PERC ) カードの SAS B コネクタ |
| 3. PERC カードの SAS A コネクタ | 4. システム基板の I2C コネクタ                                   |
| 5. バックプレーンの SAS A コネクタ  | 6. バックプレーンの SAS B コネクタ                                |
| 7. バックプレーン電源コネクタ        | 8. バックプレーンの I2C コネクタ                                  |

## ハードドライブバックプレーンの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. ハードドライブベイ背面のフックをガイドとして使用して、ハードドライブバックプレーンの位置を合わせます。
2. リリースピンがスロットにロックされるまで、ハードドライブバックプレーンを下方向にスライドさせます。
3. SAS、電源、信号、および I2C のケーブルをハードドライブバックプレーンに接続します。
4. ハードドライブを元の場所に取り付けます。
5. システムカバーを閉じます。
6. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
7. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
8. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## 4 スロットハードドライブダミー

ソフトウェア RAID 用に x8 ハードドライブバックプレーンが構成されたシステムでは、4 台のみのハードドライブをサポートします。残りのハードドライブスロットには、4 スロットハードドライブダミーがあらかじめ取り付けられており、ソフトウェア RAID 用に使用することはできません。

### 4 スロットハードドライブダミーの取り外し

**△ 注意:** システムの正常な冷却状態を維持するために、空のハードドライブスロットすべてにハードドライブダミーを取り付ける必要があります。

**① メモ:** これはサービス限定の手順です。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

**△ 注意:** ドライブとバックプレーンの損傷を防ぐため、ハードドライブをシステムから取り外してから、バックプレーンを取り外してください。

**△ 注意:** 後で同じ場所に取り付けることができるように、取り外す前に各ハードドライブのスロット番号を書き留め、一時的にラベルを貼っておく必要があります。

3. すべてのハードドライブを取り外します。
4. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します (該当する場合)。  
**① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
5. システムカバーを開きます。
6. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
7. x8 ハードドライブバックプレーンを取り外します。
8. ドライブを使用して、システムの内側からダミーの四隅のリリースタブを押して、4 スロットハードドライブダミーをシャーシからロック解除します。
9. システムの前面から、4 スロットハードドライブダミーの四隅を持って引き出し、ハードドライブスロットから外します。

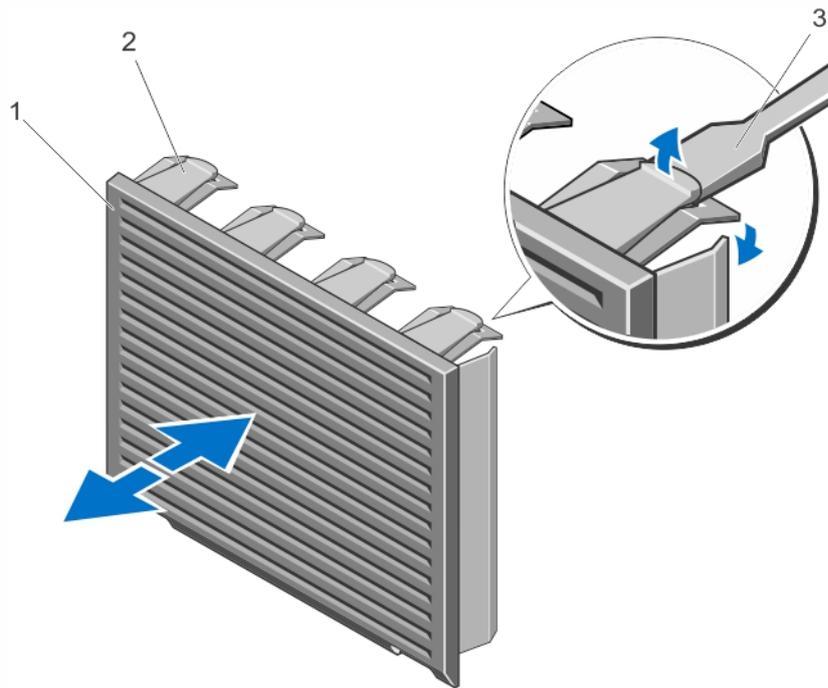


図 34.4 スロットハードドライブダミーの取り付けと取り外し

- a. 4 スロットハードドライブダミー
- b. リリースタブ
- c. ドライブ

## 4 スロットハードドライブダミーの取り付け

1. 番号 4 から 7 のハードドライブスロットの位置を確認します。
2. 4 スロットハードドライブダミーをハードドライブスロットに挿入し、リリースタブでカチッと固定されるまで押し込みます。
3. システムカバーを閉じます。
4. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます (該当する場合)。
5. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。
6. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## System Memory

お使いのシステムは、DDR3 バッファなし ECC DIMM (UDIMM ECC) およびレジスタ DIMM (RDIMM) をサポートしています。DDR3 および DDR3L 電圧仕様対応です。

**i** **メモ:** MT/s は DIMM の速度単位で、MegaTransfers/ 秒の略語です。

メモリバスの動作周波数は 1600 MT/s、1333 MT/s、1066 MT/s、または 800 MT/s で、以下に応じて異なります。

- DIMM のタイプ (UDIMM または RDIMM)
- DIMM の構成 (ランク数)
- DIMM の最大周波数
- 各チャンネルに装着されている DIMM の数
- DIMM の動作電圧
- 選択されているシステムプロファイル (たとえば、**Performance Optimized** (パフォーマンス重視の構成)、**Custom** (カスタム)、または **Dense Configuration Optimized** (密な構成の最適化))
- プロセッサでサポートされている DIMM の最大周波数

次の表は、サポートされている構成のメモリ装着と動作周波数を示したものです。

DIMM のタイプ	装着 DIMM/ チャンネル	動作周波数 (単位: MT/s)		最大 DIMM ランク/チャンネル
		1.5 V	1.35 V	
UDIMM ECC	1	1333、1066、および 800	1333、1066、および 800	デュアルランク
	2	1333、1066、および 800	1333、1066、および 800	デュアルランク
RDIMM	1	1600、1333、1066、および 800	1333、1066、および 800	デュアルランク
		1333、1066、および 800	1066 および 800	クアドランク
	2	1600、1333、1066、および 800	1333、1066、および 800	デュアルランク
		1066 および 800	1066 および 800	クアドランク

システムにはメモリソケットが 12 個あり、6 個ずつの 2 セット (各プロセッサに 1 セット) に分かれています。ソケット 6 個の各セットは、3 つのチャンネルで構成されています。どのチャンネルも、最初のソケットのリリースレバーは白、2 番目のソケットのレバーは黒に色分けされています。

**メモ:** ソケット A1 ~ A6 の DIMM はプロセッサ 1 に、ソケット B1 ~ B6 の DIMM はプロセッサ 2 に割り当てられています。

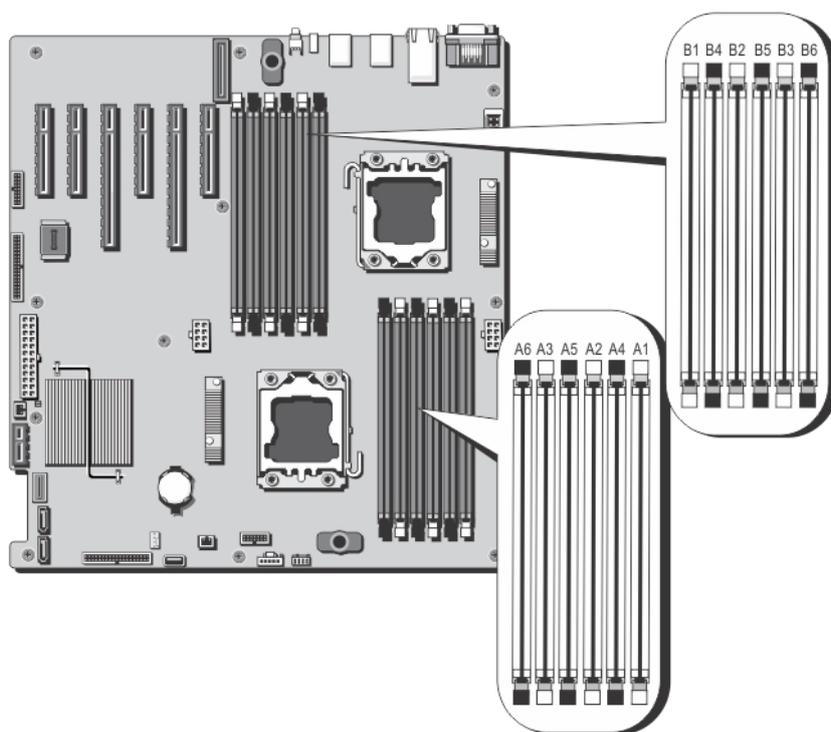


図 35. メモリソケットの位置

- プロセッサ 1**
- チャンネル 1: メモリソケット A1 と A4
  - チャンネル 2: メモリソケット A2 と A5
  - チャンネル 3: メモリソケット A3 と A6
- プロセッサ 2**
- チャンネル 1: メモリソケット B1 と B4
  - チャンネル 2: メモリソケット B2 と B5
  - チャンネル 3: メモリソケット B3 と B6

## メモリモジュール取り付けガイドライン

このシステムはフレキシブルメモリ構成をサポートしているため、あらゆる有効なチップセットアーキテクチャ構成でシステムを構成し、使用することができます。ベストパフォーマンスを得るための推奨ガイドラインは次のとおりです。

- UDIMM と RDIMM を併用しないでください。
- x4 と x8 DRAM ベースの DIMM は併用できます。詳細については、「モードごとのガイドライン」を参照してください。
- 1つのチャンネルに装着できる UDIMM は 2 枚までです。
- 1つのチャンネルに装着できるクアドランク RDIMM は 2 枚までです。
- 1つのチャンネルに装着できるシングルまたはクアドランク RDIMM は 2 枚までです。
- 各チャンネルに、クアドランク RDIMM を 1 枚と、シングルまたはデュアルランク RDIMM を 1 枚装着できます。
- プロセッサが取り付けられている場合に限り、DIMM ソケットに DIMM を装着してください。シングルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A6 が使用できます。デュアルプロセッサシステムの場合は、ソケット A1 ~ A6 と B1 ~ B6 が使用できます。
- 白のリリースタブがついているソケットに最初に、次に黒の順に、すべてのソケットに装着してください。
- DIMM はランクの高いものから次の順序で装着します。白のリリースレバーが付いているソケットに最初に、次に黒の順です。たとえば、クアドランクとデュアルランクの DIMM を併用する場合は、白のリリースタブが付いているソケットにクアドランク DIMM を、黒のリリースタブが付いているソケットにデュアルランク DIMM を装着します。
- デュアルプロセッサ構成では、各プロセッサのメモリ構成は同一でなければなりません。たとえば、プロセッサ 1 のソケット A1 に DIMM を装着した場合、プロセッサ 2 はソケット B1 に (...以下同様) DIMM を装着する必要があります。
- 他のメモリ装着ルールが守られていれば、異なるサイズのメモリモジュールを併用できます (たとえば、2 GB と 4 GB のメモリモジュールを併用できます)。
- パフォーマンスを最大にするには、モードごとのガイドラインに応じて、各プロセッサにつき 2 または 3 枚の DIMM を一度に装着してください (各チャンネルに DIMM 1 枚)。詳細については、「モードごとのガイドライン」を参照してください。
- 速度の異なるメモリモジュールを取り付けた場合は、取り付けられているメモリモジュールのうちで最も遅いものの速度で動作します。または、システムの DIMM 構成によってはさらに遅い動作になります。

## モードごとのガイドライン

各プロセッサに 3 つのメモリチャンネルが割り当てられます。使用可能な構成は、選択するメモリモードによって異なります。

- ① **メモ:** x4 と x8 DRAM ベースの DIMM が併用でき、RAS (R=信頼性、A=可用性、S=保守性) 特性がサポートされます。ただし、特定の RAS 特性に関するすべてのガイドラインに準拠している必要があります。x4 DRAM ベースの DIMM は、メモリ最適化 (独立チャンネル) モードまたはアドバンス ECC モードで SDDC (Single Device Data Correction) を維持します。x8 DRAM ベースの DIMM が SDDC を獲得するには、アドバンス ECC モードを必要とします。

以下の各項では、各モードの詳しいメモリ装着ガイドラインを説明します。

### Advanced ECC (Lockstep) (アドバンス ECC (ロックステップ))

Advanced ECC (アドバンス ECC) モードでは、SDDC が x4 DRAM ベースの DIMM から x4 と x8 の両方の DRAM に拡張されます。これにより、通常動作中のシングル DRAM チップ障害から保護されます。

メモリ取り付けガイドライン:

- メモリソケット A1、A4、B1、B4 は無効になっており、アドバンス ECC モードに対応していません。
- DIMM は同一仕様のもをペアで取り付ける必要があります。— メモリソケット (A2、B2) に取り付ける DIMM はメモリソケット (A3、B3) に取り付ける DIMM と一致している必要があります。また、メモリソケット (A5、B5) に取り付ける DIMM はメモリソケット (A6、B6) に取り付ける DIMM と一致している必要があります。

- ① **メモ:** アドバンス ECC とミラーリングの併用はサポートされていません。

### Memory Optimized (Independent Channel) (メモリ最適化 (独立チャンネル)) モード

このモードでは、使用するデバイス幅が x4 のメモリモジュールについてのみ SDDC がサポートされます。メモリ装着に関する特定の要件はありません。

## メモリスペアリング

**メモ:** メモリスペアリングを使用するには、セットアップユーティリティでこの機能を有効にする必要があります。

このモードでは、各チャネルにつき1ランクがスペアとして予約されます。いずれかのランクで修正可能なエラーが絶えず検知される場合、そのランクからのデータがスペアランクにコピーされ、障害の発生したランクは無効になります。

メモリスペアリングを有効にすると、OS が利用できるシステムメモリは各チャネルとも1ランク少なくなります。たとえば、8 GB のデュアルランク DIMM を3枚使用するシステムでは、利用可能なシステムメモリは  $3 \text{ (DIMM)} \times 8 \text{ GB} = 24 \text{ GB}$  とはならず、 $1/2 \text{ (ランク/チャネル)} \times 3 \text{ (DIMM)} \times 8 \text{ GB} = 12 \text{ GB}$  となります。

**メモ:** メモリスペアリングは、マルチビットの修正不能なエラーには対応できません。

**メモ:** Advanced ECC/Lockstep (アドバンス ECC/ロックステップ) モードと Optimizer (オプティマイザ) モードは、どちらも Memory Sparring (メモリスペアリング) をサポートしています。

## メモリミラーリング

メモリミラーリングは他のどのモードよりも DIMM の信頼性に優れており、修正不能なマルチビットのエラーに対応する機能が向上しています。ミラーリング構成では、使用可能なシステムメモリの総量は取り付けられた総物理メモリの2分の1です。取り付けられたメモリの半分は、アクティブな DIMM のミラーリングに使用されます。修正不能なエラーが発生すると、システムはミラーリングされたコピーに切り替えられます。これにより、SDCC とマルチビットの保護が確保されます。

メモリ取り付けガイドライン:

**メモ:** 各プロセッサの最初のメモリチャネル (チャンネル1) は無効になっており、メモリミラーリングに使用できません。

- メモリチャネル2と3には DIMM を取り付ける必要があります。
- メモリモジュールは、サイズ、速度、テクノロジーが同一のものを取り付けてください。
- 白のリリースタブが付いているメモリソケットには同一の DIMM を取り付ける必要があります。黒のリリースタブが付いているソケットについても、同様のルールが当てはまります。たとえば、ソケット A2 と A3 には同一の DIMM を取り付ける必要があります。

## メモリ構成の例

本項で説明したメモリのガイドラインに則したメモリの構成例を以下の表に示します。

**メモ:** 16 GB クアッドランク RDIMM はサポートされていません。

**メモ:** 以下の表で、1R、2R、4R はそれぞれ、シングル、デュアル、クアッドランクの DIMM を表します。

表 1. メモリ構成 — シングルプロセッサ

システムの容量 (GB)	DIMM のサイズ (GB)	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
2	2	1	1R x8, 1333 MT/s	A1
			1R x8, 1600 MT/s	
4	2	2	1R x8, 1333 MT/s	A1、A2
			1R x8, 1600 MT/s	
10	2	5	1R x8, 1333 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5
			1R x8, 1600 MT/s	
12	4	3	1R x8, 1333 MT/s	A1、A2、A3
			1R x8, 1600 MT/s	
20	4	5	1R x8, 1333 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5
			1R x8, 1600 MT/s	

表 1. メモリ構成 — シングルプロセッサ ( 続き )

システムの容量 ( GB )	DIMM のサイズ ( GB )	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
24	8	3	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3
32	8	4	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4
48	16	3	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3
96	16	6	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6
128	32	4	4R x4、1066 MT/s	A1、A2、A3、A4
192	32	6	4R x4、1066 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6

表 2. メモリ構成 — プロセッサ 2 基

システムの容量 ( GB )	DIMM のサイズ ( GB )	DIMM の枚数	機構と速度	装着する DIMM スロット
4	2	2	1R x8、1333 MT/s 1R x8、1600 MT/s	A1、B1
8	2	4	1R x8、1333 MT/s 1R x8、1600 MT/s	A1、A2、B1、B2
12	2	6	1R x8、1333 MT/s 1R x8、1600 MT/s	A1、A2、A3、B1、B2、B3
24	4	6	2R x8、1333 MT/s 2R x8、1600 MT/s	A1、A2、A3、B1、B2、B3
48	8	6	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、B1、B2、B3
96	16	6	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、B1、B2、B3
128	16	8	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
160	16	10	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、B1、B2、B3、B4、B5
192	16	12	2R x4、1333 MT/s 2R x4、1600 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6
256	32	8	4R x4、1066 MT/s	A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4
384	32	12	4R x4、1066 MT/s	A1、A2、A3、A4、A5、A6、B1、B2、B3、B4、B5、B6

## メモリモジュールの取り外し

① **メモ:** メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持って取り扱い、モジュールのコンポーネントまたは金属製の接触部には触らないようにしてください。

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムの適切な冷却状態を維持するため、メモリモジュールを取り付けないメモリンケットには、メモリモジュールダミーを取り付ける必要があります。メモリモジュールダミーは、それらのソケットにメモリモジュールを取り付ける予定の場合にのみ取り外すようにしてください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムカバーを開きます。
3. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
4. 該当するメモリモジュールソケットの位置を確認します。
5. メモリモジュールをソケットから解放するには、メモリモジュールソケットの両端にあるイジェクタを同時に押します。

△ **注意:** 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部やメタリックの接触部に触れないように取り扱ってください。メモリモジュールへの損傷を避けるため、メモリモジュールは一度に1個ずつ扱うようにしてください。

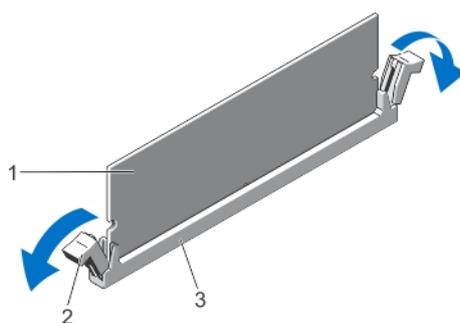


図 36. メモリモジュールの取り出し

- a. メモリモジュール
  - b. メモリモジュールソケットのイジェクタ (2)
  - c. メモリモジュールソケット
6. ソケットにメモリモジュールまたはメモリモジュールダミーが取り付けられている場合は、それを取り外します。
- ① **メモ:** 取り外したメモリモジュールダミーは、将来使用するために保管しておきます。

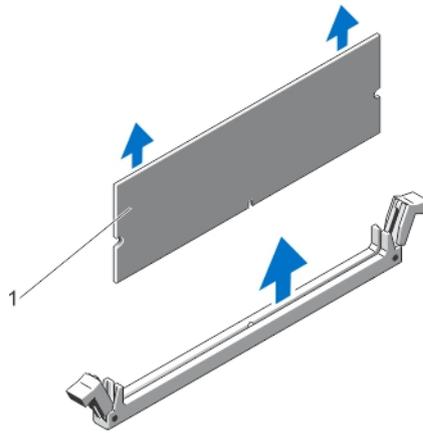


図 37. メモリモジュールの取り外し

a. メモリモジュール / メモリモジュールダミー

7. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
8. システムカバーを閉じます。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## メモリモジュールの取り付け

**メモ:** メモリモジュールは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。メモリモジュールが冷えるのを待ってから作業してください。メモリモジュールはカードの両端を持って取り扱い、モジュールのコンポーネントまたは金属製の接触部には触らないようにしてください。

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**注意:** システムの適切な冷却状態を維持するため、メモリモジュールを取り付けないメモリソケットには、メモリモジュールダミーを取り付ける必要があります。メモリモジュールダミーは、それらのソケットにメモリモジュールを取り付ける予定の場合にのみ取り外すようにしてください。

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを開きます。
3. 冷却用エアフローカバーが取り付けられている場合は、取り外します。
4. メモリモジュールソケットの位置を確認します。

**注意:** 各モジュールは、カードの端だけを持ち、メモリモジュールの中央部やメタリックの接触部に触れないように取り扱ってください。メモリモジュールへの損傷を避けるため、メモリモジュールは一度に1個ずつ扱うようにしてください。

5. ソケットにメモリモジュールまたはメモリモジュールダミーが取り付けられている場合は、それを取り外します。

**メモ:** 取り外したメモリモジュールダミーは、将来使用するために保管しておきます。

6. メモリモジュールソケットの位置合わせキーにメモリモジュールのエッジコネクタを合わせ、ソケットにメモリモジュールを差し込みます。

**メモ:** メモリモジュールソケットには位置合わせキーがあり、メモリモジュールは一方向にしか取り付けられないようになっています。

**注意:** 取り付け中におけるメモリモジュールソケットへの損傷を防ぐため、圧力はメモリモジュールの両端に均等にかけるようにし、メモリモジュールの中央にかけないようにしてください。

7. 所定の位置にカチッと固定されるまで、メモリモジュールを両手の親指でしっかりと押し下げます。

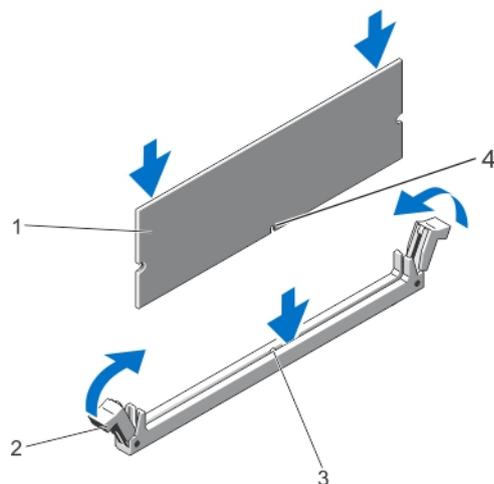


図 38. メモリモジュールの取り付け

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. メモリモジュール            | 2. メモリモジュールイジェクタ       |
| 3. メモリモジュールソケット位置合わせキー | 4. メモリモジュールソケット位置合わせキー |

**メモ:** メモリモジュールがソケットに適切に装着されると、メモリモジュールソケットのレバーがメモリモジュールが装着されている別のソケットのレバーと同一の位置に揃います。

8. 手順 4~7 を繰り返して、残りのメモリモジュールを取り付けます。
9. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
10. システムカバーを閉じます。
11. システムを電源コンセントに接続し、電源を入れます (接続されている各種周辺機器を含む)。
12. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、メモリの設定を確認します。  
システムは新しく増設したメモリを認識して値を変更済みです。
13. 値が正しくない場合、1つ、または複数のメモリモジュールが適切に取り付けられていない可能性があります。本手順の手順 4~7 を繰り返して、メモリモジュールがそれぞれのソケットにしっかりと装着されていることを確認してください。
14. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

## 冷却ファン

システムでは、以下をサポートしています。

- 内蔵の冷却ファン
- シャーシ背面の外付けの冷却ファン (オプション)

**メモ:** システム構成を選択またはアップグレードする場合は、最適な電力使用を達成できるように、[dell.com/ESSA](http://dell.com/ESSA) の Dell Energy Smart Solution Advisor でシステムの消費電力を検証します。

## 内蔵の冷却ファンの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**注意:** 内蔵の冷却ファンを取り外したままシステムを動作させないでください。システムがオーバーヒートして、シャットダウンし、データが失われる恐れがあります。

**注意:** システムはカバーを外したまま 5 分以上動作させないでください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。  
**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
5. 内蔵の冷却ファン電源ケーブルをシステム基板から取り外します。
6. 内蔵の冷却ファン電源ケーブルをシャーシとシステム基板の固定クリップから取り外します。  
**注意:** ブレードを持って内蔵の冷却ファンを取り外したり取り付けたりしないでください。
7. 内蔵の冷却ファンのリリースタブを押し、側面を持って、ファンに付いている矢印の方向に引き出します。

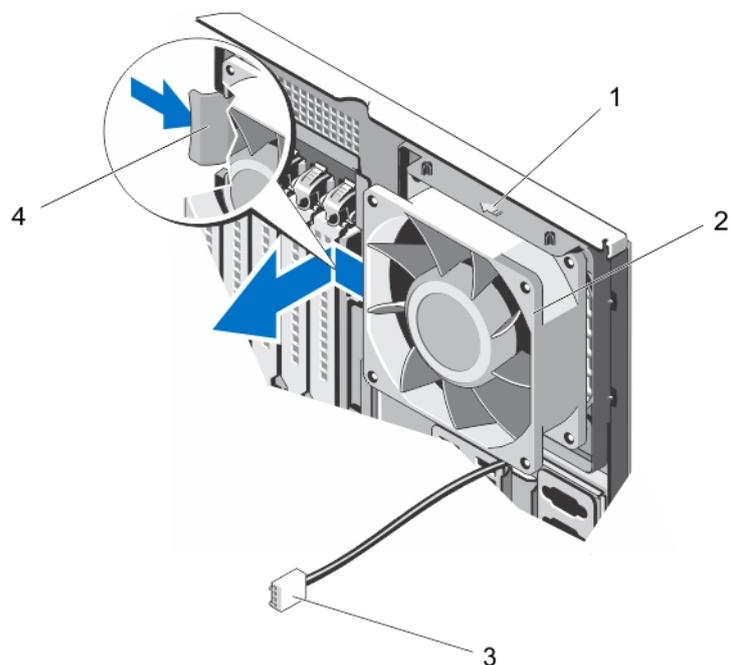


図 39. 内蔵の冷却ファンの取り外しと取り付け

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1. 矢印             | 2. 内蔵の冷却ファン |
| 3. 内蔵の冷却ファン電源ケーブル | 4. リリースタブ   |

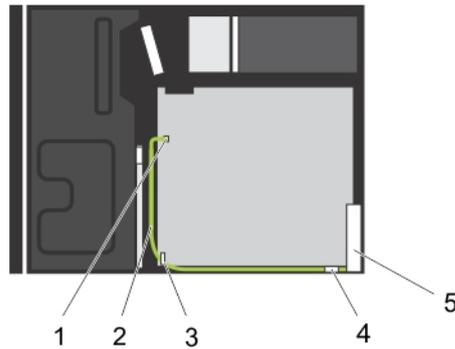


図 40. ケーブル接続—内蔵の冷却ファン

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. システム基板の FAN1 電源コネクタ | 2. 内蔵の冷却ファン電源ケーブル |
| 3. システム基板の固定クリップ       | 4. シャーシの固定クリップ    |
| 5. 内蔵の冷却ファン            |                   |

## 内蔵の冷却ファンの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムはカバーを外したまま 5 分以上動作させないでください。

1. システム冷却ファンの側面を持って、ケーブル端部がシャーシ底面を向くようにします。

△ **注意:** ブレードを持って内蔵の冷却ファンを取り外したり取り付けたりしないでください。

2. 内蔵の冷却ファンの 4 つのタブをシャーシ内部の 4 つのスロットに合わせます。
3. リリースタブが所定の位置に収まるまで、内蔵の冷却ファンをスロットに押し入れます。

△ **注意:** ブレードを持って内蔵の冷却ファンを取り外したり取り付けたりしないでください。

4. 内蔵の冷却ファン電源ケーブルをシャーシ側面に沿って配線し、クリップで固定します。
5. 内蔵の冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN1 コネクタに接続します。
6. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 外付けの冷却ファンの取り外し

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムはカバーを外したまま 5 分以上動作させないでください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
5. 外付けの冷却ファン電源ケーブルをシステム基板から外し、クリップからも外します。
6. 外付けの冷却ファンをシャーシに固定している4本のネジを外します。
7. フックがスロットから外れるまで、外付けの冷却ファンの上部を回しながらシステムから引き離して、ファンを外します。
8. 外付けの冷却ファン電源ケーブルをシャーシ背面のスロットから外すと、システムから外れます。
9. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
10. システムカバーを閉じます。
11. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
12. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

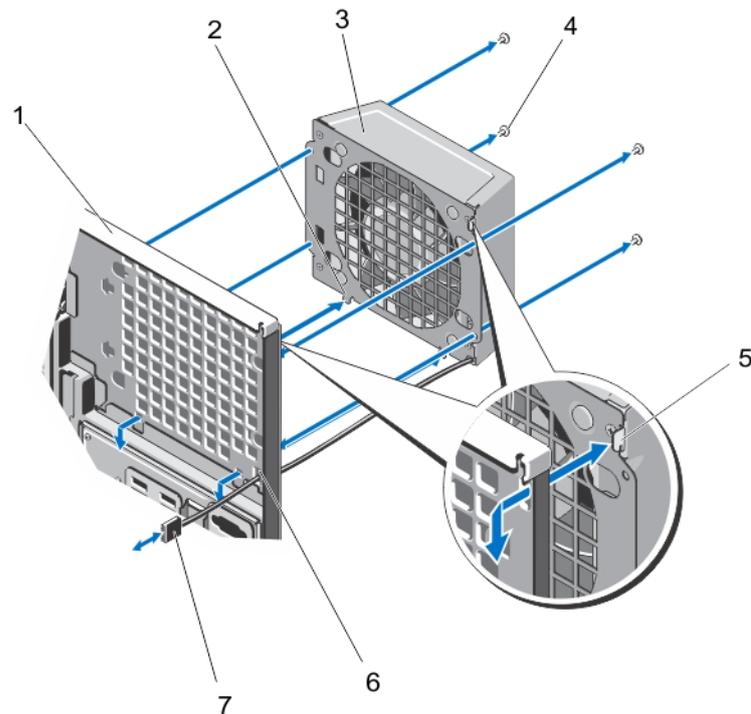


図 41. 外付けの冷却ファンの取り外しと取り付け

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| 1. システムシャーシの背面     | 2. 下部のフック (2)          |
| 3. 外付けの冷却ファン       | 4. ネジ (4)              |
| 5. 上部のフック          | 6. 外付けの冷却ファン電源ケーブルスロット |
| 7. 外付けの冷却ファン電源ケーブル |                        |

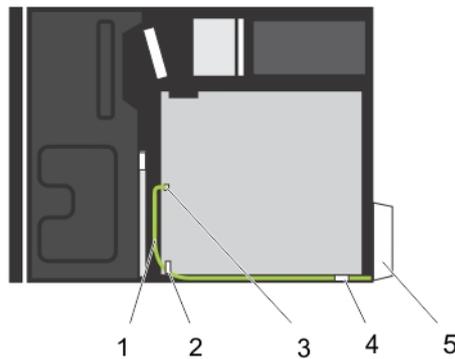


図 42. ケーブル接続—外付けの冷却ファン

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1. 外付けの冷却ファン電源ケーブル     | 2. システム基板の固定クリップ |
| 3. システム基板の FAN2 電源コネクタ | 4. シャーシの固定クリップ   |
| 5. 外付けの冷却ファン           |                  |

## 外付けの冷却ファンの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムは、カバーを外したまま 5 分以上動作させないでください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
5. 外付けの冷却ファン電源ケーブルを、シャーシ背面のスロットを通してシステムに回し入れます。
6. 外付けの冷却ファンの 2 つの下部フックを、シャーシ背面の対応するスロットに合わせて差し込みます。
7. 上部フックが正しい位置にロックされるまで、外付けの冷却ファンの上部をシャーシに向かって回します。
8. 外付けの冷却ファンを 4 本のネジでシャーシに固定します。
9. 外付けの冷却ファン電源ケーブルを、シャーシ内部のクリップを使って固定します。
10. 外付けの冷却ファン電源ケーブルをシステム基板の FAN2 コネクタに接続します。
11. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
12. システムカバーを閉じます。
13. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
14. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 内蔵 USB メモリキー（オプション）

システム内部に取り付けられているオプションの USB メモリキーは、起動デバイス、セキュリティキー、または大容量ストレージデバイスとして使用できます。USB コネクタは、セットアップユーティリティの **Integrated Devices**（内蔵デバイス）画面にある **Internal USB Port**（内蔵 USB ポート）オプションで有効にする必要があります。

USB メモリキーから起動するには、USB メモリキーに起動イメージを設定してから、セットアップユーティリティの起動順序で USB メモリキーを指定します。

① **メモ:** システム基板の内部 USB コネクタ (INT USB) の位置については、「システム基板のコネクタ」を参照してください。

## 内蔵 USB キーの交換 / 取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します (該当する場合)。  
① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. システム基板の USB コネクタ (INT USB) または USB キーの位置を確認します。
5. USB キーが取り付けられている場合は、取り外します。
6. USB コネクタに新しい USB キーを挿入します。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます (該当する場合)。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
10. セットアップユーティリティを起動し、USB キーがシステムによって検知されていることを確認します。

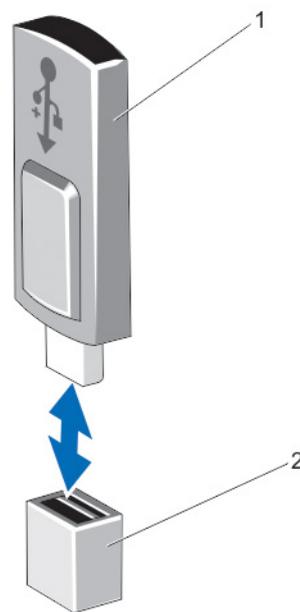


図 43. 内蔵 USB キーの交換 / 取り付け

- a. USB キー
- b. USB コネクタ

# PCIe カードホルダ ( オプション )

## PCIe カードホルダの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 ( 内部作業 ) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します ( 該当する場合 )。

**① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. タブを押し、PCIe カードホルダをシャーシから引き出します。
5. PCIe カードホルダを持ち上げてシャーシから取り出します。
6. システムカバーを閉じます。
7. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます ( 該当する場合 )。
8. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器を適宜、コンセントに接続し、電源を入れます。

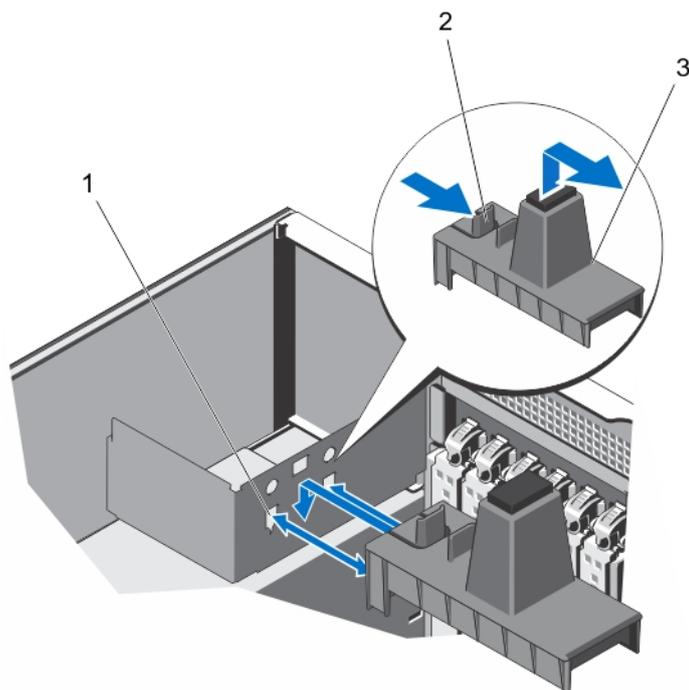


図 44. PCIe カードホルダの取り外しと取り付け

- a. スロット ( 2 )
- b. タブ ( 2 )
- c. PCIe カードホルダ

## PCIe カードホルダの取り付け

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みにになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. PCIe カードホルダをシャーシのスロットに合わせ、装着されるまで押し下げます。
5. システムカバーを閉じます。
6. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
7. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 拡張カード

### 拡張カードの取り付けガイドライン

表 3. サポートされている PCI Express Generation 3 拡張カード

PCIe スロット	プロセッサ接続	高さ	長さ	リンク幅	スロット幅
1	プラットフォームコントローラハブ	フルハイト	ハーフレンジス	x4	x8
2	プラットフォームコントローラハブ	フルハイト	フルレンジス	x1	x8
3	プロセッサ 1	フルハイト	フルレンジス	x16	x16
4	プロセッサ 1	フルハイト	フルレンジス	x4	x8
5	プロセッサ 2	フルハイト	フルレンジス	x16	x16
6	プロセッサ 1	フルハイト	ハーフレンジス	x4	x8

- メモ:** Generation 3 PCIe 拡張カードは、スロット 3、4、5、および 6 のみでサポートされます。
- メモ:** お使いのシステムで、ダブル幅 GPU カードがスロット 3 に取り付けられている場合は、拡張カードをスロット 2 に取り付けることはできません。
- メモ:** お使いのシステムで、ダブル幅 GPU カードがスロット 5 に取り付けられている場合は、拡張カードをスロット 4 に取り付けることはできません。
- メモ:** 拡張カードはホットスワップ対応ではありません。

次の表は、冷却効果が確保され機械的にも適合するように拡張カードを取り付けるためのガイドを示します。表に示すスロットの優先順位に従って、優先度の最も高い拡張カードを最初に取り付けてください。その他すべての拡張カードは、カードの優先順位とスロットの優先順位に従って取り付けます。

表 4. 拡張カードの取り付け順序

カードの優先順位	カードのタイプ	スロットの優先順位	最大枚数
1	GPU	3、5	2

表 4. 拡張カードの取り付け順序（続き）

カードの優先順位	カードのタイプ	スロットの優先順位	最大枚数
2	外付け RAID	1、4、5、3、6	1
3	内蔵 RAID	6、4、5、3、1	1
4	10 Gb NIC	4、5、3、6	4
5	FC8 HBA	4、5、3、1、6	5
6	CNA	4、5、3、1、6	5
7	1 Gb NIC	2、4、5、3、1、6	6
8	非 RAID	4、5、3、1、6	1
9	内蔵テープアダプタ	2、4、5、3、1、6	1

## GPU カードの取り付けガイドライン

GPU カードの取り付けは、以下のガイドラインに従って行ってください。

- GPU ケーブルが手元にあることを確認してください。
- すべての GPU カードが同一のタイプまたはモデルであることを確認してください。
- お使いのシステムでは、Q4000 シングル幅 GPU カードと Q6000 ダブル幅 GPU カードのみがサポートされます。
- プロセッサ 2 個の構成では、ダブル幅のカード 1 枚またはシングル幅のカード 2 枚をスロット 3 と 5 に取り付けることができません。
- シングル幅 GPU カード 1 枚が取り付けられたシステムの場合、GPU カード電源ケーブルを、配電基板の GPU 電源コネクタ CN11 に接続します。
- 2 枚の GPU カードが取り付けられたシステムの場合、1 枚目の GPU カードの電源ケーブルを配電基板の GPU 電源コネクタ CN11 に接続し、2 枚目の GPU カードの電源ケーブルを電源干渉基板の GPU\_POWER コネクタに接続します。
- デュアル幅 GPU カード 1 枚が取り付けられたシステムでは、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
- GPU カードは、冗長 1100 W AC 電源ユニットを搭載したシステムに取り付ける必要があります。

## 拡張カードの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. PCIe カードホルダがある場合は、これを取り外します。
5. 2 本の SAS ケーブルがある場合は、これらのケーブル押して拡張カードから外します。
6. システム基板に P3 電源ケーブルが取り付けられている場合は、これを外します。
7. システム内部から、拡張カードのリリースラッチを押し出して開きます。
8. カードの端をつまんでコネクタから外し、シャーシから持ち上げるようにして取り出します。
9. カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィルターブラケットを取り付けます。
  - ① **メモ:** FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空の拡張カードスロットにフィルターブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける役割もあります。

10. システムの外側から、拡張カードラッチをシステムの方に回して所定の位置に固定します。
11. PCIe カードホルダがある場合は、これを取り付けます。
12. システムカバーを閉じます。
13. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
14. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

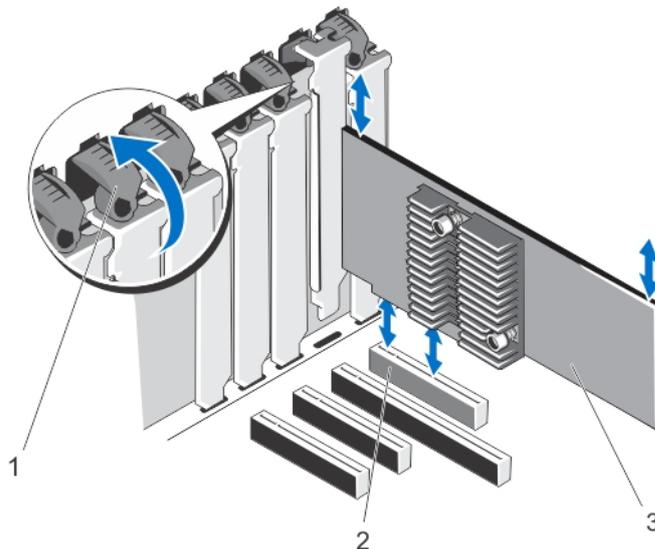


図 45. 拡張カードの取り外しと取り付け

- a. 拡張カードラッチ
- b. 拡張カードコネクタ
- c. 拡張カード

## 拡張カードの取り付け

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 拡張カードを開梱し、取り付けの準備をします。  
手順については、カードに付属のマニュアルを参照してください。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。  
**i メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
4. システムカバーを開きます。
5. PCIe カードホルダがある場合は、これを取り外します。
6. システム内部から、拡張カードのリリースラッチを押し出して開きます。
7. 新たに拡張カードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外します。  
**i メモ:** このフィラーブラケットは、拡張カードを取り外す場合に備えて保管しておいてください。FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空の拡張カードスロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける役割もあります。
8. カードの両端を持ち、カードエッジコネクタを拡張カードコネクタに合わせます。
9. カードが完全に装着されるまで、カードエッジコネクタを拡張カードコネクタにしっかりと挿入します。

10. システムの外側から、拡張カードラッチをシステムの方に回して所定の位置に固定します。
11. 2本のSASケーブルがある場合は、これらを拡張カードに接続します。
12. P3電源ケーブルがある場合は、これをシステム基板に接続します。
13. PCIeカードホルダがある場合は、これを取り付けます。
14. システムカバーを閉じます。
15. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
16. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## GPUカードの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。  
**i メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. PCIeカードホルダを外します。

**△ 注意:** ケーブルを外す際に無理な力を加えないように注意してください。コネクタが損傷するおそれがあります。

5. GPUカードからケーブルを外します。
6. システム内部から、GPUカードを固定している拡張カードのリリースラッチを押し出します。  
**i メモ:** ダブル幅GPUカードを取り外す場合は、カードを固定している2つの拡張カードラッチを開く必要があります。
7. カードの端をつまんでコネクタから外し、シャーシから持ち上げるようにして取り出します。
8. GPUカードを交換しない場合は、フィラーブラケットを挿入してください。  
**i メモ:** FCC認可規格にシステムを準拠させるには、空の拡張カードスロットにフィラーブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける役割もあります。
9. システムの外側から、拡張カードラッチをシステムの方に回して所定の位置に固定します。
10. PCIeカードホルダを取り付けます。
11. システムカバーを閉じます。
12. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
13. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

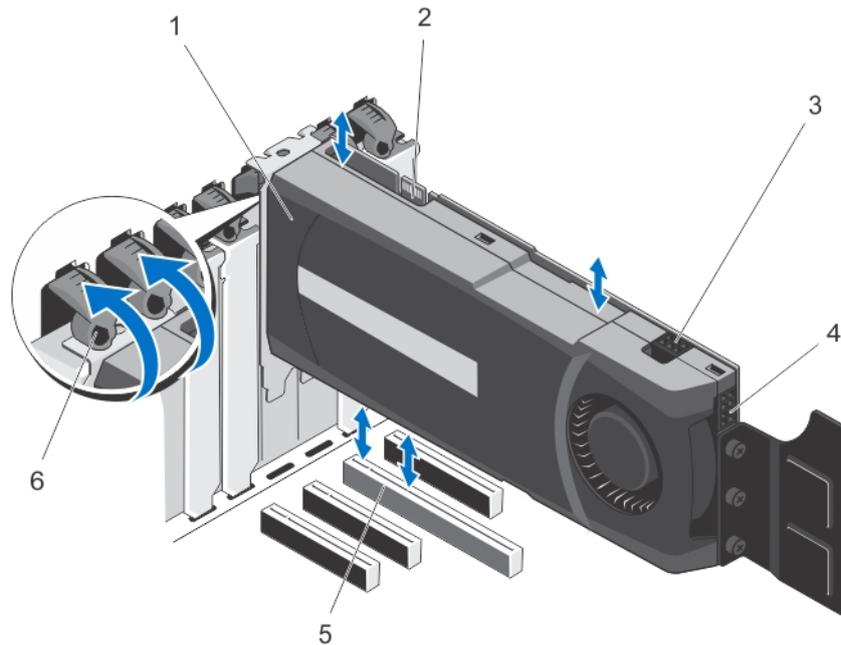


図 46. GPU カードの取り外しと取り付け

- a. GPU カード (ダブル幅)
- b. SLI データコネクタ
- c. 6 ピンの GPU カード電源コネクタ
- d. 8 ピンの GPU カード電源コネクタ
- e. x16 コネクタ
- f. 拡張カードラッチ (2)

## GPU カードの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます (該当する場合)。
  - i メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. PCIe カードホルダを外します。
5. システム基板の x16 スロットの位置を確認します。
6. システム内部から、x16 スロットの拡張カードのリリースラッチを押し出します。
  - i メモ:** ダブル幅 GPU カードを取り付ける場合は、カードを固定するために 2 つの拡張カードラッチを開く必要があります。
7. フィラーブラケットが取り付けられている場合は、取り外します。
8. GPU カードを x16 スロットに差し込みます。
9. システムの外側から、拡張カードラッチをシステムの方に回して所定の位置に固定します。
10. GPU カードにケーブルを接続します。
11. PCIe カードホルダを取り付けます。
12. システムカバーを閉じます。

13. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
14. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## iDRAC ポートカード

iDRAC ポートカードは、SD vFlash カードスロット 1 個と iDRAC ポート 1 個で構成されています。iDRAC ポートカードは、システムの詳細管理を行うために使用されます。

SD vFlash カードは、システムの SD vFlash カードスロットに挿入する SD カードです。このカードは、持続的なオンデマンドローカルストレージとカスタムデプロイメント環境を実現することで、サーバー設定、スクリプト、イメージングの自動化を可能にします。SD vFlash カードは USB デバイスをエミュレートします。詳細については、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) で『iDRAC7 User's Guide』（iDRAC7 ユーザーズガイド）を参照してください。

## iDRAC ポートカードの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
5. iDRAC ポートをシャーシ背面に固定しているネジを外します。
6. iDRAC ポートカードを iDRAC ポートカードコネクタから引き出して、カードをシャーシから取り外します。
7. iDRAC ポートカードを交換しない場合は、フィルターブラケットを挿入してネジで固定します。
  - メモ:** FCC 認可規格にシステムを準拠させるには、空のカードスロットにフィルターブラケットを取り付ける必要があります。ブラケットには、システム内へのごみやほこりの侵入を防ぐほか、システム内部の正常な冷却と換気を助ける役割もあります。
8. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
9. システムカバーを閉じます。
10. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
11. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

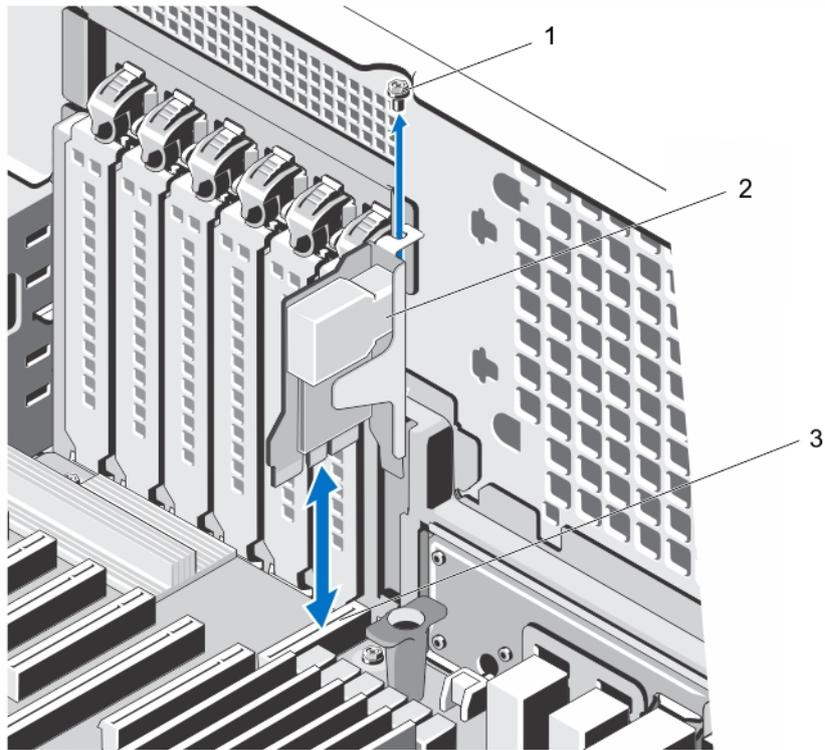


図 47. iDRAC ポートカードの取り外しと取り付け

- a. ネジ
- b. iDRAC ポートカード
- c. iDRAC ポートカードコネクタ

## iDRAC ポートカードの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
5. iDRAC ポートカードにフィラーブラケットがある場合は、ネジを外して、フィラーブラケットをシステムから取り外します。
6. iDRAC カードをシステム基板のコネクタに差し込みます。
7. iDRAC ポートカードをネジで固定します。
8. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
9. システムカバーを閉じます。
10. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
11. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## SD vFlash カードの交換

1. システムの SD vFlash カードスロットの位置を確認します。
2. SD vFlash カードを取り出すには、カードを押し込んでロックを解除し、カードスロットから引き出します。

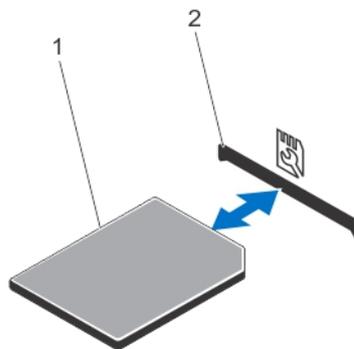


図 48. SD vFlash カードの取り外しと取り付け

- a. SD vFlash カード
- b. SD vFlash カードスロット

3. SD vFlash カードを取り付けるには、ラベル側を上に向けて、カードの接続ピン側を SD vFlash カードスロットに挿入します。  
**メモ:** スロットは正しい方向にしかカードを挿入できないように設計されています。
4. SD vFlash カードを中に押し込んでスロットにロックします。

## 内蔵デュアル SD モジュール

- メモ:** セットアップユーティリティの **Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で **Redundancy** (冗長性) オプションが **Mirror Mode** (ミラーモード) に設定されている場合、1枚の SD カードから別の SD カードに情報が複製されます。

## 内蔵デュアル SD モジュールの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します (該当する場合)。  
**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. システム基板の内蔵デュアル SD モジュールの位置を確認します。
5. SD カードがある場合は、これを取り外します。
6. システム基板から内蔵デュアル SD モジュールを引き出します。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます (該当する場合)。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

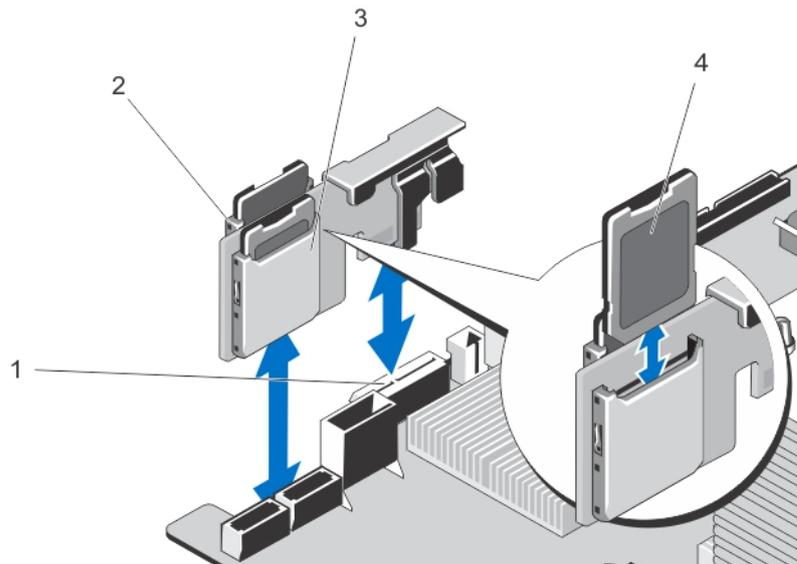


図 49. 内蔵デュアル SD モジュールの取り外しと取り付け

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. システム基板の SD カードコネクタ | 2. SD カードスロット 1 |
| 3. SD カードスロット 2       | 4. SD カード       |

## 内蔵デュアル SD モジュールの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムカバーを開きます。
4. システム基板の内蔵デュアル SD モジュールコネクタの位置を確認します。
5. システム基板のコネクタを、内蔵デュアル SD モジュールのコネクタに合わせます。
6. システム基板に装着されるまで、内蔵デュアル SD モジュールを押し込みます。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 内蔵 SD カード

### 内蔵 SD カードの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。  
**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 内蔵デュアル SD モジュール上の SD カードスロットの位置を確認します。
5. SD カードを内側に押し込んでスロットから外し、カードを取り外します。
6. システムカバーを閉じます。
7. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
8. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 内蔵 SD カードの取り付け

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**メモ:** お使いのシステムで SD カードを使用するには、セットアップユーティリティで **Internal SD Card Port**（内蔵 SD カードポート）が有効に設定されていることを確認します。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。  
**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 内蔵デュアル SD モジュール上の SD カードスロットの位置を確認します。
5. SD カードを正しい向きにして、カードの接続ピン側をスロットに挿入します。  
**メモ:** スロットは正しい方向にしかカードを挿入できないように設計されています。
6. カードをカードスロットに押し込み、所定の位置にロックします。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## プロセッサ

お使いのシステムでは、インテル Xeon E5-2400 番台プロセッサを 2 基までサポートします。

本項の手順に従って、プロセッサを交換またはアップグレードしてください。

**メモ:** システム構成を選択またはアップグレードする場合は、最適な電力使用を達成できるように、[dell.com/ESSA](http://dell.com/ESSA) の Dell Energy Smart Solution Advisor でシステムの消費電力を検証します。

## プロセッサの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムをアップグレードする前に、[dell.com/support](http://dell.com/support) から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

**メモ:** システム BIOS のアップデートは Lifecycle Controller を使用して行います。

2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられているシステムの場合は、システムを必ず硬い安定した平面に置いて、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. システムを電源から外したら、電源ボタンを3秒間押し続け、残っている電気を完全に排出してからカバーを取り外します。

4. システムスタビライザを内側に閉じて、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられているシステムの場合は、システムを必ず硬い安定した平面に置いて、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

5. システムカバーを開きます。

6. 冷却用エアフローカバーを取り外します。

**メモ:** ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。

**注意:** プロセッサを取り外す場合を除き、ヒートシンクをプロセッサから取り外さないでください。ヒートシンクは適切な温度条件を保つために必要です。

7. ヒートシンクをシステム基板に固定している最初のネジを緩めます。

8. ヒートシンクとプロセッサの接続が緩むまで、30秒ほど待ちます。次に、最初のネジの筋向いにあるネジを外します。

9. もう一对のネジに対し、手順7と8を繰り返します。

10. ヒートシンクをプロセッサから注意深く持ち上げ、裏返し（サーマルグリースが付いた側を上）にして脇に置いておきます。

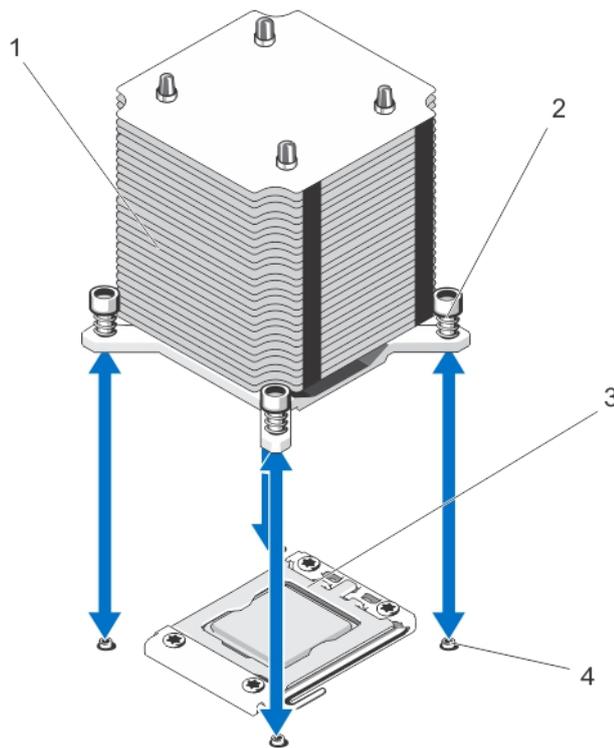


図 50. ヒートシンクの取り外しと取り付け

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. ヒートシンク    | 2. 拘束ネジ (4) |
| 3. プロセッサシールド | 4. 突起 (4)   |

**注意:** プロセッサは強い圧力でソケットに固定されています。リリースレバーはしっかりつかんでいないと突然跳ね上がるおそれがありますので、注意してください。

11. プロセッサのソケットリリースレバーを親指で押し下げてタブの下から外側に出し、ロック位置から外します。レバーを90度上向きに回します。
12. プロセッサシールドを上方向に持ち上げて、プロセッサが取り出せる状態にします。  
 △ **注意:** ソケットピンは壊れやすく、損傷して修復できなくなることがあります。プロセッサをソケットから取り外す際には、ソケットのピンを曲げないように気をつけてください。
13. プロセッサをソケットから取り外したら、ソケットに新しいプロセッサを取り付けられるように、リリースレバーは立てたままにしておきます。  
 ⓘ **メモ:** プロセッサを取り外したままにする場合は、ソケットピンを保護してソケットにほこりが入らないように空のソケットにソケット保護キャップを取り付ける必要があります。

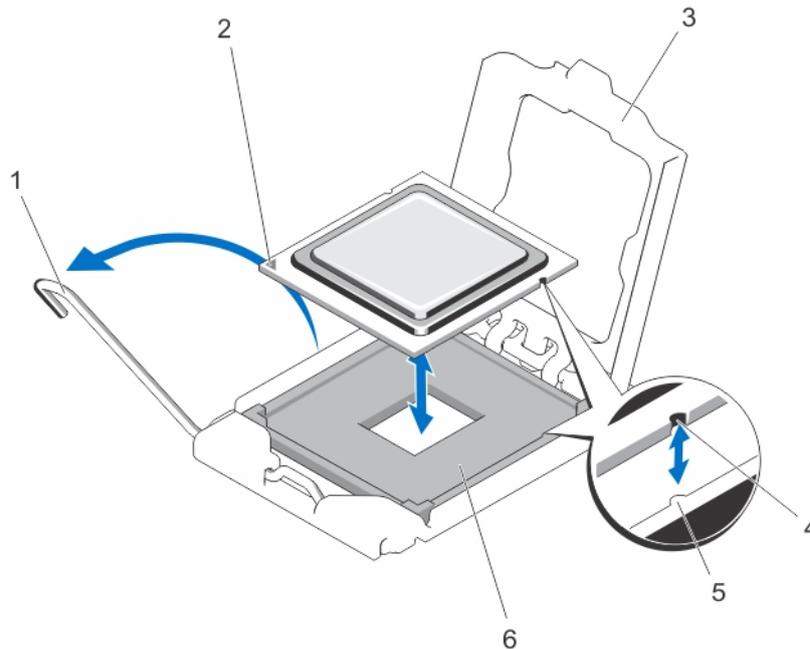


図 51. プロセッサの取り外しと取り付け

- |                |          |
|----------------|----------|
| 1. ソケットリリースレバー | 2. プロセッサ |
| 3. プロセッサシールド   | 4. ソケット  |
| 5. ガイド         | 6. スロット  |

ⓘ **メモ:** プロセッサを取り外したら、再利用、返品、または一時的な保管のために、静電気防止パッケージに入れます。プロセッサの底部に触れないでください。プロセッサは側面の端以外に触れないでください。

## プロセッサの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

ⓘ **メモ:** プロセッサを1基だけ取り付ける場合は、CPU1のソケットに取り付ける必要があります。

1. システムをアップグレードする前に、[dell.com/support](http://dell.com/support) から最新バージョンのシステム BIOS をダウンロードし、圧縮されたダウンロードファイルに説明されている手順に従い、システムにアップデートをインストールします。

ⓘ **メモ:** システム BIOS のアップデートは Lifecycle Controller を使用して行います。

2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムを電源から外したら、電源ボタンを3秒間押し続け、残っている電気を完全に排出してからカバーを取り外します。
4. システムカバーを開きます。
5. 冷却用エアフローカバーを取り外します。
6. プロセッサソケットの位置を確認します。
7. ソケット保護キャップが取り付けられている場合は、取り外します。
8. セカンドプロセッサを初めて増設する場合は、ヒートシンクのダミーとプロセッサのダミーを空のプロセッサソケットから外します。  
ダミーの取り外し方は、プロセッサの取り外しと同様です。
9. 新しいプロセッサをパッケージから取り出します。  
プロセッサが新品でない場合は、糸くずの出ない布を使って、残っているサーマルグリースをプロセッサから拭き取ります。
10. プロセッサをZIFソケットのソケットキーに合わせます。
11. プロセッサを以下の手順でソケットに取り付けます。

 **注意:** プロセッサの取り付け位置を間違えると、システム基板またはプロセッサが完全に損傷してしまうおそれがあります。ソケットのピンを曲げないように注意してください。

- a. プロセッサソケットのリリースレバーを開いた状態にして、プロセッサをソケットキーに合わせて、ソケットに軽く設置します。  
 **注意:** プロセッサを無理に押し込まないでください。プロセッサの位置が合っていれば、簡単にソケットに入ります。
  - b. プロセッサシールドを閉じます。
  - c. 所定の位置に収まるまで、ソケットリリースレバーを下ろします。
12. 次の手順でヒートシンクを取り付けます。

 **注意:** 塗布するサーマルグリースの量が多すぎると、過剰グリースがプロセッサソケットに付着し、汚れるおそれがあります。

- a. プロセッサキットに含まれているグリース塗布器を開け、新しいプロセッサの上部中央にサーマルグリースを残さず塗布します。
- b. ヒートシンクをプロセッサの上に置きます。
- c. ヒートシンクをシステム基板に固定する4本のネジを締めます。

 **メモ:** ヒートシンクを取り付ける際に、ヒートシンク固定ネジを締めすぎないでください。固定ネジの締めすぎを防ぐには、引っかかりを感じてネジが固定されたら、それ以上締めないようにします。ネジの張力が6.9 kg-cm (6 in-lb) を超えないようにしてください。

13. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
14. システムカバーを閉じます。
15. システムをまっすぐに立てて、安定した平面に置き、システムのスタビライザを外側に開きます (該当する場合)。
16. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
17. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、プロセッサの情報が新しいシステム構成と一致していることを確認します。
18. システム診断プログラムを実行し、新しいプロセッサが正しく動作することを確認します。

## 冗長 AC 電源ユニット

お使いのシステムでは、冗長 495 W、750 W、または 1100 W AC 電源ユニットが2台までサポートされている可能性があります。同一の電源ユニットが2台取り付けられている場合、電源ユニットの構成は冗長 (1+1) です。冗長モードでは、効率を最大限に高めるために両方の電源ユニットからシステムに半分ずつ電力が供給されます。電源ユニットが1台のみ取り付けられている場合、電源ユニットの構成は非冗長 (1+0) です。システムに電力を供給している電源ユニットは1台のみです。

 **メモ:** 2台の電源ユニットを使用する場合は、どちらも同じタイプで最大出力電力も同一である必要があります。

 **メモ:** 冗長電源ユニットは、ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムのみでサポートされます。

① **メモ:** システム構成を選択またはアップグレードする場合は、最適な電力使用を達成できるように、[dell.com/ESSA](https://dell.com/ESSA) の Dell Energy Smart Solution Advisor でシステムの消費電力を検証します。

## 冗長 AC 電源ユニットの取り外し

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** システムが正常に動作するには、電源ユニットが1台以上必要です。冗長電源が装備されたシステムでも、電源が入った状態で一度に取り外し、取り付けができる電源ユニットは、1台だけです。

① **メモ:** ラックモードのシステムの場合、電源ユニットの取り外しの邪魔になる場合は、ラッチを外してオプションのケーブルマネージメントアームを持ち上げる必要があります。ケーブルマネージメントアームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。

1. 電源から電源ケーブルを外します。
2. 取り外す電源ユニットのケーブルストラップから電源コードを外します。
3. 電源ユニットから電源ケーブルを外します。
4. リリースラッチを押し、電源ユニットをシャーシから引き出します。

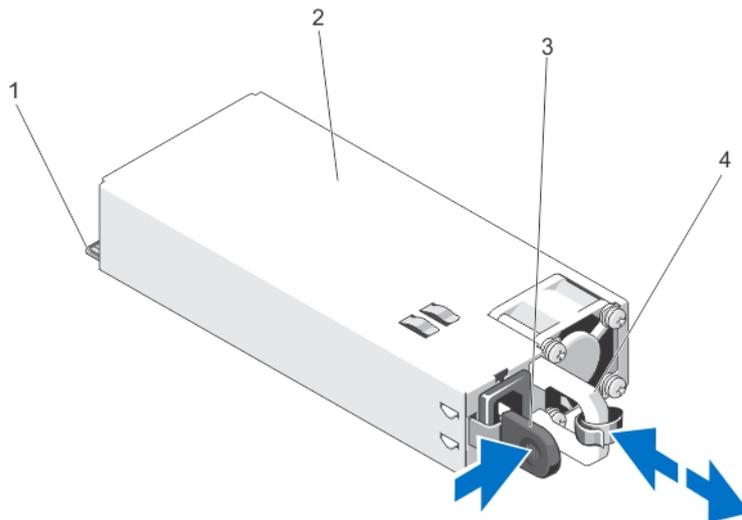


図 52. 冗長 AC 電源ユニットの取り外しと取り付け

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. コネクタ    | 2. 冗長 AC 電源ユニット |
| 3. リリースラッチ | 4. 電源ユニットのハンドル  |

## 冗長 AC 電源ユニットの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 両方の電源ユニットのタイプと最大出力電力が同じであることを確認します。

① **メモ:** 最大出力電力（ワット数で表記）は電源ユニットラベルに記載されています。

2. 電源ユニットダミーが取り付けられている場合は、取り外します。
3. 新しい電源ユニットをシャーシ内に挿入して完全に装着します。装着すると、リリースラッチがカチッと取まります。

① **メモ:** ラックモードで構成されているシステムの場合、ケーブルマネジメントアームのラッチを外している場合は、再びラッチをかけます。ケーブルマネジメントアームの詳細については、システムのラックに関するマニュアルを参照してください。

4. 電源ケーブルを電源ユニットに接続し、電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。

△ **注意:** 電源ケーブルを接続する際には、ケーブルをケーブルストラップで固定してください。

① **メモ:** 新しい電源ユニットの通常に取り付けや、ホットスワップまたはホットアッドによって交換または取り付けを行う際には、システムが電源ユニットを認識して状態を判断するまで数秒待ちます。電源ユニットのステータスインジケータまたはハンドルが緑色に変わったら、その電源ユニットは正常に動作しています。

## 電源装置ダミーの取り外し

△ **注意:** 非冗長構成の場合は、システムの正常な冷却状態を維持するために、2つ目の電源装置ベイに電源装置ダミーを取り付ける必要があります。電源装置ダミーは、2台目の電源装置を取り付ける場合のみ取り外してください。

2台目の電源装置を取り付ける場合は、電源装置ダミーを外側へ引いて、ベイから取り外します。

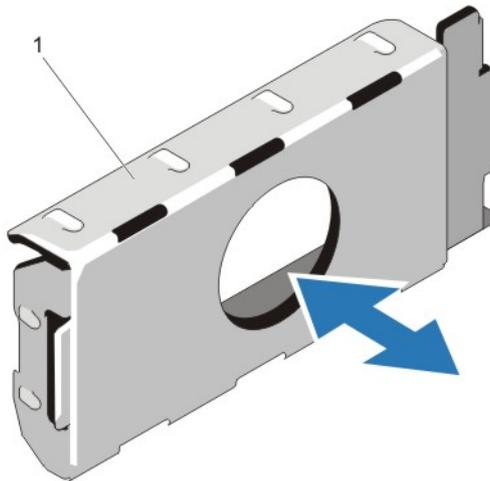


図 53. 電源装置ダミーの取り外しと取り付け

a. 電源装置ダミー

## 電源装置ダミーの取り付け

① **メモ:** 電源装置ダミーは、2番目の電源装置ベイのみに取り付けるようにしてください。

電源装置ダミーを取り付けるには、ダミーを電源装置ベイに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでシャーシに挿入します。

## 電源ユニットの仕切りの交換

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. 冗長電源ユニットモジュールまたは電源ユニットダミーを適宜取り外します。
3. 電源ユニットの仕切りをシャーシに固定しているネジを外します。

4. 電源ユニットの仕切りを引き出して時計回りに回し、電源ユニットの仕切りのタブを電源ユニットケースのスロットから外します。
5. 電源ユニットの仕切りをシャーシから引き出します。
6. 新しい電源ユニットの仕切りのタブを、電源ユニットケースのスロットに合わせます。
7. 電源ユニットの仕切りを反時計回りに回してスライドさせながら挿入し、電源ユニットの仕切りのタブを電源ユニットケースのスロットに装着します。
8. 電源ユニットの仕切りをネジでシャーシに固定します。
9. 冗長電源ユニットモジュールまたは電源ユニットダミーを適宜取り付けます。
10. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

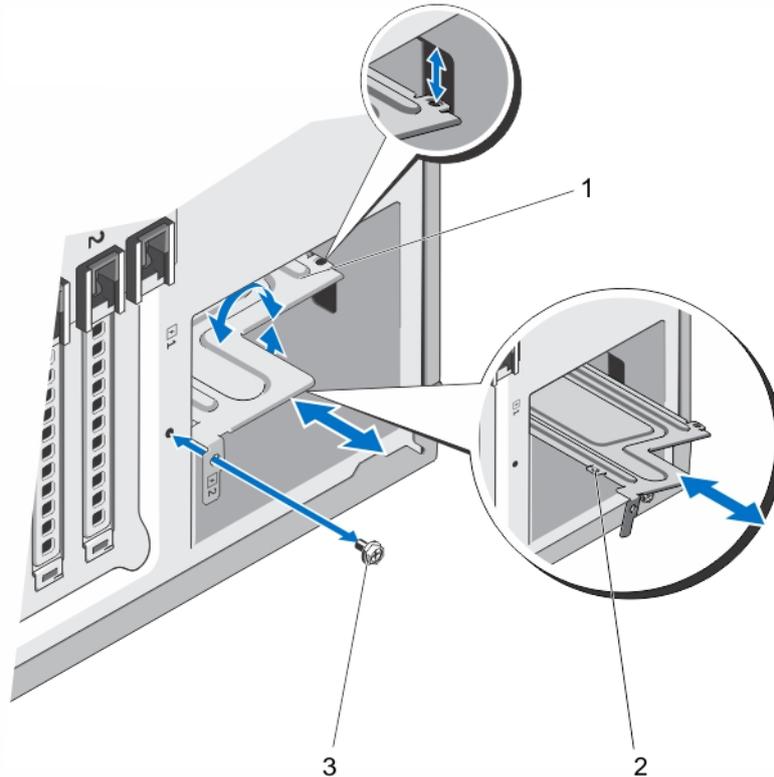


図 54. 電源ユニットの仕切りの取り外しと取り付け

- a. 電源ユニットの仕切り
- b. タブ (4)
- c. ネジ

## 非冗長 AC 電源ユニット

お使いのシステムでは、非冗長 550 W AC 電源ユニットがサポートされています。

**メモ:** 非冗長電源ユニットは、x8 バックプレーンでハードドライブとシステムがケーブル接続されたシステムでサポートされません。

**メモ:** システム構成を選択またはアップグレードする場合は、最適な電力使用を達成できるように、[dell.com/ESSA](https://dell.com/ESSA) の Dell Energy Smart Solution Advisor でシステムの消費電力を検証します。

## 非冗長 AC 電源ユニットの取り外し

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. 電源から電源ケーブルを外します。
4. 電源ユニットから電源ケーブルを外し、ケーブルストラップから電源ケーブルを外します。
5. システムカバーを開きます。
6. システム基板、ハードドライブバックプレーン、ハードドライブ、オプティカルドライブへの電源ユニットのすべての電源ケーブルを適宜取り外します。
7. 電源ユニットをシャーシに固定しているネジを外し、電源ユニットを電源ユニットケースから引き出します。

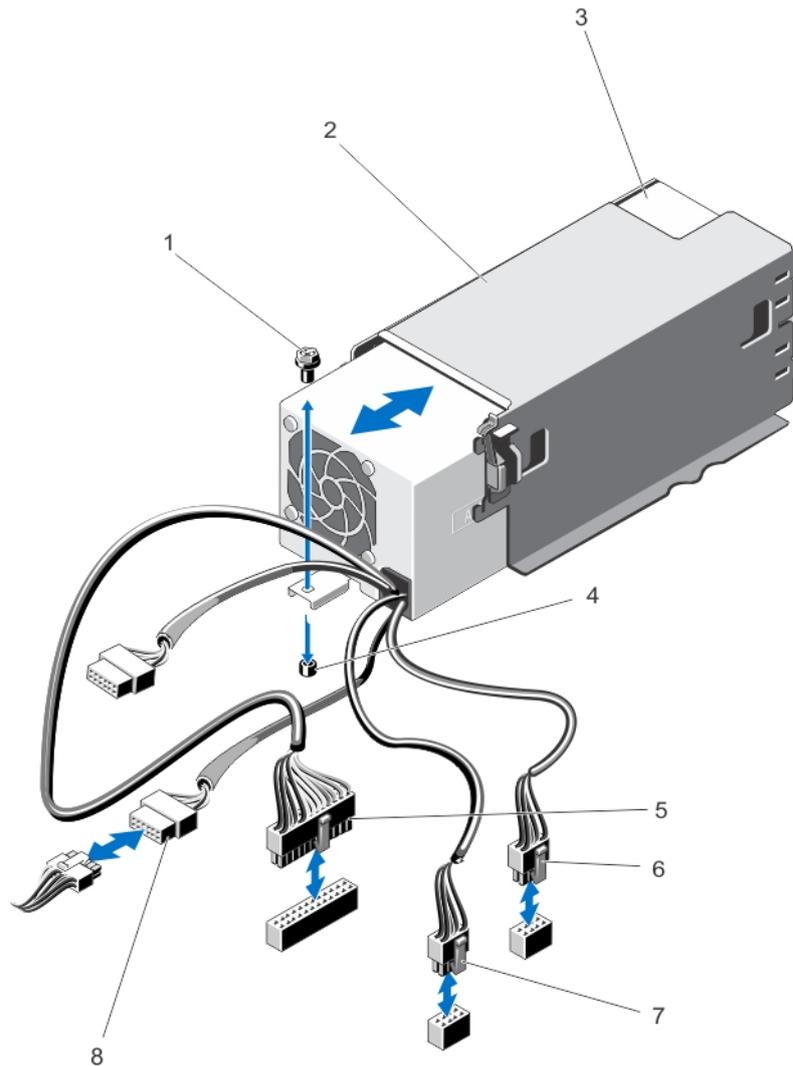


図 55. 非冗長 AC 電源ユニットの取り外しと取り付け

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. ネジ          | 2. 電源ユニットケース   |
| 3. 非冗長電源ユニット   | 4. シャーシ上の突起    |
| 5. P1 ケーブルコネクタ | 6. P2 ケーブルコネクタ |
| 7. P3 ケーブルコネクタ | 8. バックプレーンコネクタ |

## 非冗長 AC 電源ユニットの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 新しい電源ユニットを開梱します。
2. システムカバーを開きます。
3. 新しい電源ユニットを電源ユニットケージに挿入して、完全に装着します。
4. ネジを締めて電源ユニットをシャーシに固定します。
5. すべての電源ケーブルをシステム基板、ハードドライブバックプレーン、ハードドライブ、オプティカルドライブに適宜接続します。
6. システムカバーを閉じます。
7. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
8. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 配電基板と電源干渉基板

配電基板と電源干渉基板は、冗長電源ユニットを搭載したシステムのみでサポートされます。

① **メモ:** 配電基板は電源干渉基板に取り付けてから、システムに搭載します。

## 電源干渉基板の取り外し

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

△ **注意:** 電源干渉基板への損傷を防ぐため、電源ユニットモジュールまたは電源ユニットダミーをシステムから外してから、電源干渉基板または配電基板を取り外してください。

2. 電源ユニットモジュールまたは電源ユニットダミーをシャーシ背面から取り外します。
3. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

4. システムカバーを開きます。
5. 電源ケーブルをハードドライブバックプレーンとシステム基板から外します。

① **メモ:** 拡張カードがある場合は、これを取り外して、P3 電源ケーブルをシステム基板から取り外せるようにします。

6. 配電基板をシャーシに固定している 4 本のネジを外します。
7. 電源干渉基板のリリースラッチを押して、電源干渉基板を電源ユニットケージのフックから外します。
8. 電源干渉基板を配電基板とともに持ち上げてシャーシから引き出します。

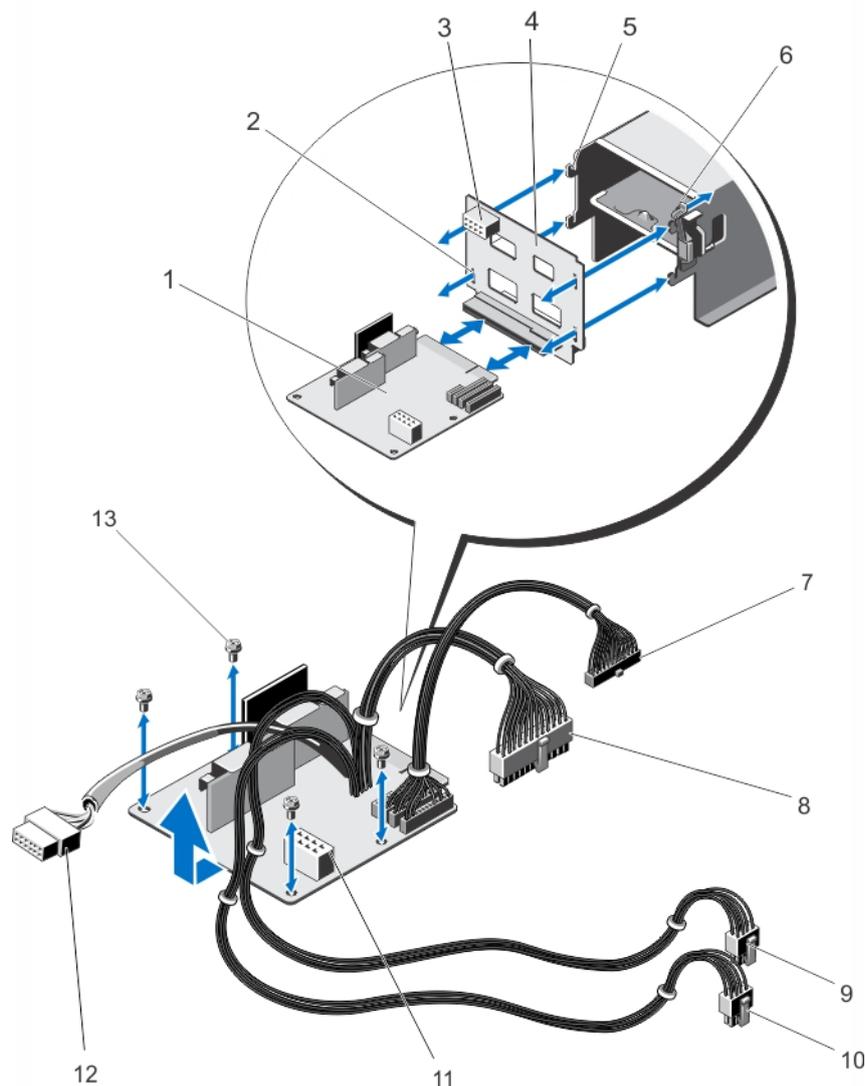


図 56. 電源干渉基板と配電基板の取り外しと取り付け

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| 1. 配電基板        | 2. 電源干渉基板のスロット (4) |
| 3. GPU 電源コネクタ  | 4. 電源干渉基板          |
| 5. フック (4)     | 6. リリースラッチ         |
| 7. P6 ケーブルコネクタ | 8. P1 ケーブルコネクタ     |
| 9. P2 ケーブルコネクタ | 10. P3 ケーブルコネクタ    |
| 11. GPU 電源コネクタ | 12. バックプレーンコネクタ    |
| 13. ネジ (4)     |                    |

## 電源干渉基板の取り付け

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 必要に応じて、配電基板を電源干渉基板に取り付けます。
2. 電源干渉基板を、電源ユニットケースのフックに合わせて所定の位置にスライドします。
3. 配電基板をシャーシに固定する 4 本のネジを取り付けます。

4. 電源ケーブルを適宜、固定クリップに通してシステム基板に接続します。
5. P3 電源ケーブルをシステム基板の固定クリップに通して、ハードドライブバックプレーンに接続します。
6. 電源ユニットモジュールまたは電源ユニットダミーを元の場所に挿入します。
7. システムカバーを閉じます。
8. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます（該当する場合）。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。

## 配電基板の交換

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 電源干渉基板と配電基板を一緒にシステムから取り外します。
2. 配電基板を電源干渉基板から引き出して、新しい配電基板に交換します。
3. 電源干渉基板と配電基板を一緒にシステムに取り付けます。

## システムバッテリー

### システムバッテリーの交換

**① メモ:** バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂するおそれがあります。交換用のバッテリーには、同じ製品か、または製造元が推奨する同等品を使用してください。詳細については、安全に関する注意事項を参照してください。

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. バッテリーソケットの位置を確認します。

**△ 注意:** バッテリーの取り付け、取り外しの際には、バッテリーコネクタが破損しないようにしっかり支えてください。

5. バッテリーを取り外すには、コネクタのプラス側をしっかり押し下げてバッテリーコネクタを支えます。

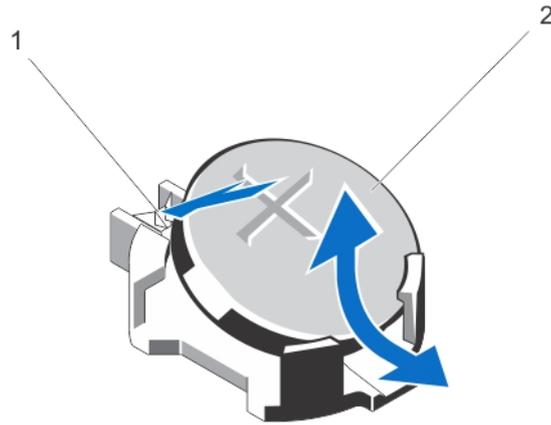


図 57. システムバッテリーの取り外しと取り付け

- a. バッテリーコネクタのプラス (+) 側
- b. システムバッテリー

6. バッテリーをコネクタのマイナス側の固定タブから持ち上げて外します。
7. 新しいシステムバッテリーを取り付けるには、コネクタのプラス側をしっかり押し下げてバッテリーコネクタを支えます。
8. バッテリーの (+) 側を上に向け、コネクタのプラス側にある固定タブの下にスライドさせます。
9. 所定の位置にカチッと収まるまでバッテリーをコネクタに押し込みます。
10. 冷却用エアフローカバーを取り付けます。
11. システムカバーを閉じます。
12. システムを安定した平面にまっすぐに立てて、システムスタビライザーを外側に開きます (該当する場合)。
13. システムおよびシステムに接続されている周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
14. セットアップユーティリティを起動して、バッテリーが正常に動作していることを確認します。
15. セットアップユーティリティの **Time** (時刻) および **Date** (日付) フィールドで正しい時刻と日付を入力します。
16. セットアップユーティリティを終了します。

## コントロールパネルアセンブリ

コントロールパネルアセンブリは次のコンポーネントで構成されています。

- コントロールパネルボード
- LCD モジュールまたは診断インジケータ付きのコントロールパネル
- VGA モジュール (ラックモードのシステムのみ)

診断インジケータのあるコントロールパネルアセンブリは、ケーブル接続されたハードドライブを搭載したシステムおよび x8 バックプレーンを搭載したシステムでサポートされています。LCD モジュール付きのコントロールパネルアセンブリは、ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムのみでサポートされます。

## コントロールパネルアセンブリの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

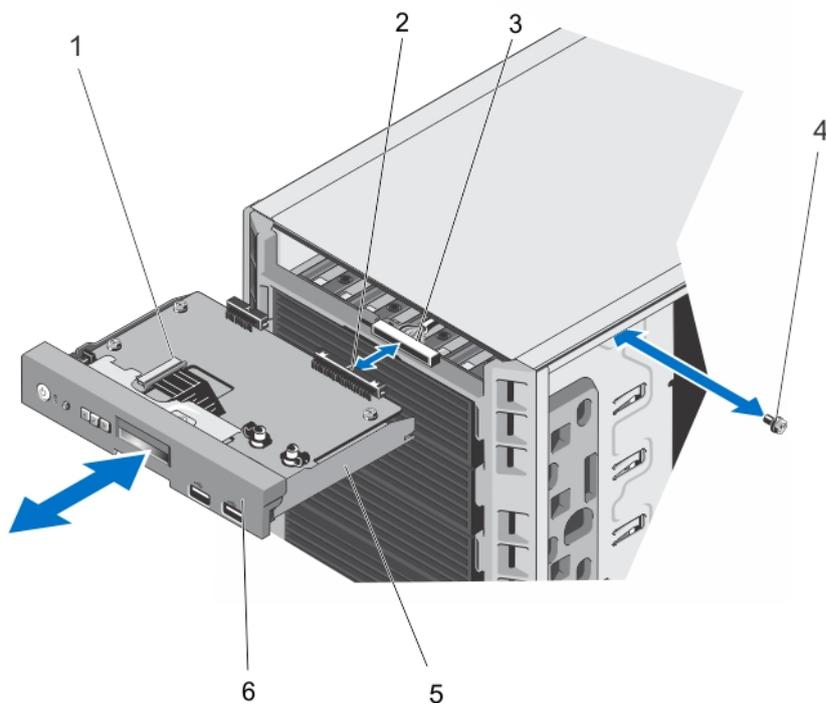
1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. コントロールパネルアセンブリをシャーシに固定しているシャーシ側面のネジを外します。

5. コントロールパネルアセンブリをシャーシから引き出します。

**△ 注意:** コントロールパネルケーブルを外す際に無理な力を加えないように注意してください。コネクタが損傷するおそれがあります。

6. コントロールパネルケーブルを外し、VGA モジュールケーブルがある場合は、これをコントロールパネルアセンブリから外します。

**① メモ:** コントロールパネルケーブルと VGA モジュールケーブル (ある場合) が、シャーシに戻らないようにしてください。



**図 58. タワーモードシステムでのコントロールパネルアセンブリと LCD モジュールの取り外しと取り付け**

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1. LCD モジュール ZIF コネクタ      | 2. コントロールパネルアセンブリのコネクタ |
| 3. コントロールパネルアセンブリのケーブルコネクタ | 4. ネジ                  |
| 5. コントロールパネルアセンブリ          | 6. コントロールパネル           |

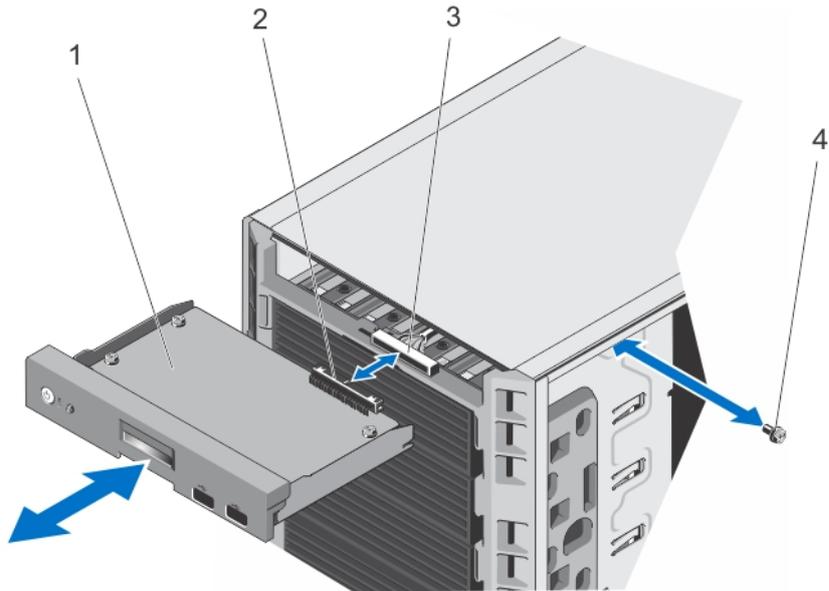


図 59. タワーモードシステムでのコントロールパネルアセンブリと診断インジケータの取り外しと取り付け

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1. コントロールパネルボード            | 2. コントロールパネルアセンブリのコネクタ |
| 3. コントロールパネルアセンブリのケーブルコネクタ | 4. ネジ                  |

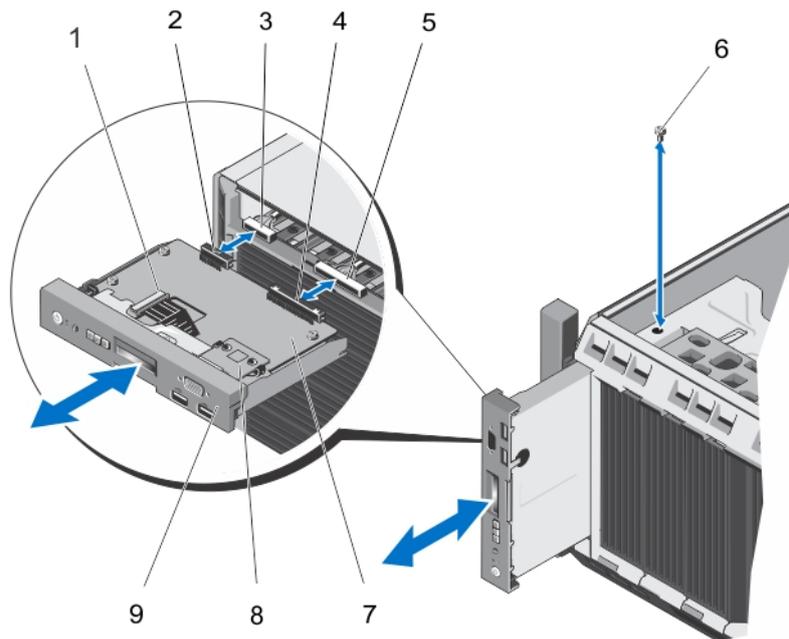


図 60. ラックモードシステムでのコントロールパネルアセンブリの取り外しと取り付け

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1. LCD モジュール ZIF コネクタ      | 2. VGA モジュールコネクタ       |
| 3. VGA モジュールのケーブルコネクタ      | 4. コントロールパネルアセンブリのコネクタ |
| 5. コントロールパネルアセンブリのケーブルコネクタ | 6. ネジ                  |
| 7. コントロールパネルボード            | 8. VGA モジュール           |
| 9. ラックモードのコントロールパネル        |                        |

7. コントロールパネルアセンブリを交換する場合は、次の手順に従って情報タブを外してください。
  - a. 情報タグのタブの位置を確認します。
  - b. マイナスドライバーを使って、タグのタブを一度に1つずつ押します。
  - c. 情報タグをスロットから引き出し、コントロールパネルアセンブリから取り外します。

**① メモ:** 新しいコントロールパネルアセンブリに取り付けるために、情報タグは取っておきます。

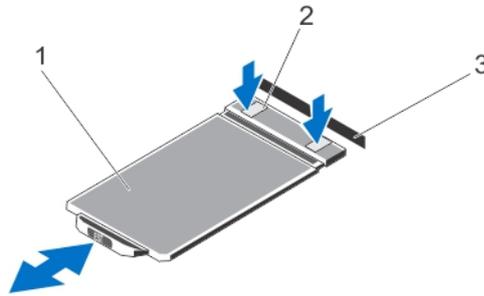


図 61. 情報タグの取り外しと取り付け

- i. 情報タグ
- ii. タブ (2)
- iii. スロット

## コントロールパネルアセンブリの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. コントロールパネルケーブルと VGA モジュールケーブル（ある場合）をコントロールパネルアセンブリに接続します。
2. シャーシのスロットにコントロールパネルアセンブリを合わせて挿入します。

**① メモ:** コントロールパネルアセンブリをスロットに挿入する際、ケーブルを折り曲げないようにしてください。

3. コントロールパネルアセンブリが、シャーシのスロットにぴったり合うように押します。
4. シャーシ側のネジを使って、コントロールパネルアセンブリをシャーシに固定します。
5. 新しいコントロールパネルに付いているダミーの情報タグを古いコントロールパネルから取り外した情報タグと交換します。

**① メモ:** 情報タグには、サービスタグ、NIC、MAC アドレス等のシステム情報が記載されています。

6. システムカバーを閉じます。
7. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
8. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## コントロールパネルの取り外し

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. コントロールパネルをコントロールパネルアセンブリからずらします。
4. コントロールパネルをコントロールパネルアセンブリから引き出します。

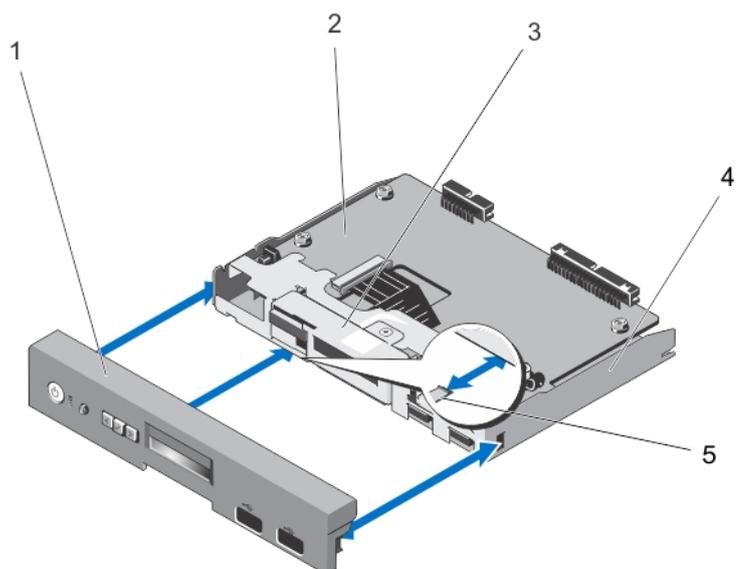


図 62. LCD モジュールを搭載したシステムでのコントロールパネルの取り外しと取り付け

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1. コントロールパネル | 2. コントロールパネルボード   |
| 3. LCD モジュール | 4. コントロールパネルアセンブリ |
| 5. タブ (3)    |                   |

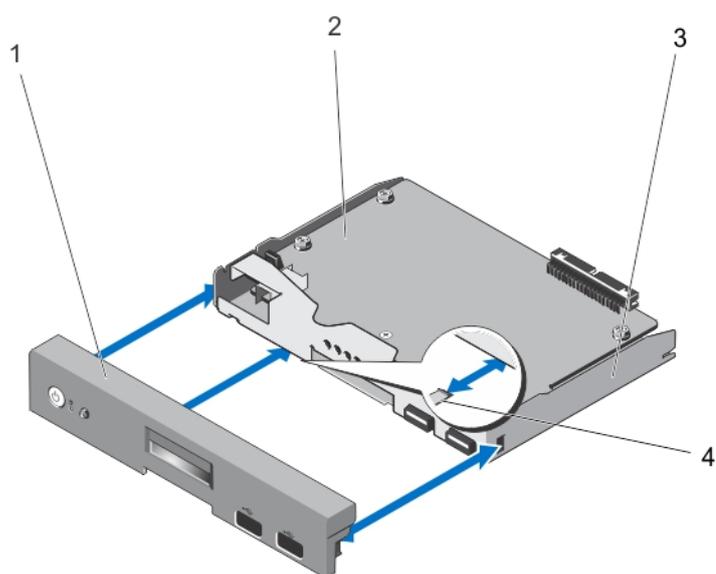


図 63. 診断インジェクターを搭載したシステムでのコントロールパネルの取り外しと取り付け

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1. コントロールパネル      | 2. コントロールパネルボード |
| 3. コントロールパネルアセンブリ | 4. タブ (3)       |

## コントロールパネルの取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な

修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. コントロールパネルの内側3つのタブをコントロールパネルアセンブリのスロットに合わせます。
2. コントロールパネルを、所定の位置に収まるまでコントロールパネルアセンブリ内に差し込みます。
3. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
4. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## LCD モジュールを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. コントロールパネルアセンブリを取り外します。
5. コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリに固定している3本のネジを外します。
6. LCD ZIF ケーブルを、コントロールパネルボードの LCD モジュール ZIF コネクタから外します。

**① メモ:** LCD モジュールコネクタは ZIF ( zero insertion force : ゼロ挿入力 ) コネクタです。コネクタの取り外しと取り付け前には、コネクタのロックタブが解除されていることを確認してください。取り付け後はロックタブをロックする必要があります。

7. コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリから持ち上げて取り外します。
8. ラックモードのシステムでコントロールパネルボードを交換する場合は、コントロールパネルボードから VGA モジュールを取り外します。

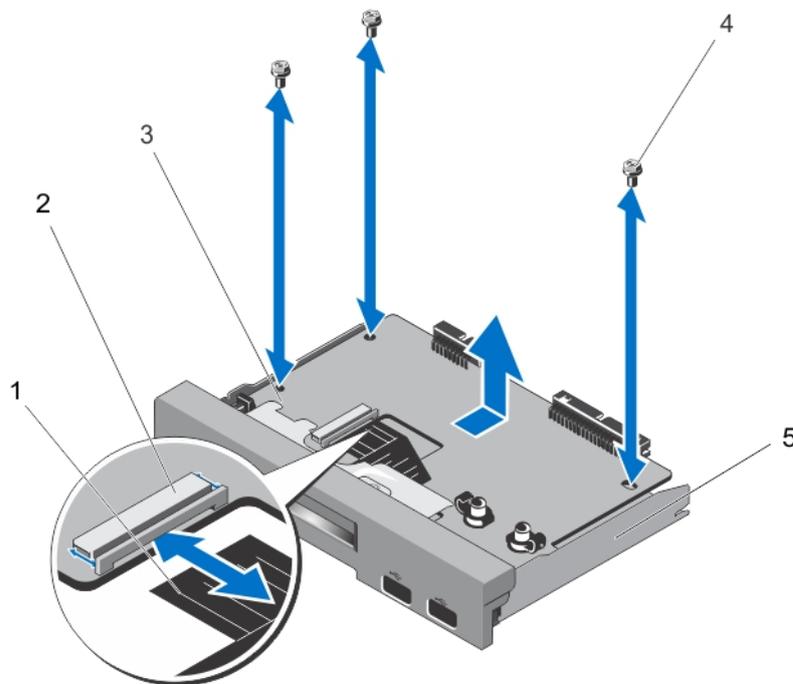


図 64. LCD モジュールを搭載したコントロールパネルボードの取り外しと取り付け

1. LCD ZIF ケーブル
2. LCD モジュール ZIF コネクタ
3. コントロールパネルボード
4. ネジ (3)

## LCD モジュールを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. コントロールパネルボードとコントロールパネルアセンブリを、ネジ穴を使って合わせます。
2. 3本のネジを使って、コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリに固定します。
3. LCD ZIF ケーブルを、コントロールパネルボードの LCD モジュール ZIF コネクタに接続します。
  - ① メモ:** LCD モジュールコネクタは ZIF (zero insertion force : ゼロ挿入力) コネクタです。コネクタの取り外しと取り付け時には、コネクタのロックタブが解除されていることを確認してください。取り付け後はロックタブをロックする必要があります。
4. ラックモードのシステムでコントロールパネルボードを交換する場合は、コントロールパネルボードに VGA モジュールを取り付けます。
5. コントロールパネルアセンブリをシャーシに取り付けます。
6. システムカバーを閉じます。
7. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
8. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## 診断インジケータを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**① メモ:** 診断インジケータ付きのコントロールパネルアセンブリは、ハードドライブをケーブル接続したシステムと x8 バックプレーンを搭載したシステムでサポートされています。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. コントロールパネルアセンブリを取り外します。
5. コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリに固定している3本のネジを外します。
6. コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリから持ち上げて取り外します。

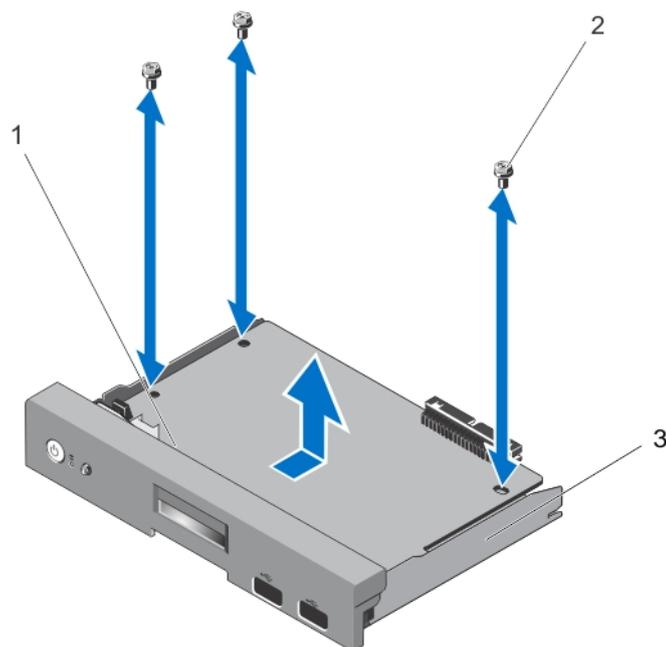


図 65. 診断インジケータ付きのコントロールパネルボードの取り外しと取り付け

- a. コントロールパネルボード
- b. ネジ (3)
- c. コントロールパネルアセンブリ

## 診断インジケータを搭載したシステムのコントロールパネルボードの取り付け

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**① メモ:** 診断インジケータ付きのコントロールパネルアセンブリは、ハードドライブをケーブル接続したシステムと x8 バックプレーンを搭載したシステムでサポートされています。

1. コントロールパネルボードとコントロールパネルアセンブリを、ネジ穴を使って合わせます。
2. 3本のネジを使って、コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリに固定します。
3. コントロールパネルアセンブリをシャーシに取り付けます。
4. システムカバーを閉じます。
5. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
6. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## LCD モジュールの取り外し

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。

3. システムカバーを開きます。
4. コントロールパネルアセンブリを取り外します。
5. コントロールパネルをコントロールパネルアセンブリから外します。
6. LCD ZIF ケーブルを、コントロールパネルボードの LCD モジュール ZIF コネクタから外します。
  - ① **メモ:** LCD モジュールコネクタは ZIF ( zero insertion force : ゼロ挿入力 ) コネクタです。コネクタの取り外しと取り付け前には、コネクタのロックタブが解除されていることを確認してください。取り付け後はロックタブをロックする必要があります。
7. LCD モジュールをコントロールパネルアセンブリに固定しているネジを外し、LCD モジュールを引き出します。

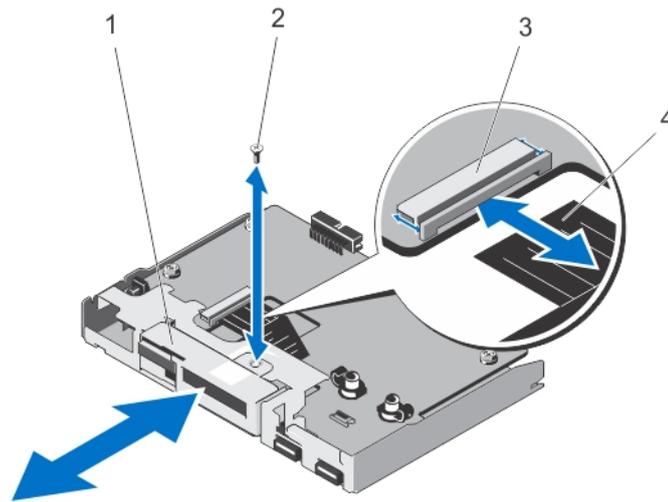


図 66. LCD モジュールの取り外しと取り付け

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. LCD モジュール          | 2. ネジ           |
| 3. LCD モジュール ZIF コネクタ | 4. LCD ZIF ケーブル |

## LCD モジュールの取り付け

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. LCD モジュールをコントロールパネルアセンブリの LCD モジュールスロットに合わせ、挿入します。
2. LCD モジュールをコントロールパネルアセンブリにネジで固定します。
3. LCD ZIF ケーブルを、コントロールパネルボードの LCD モジュール ZIF コネクタに接続します。
  - ① **メモ:** LCD モジュールコネクタは ZIF ( zero insertion force : ゼロ挿入力 ) コネクタです。コネクタの取り外しと取り付け前には、コネクタのロックタブが解除されていることを確認してください。取り付け後はロックタブをロックする必要があります。
4. コントロールパネルボードをコントロールパネルアセンブリに取り付けます。
5. コントロールパネルアセンブリをシャーシに取り付けます。
6. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
7. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

## VGA モジュールの取り外し — ラックモード

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 前面ベゼルが取り付けられている場合は、取り外します。
2. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. コントロールパネルアセンブリを取り外します。
5. VGA モジュールをコントロールパネルボードの固定タブから持ち上げます。
6. VGA ケーブルをコントロールパネルアセンブリから外します。

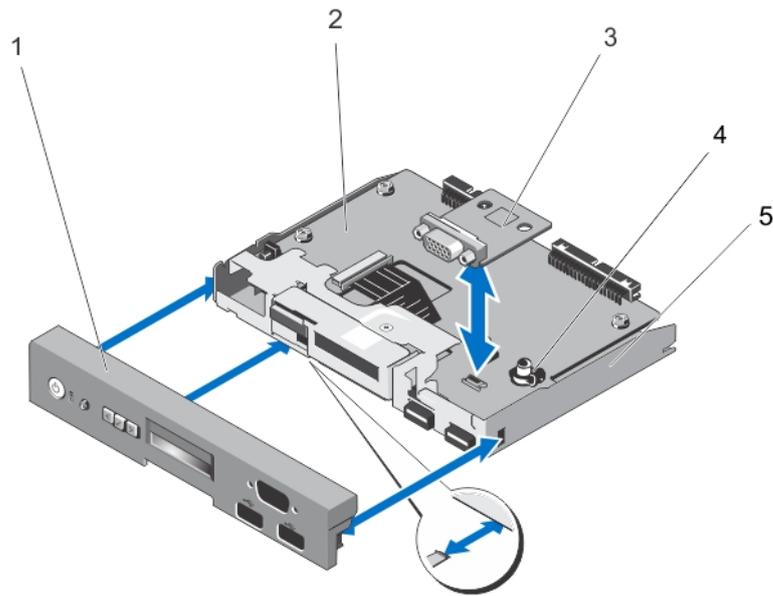


図 67. VGA モジュールの取り外しと取り付け

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1. コントロールパネル      | 2. コントロールパネルボード |
| 3. VGA モジュール      | 4. 固定タブ (2)     |
| 5. コントロールパネルアセンブリ |                 |

## VGA モジュールの取り付け — ラックモード

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. VGA モジュールをコントロールパネルボードの固定タブに合わせます。
2. VGA モジュールを挿入し、固定タブに完全に装着されるまで押し込みます。
3. VGA ケーブルをディスプレイパネルアセンブリに接続します。
4. ラックモードのコントロールパネルをコントロールパネルアセンブリに取り付けます。
5. コントロールパネルアセンブリを取り付けます。
6. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
7. 前面ベゼルを取り外した場合は、取り付けます。

# システム基板

## システム基板の取り外し

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** 暗号化キーのある **Trusted Program Module (TPM、信頼済みプログラムモジュール)** を使用している場合、プログラムまたはセットアップユーティリティの実行中、リカバリキーを作成するようにメッセージ表示されることがあります。このリカバリキーを作成して、安全な場所に保存してください。このシステム基板を交換した場合、ハードドライブ上の暗号化データにアクセスするには、システムまたはプログラムを再起動する時に、リカバリキーを入力する必要があります。

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。
  - ① **メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。
3. システムカバーを開きます。
4. 必要に応じて以下を取り外します。
  - a. 冷却用エアフローカバー
  - b. PCIe カードホルダ
  - c. システム冷却ファン
  - d. すべての拡張カード
    - ① **メモ:** ヒートシンクとプロセッサは、システムの電源を切った後もしばらくは高温です。ヒートシンクとプロセッサが冷えるのを待ってから作業してください。
  - e. ヒートシンクとプロセッサ
  - f. 内蔵デュアル SD モジュール
  - g. iDRAC ポートカード
  - h. メモリモジュール
  - i. 内蔵 USB キー
5. システム基板から全てのケーブルを外します。
  - △ **注意:** システム基板をシャーシから取り外す際には、システム識別ボタンに損傷を与えないように注意してください。
6. システム基板をシャーシに固定している 11 本のネジを取り外します。
7. システム基板ホルダをつかみ、システム基板をシステムの前方に引き出します。
  - △ **注意:** メモリモジュール、プロセッサ、その他のコンポーネントをつかんでシステム基板アセンブリを持ち上げないでください。

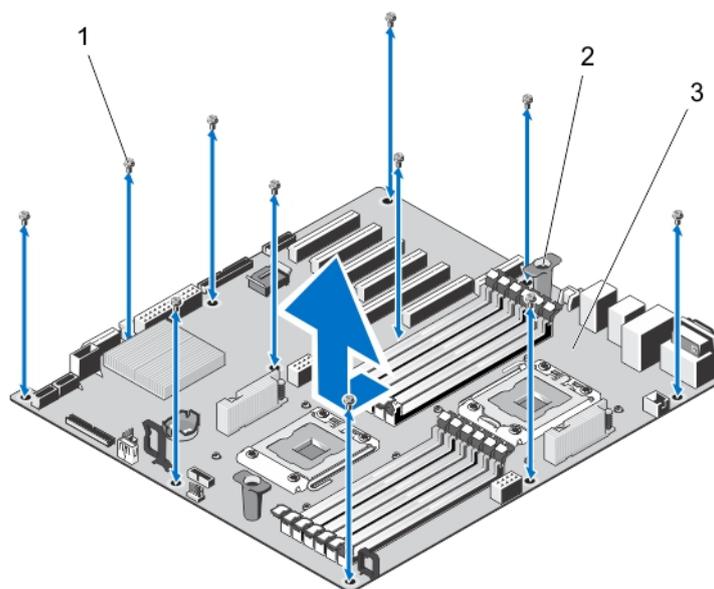


図 68. システム基板の取り外し

- a. ネジ (11)
- b. システム基板ホルダ (2)
- c. システム基板

## システム基板の取り付け

△ **注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

△ **注意:** 暗号化キーのある **Trusted Program Module (TPM、信頼済みプログラムモジュール)** を使用している場合、プログラムの実行中、またはセットアップユーティリティでリカバリキーを作成するプロンプトが表示されることがあります。このリカバリキーを作成して安全な場所に保管するようにしてください。このシステム基板を交換すると、ハードドライブ上の暗号化データにアクセスするためには、システムまたはプログラムを再起動する時に、リカバリキーを入力する必要があります。

1. 新しいシステム基板アセンブリのパッケージを開きます。

△ **注意:** メモリモジュール、プロセッサ、その他のコンポーネントをつかんでシステム基板アセンブリを持ち上げないでください。

2. タッチポイントを持ち、システム基板をシャーシ内に押し下げて、システム基板のガイドスロットをシャーシのタブに合わせます。

① **メモ:** システム基盤のガイドスロットは、システム基盤の端部、メモリモジュールのそばにあります。

3. 所定の位置にカチッと固定されるまで、システム基板をシャーシの後方へ押し込みます。

4. 11本のネジを締めて、システム基板をシャーシに固定します。

① **メモ:** 最初にシステム基板の端部から、次に対角線に沿って、すべてのネジを締めます。

5. 以下を取り付けます（該当する場合）。

- a. ヒートシンクとプロセッサ

- b. メモリモジュール
  - c. 内蔵デュアル SD モジュール
  - d. 内蔵 USB キー
  - e. 拡張カード
  - f. iDRAC ポートカード
  - g. PCIe カードホルダ
  - h. システム冷却ファン
  - i. 冷却用エアフローカバー
6. すべてのケーブルをシステム基板に再接続します。
  7. システムカバーを閉じます。
  8. システムをまっすぐに立てて、安定した平面に置き、システムのスタビライザを外側に開きます (該当する場合)。
  9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
  10. 新規または既存の iDRAC Enterprise ライセンスをインポートします。詳細については、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) で『iDRAC7 User's Guide』( iDRAC7 ユーザーズガイド ) を参照してください。

# タワーモードからラックモードへのシステムの変換

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**① メモ:** ホットスワップ対応のハードドライブを搭載したシステムのみをラックに取り付けることができます。

トピック：

- ・ 安全にお使いいただくために
- ・ タワーモードからラックモードにシステムを変換するための準備
- ・ ラックの取り付け

## 安全にお使いいただくために

**① メモ:** 特定の注意文および手順については、システムおよびラックキットに付属のラック取り付けマニュアルを参照してください。安全および規制の完全な詳細については、システムに付属の「安全にお使いいただくために」を参照してください。

ラックモードのシステムの安定性と安全性については、以下の注意事項を守ってください。

- お手元のラックキットは、提供されたラックキャビネットのみに承認されたものです。その他のラックに装置を設置する場合は、適用規格に準拠していることを確認してください。デルは、機器とその他のラックの組み合わせについて、いかなる責任も保証も行いません。
- 機器をラックに設置する前に、正面と側面にスタビライザーを必ず取り付けてください。スタビライザーがない場合、ラックが転倒する可能性があります。
- ラックには必ず下から上へと、最も重いものから順に設置します。
- ラックに電力を供給する AC 電源に過重電流を流さないでください。
- ラック内のコンポーネントの上に乗ったり、足をかけたりしないでください。

## タワーモードからラックモードにシステムを変換するための準備

システムをタワーからラックモードに変換するには、以下のものがが必要です。

- ラックタブ（左右）とネジが 3 本ずつ
- VGA モジュール
- ラックモードのコントロールパネル
- #2 プラスドライバー

1. システムと周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外し、周辺機器をシステムから外します。
2. システムスタビライザーを内側に回して、システムを安定した平面に横向きに配置します（該当する場合）。

**① メモ:** ホイールアセンブリが取り付けられたシステムの場合は、硬い安定した平面にシステムを設置して、ホイールアセンブリが平面の端から出た状態にします。

3. 必要に応じて、システムスタビライザーまたはホイールアセンブリを取り外します。
4. システムカバーを開きます。
5. 以下の手順に従って、システムの上部カバーを外します。

- a. システムの上部カバーをシステムシャーシに固定している、システム側面の3本のネジを、#2 プラスドライバを使用して外します。
- b. 上部パネルをシステムの背面へ向けてスライドして、パネルフックをシャーシスロットから外します。
- c. パネルの空いている側を約15度外側に向け、パネルをシステムから引き出します。

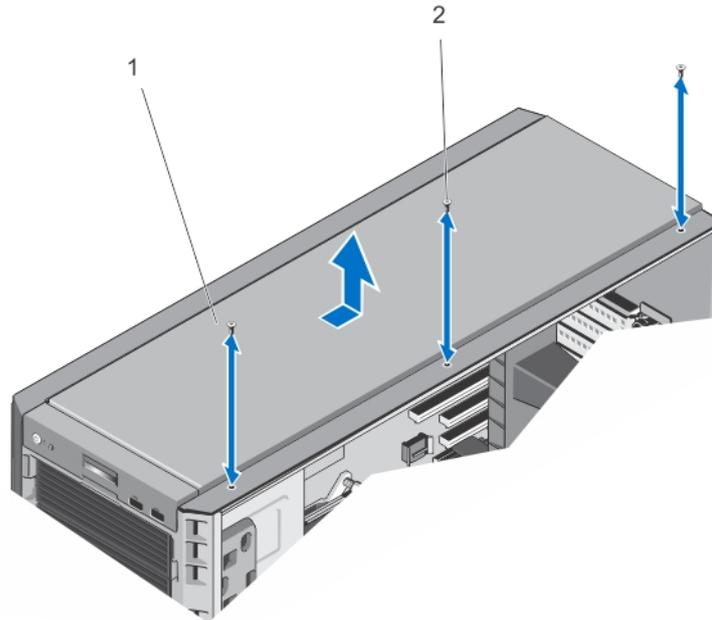


図 69. システムの上部カバーの取り外しと取り付け

- i. システムの上部カバー
  - ii. ネジ (3)
6. コントロールパネルアセンブリをシャーシから取り外します。
  7. タワーモードのコントロールパネルをコントロールパネルアセンブリから外します。
  8. VGA モジュールをコントロールパネルアセンブリに取り付けます。
  9. ラックモードのコントロールパネルを取り付けます。
  10. コントロールパネルアセンブリをシャーシに取り付けます。
  11. ラックタブを取り付けるには、以下の手順に従ってください。
    - a. 右側のラックタブの3つのネジ穴を、ラックシステムの右側のネジ穴に合わせます。
    - b. #2 プラスドライバを使って、3本のネジを締めます。
    - c. 手順 a と手順 b を繰り返して、左側のラックタブを取り付けます。

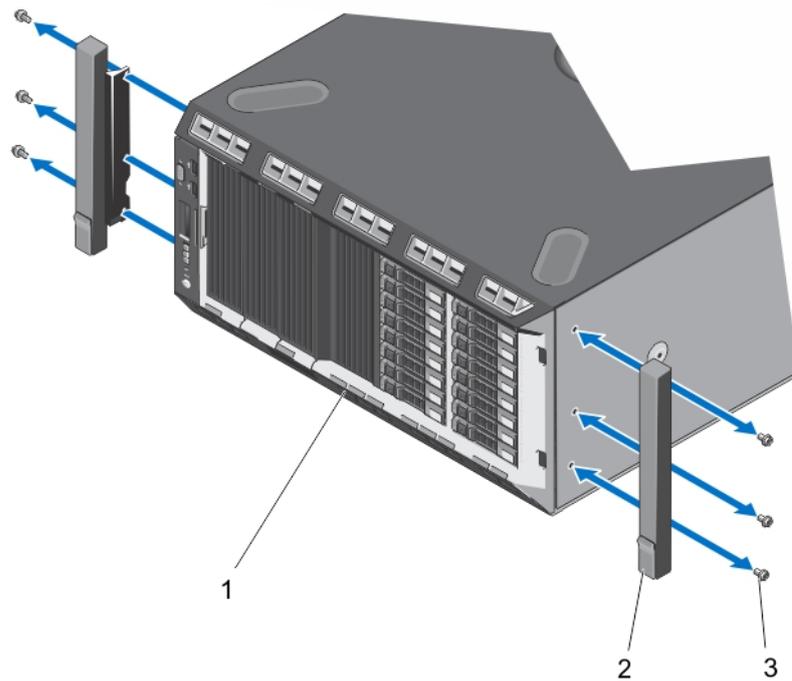


図 70. ラックタブの取り外しと取り付け

- i. 前面パネル
- ii. ラックタブ (2)
- iii. 各ラックタブのネジ (3)

12. システムカバーを閉じます。

## ラックの取り付け

システムをラックに取り付けるには、システムに付属の『ラックインストールガイド』を参照してください。

# システムのトラブルシューティング

## 作業にあたっての注意

**△注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

トピック：

- ・ システム起動エラーのトラブルシューティング
- ・ 外部接続のトラブルシューティング
- ・ ビデオサブシステムのトラブルシューティング
- ・ USB デバイスのトラブルシューティング
- ・ シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング
- ・ NIC のトラブルシューティング
- ・ システムが濡れた場合のトラブルシューティング
- ・ システムが損傷した場合のトラブルシューティング
- ・ システムバッテリーのトラブルシューティング
- ・ 冗長電源ユニットのトラブルシューティング
- ・ 冗長電源ユニットのトラブルシューティング
- ・ 冷却問題のトラブルシューティング
- ・ 冷却ファンのトラブルシューティング
- ・ システムメモリのトラブルシューティング
- ・ 内蔵 USB キーのトラブルシューティング
- ・ SD カードのトラブルシューティング
- ・ オプティカルドライブまたはテープドライブのトラブルシューティング
- ・ ハードディスクドライブのトラブルシューティング
- ・ 拡張カードのトラブルシューティング
- ・ プロセッサのトラブルシューティング

## システム起動エラーのトラブルシューティング

オペレーティングシステムを UEFI ブートマネージャからインストールした後にシステムを BIOS 起動モードで起動すると、システムがハングします。この逆についても同じです。オペレーティングシステムをインストールしたのと同じ起動モードで起動する必要があります。

起動時に発生するその他すべての問題については、画面に表示されるシステムメッセージを書きとめておきます。

## 外部接続のトラブルシューティング

外付けデバイスのトラブルシューティングを行う前に、すべての外部ケーブルがシステムの外部コネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

## ビデオサブシステムのトラブルシューティング

1. モニタへのシステムおよび電源接続をチェックします。
2. システムからモニタへのビデオインタフェースのケーブル配線をチェックします。

### 3. 適切な Diagnostic (診断) テストを実行します。

テストが正常に終了したら、問題はビデオハードウェアに関連するものではありません。

テストに失敗した場合は、「困ったときは」を参照してください。

## USB デバイスのトラブルシューティング

USV キーボード / マウスのトラブルシューティングには、次の手順を実行してください。他の USB デバイスについては、手順 7 に進みます。

1. システムからキーボードとマウスのケーブルを短時間外し、再接続します。
2. キーボード / マウスをシステムの反対側の USB ポートに接続します。
3. これで問題が解決した場合は、システムを再起動し、セットアップユーティリティを起動して、機能していない USB ポートが有効になっているかどうかを確認します。
4. キーボード / マウスを動作確認済みの別のキーボード / マウスと取り替えます。
5. これで問題が解決した場合は、障害のあるキーボード / マウスを交換します。
6. 問題が解決しない場合は、次の手順に進んで、システムに取り付けられているその他の USB デバイスのトラブルシューティングを開始します。
7. 取り付けられているすべての USB デバイスの電源を切り、システムから外します。
8. システムを再起動し、キーボードが機能している場合は、セットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティオプションの **Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で、すべての USB ポートが有効化されていることを確認します。  
キーボードが機能していない場合は、リモートアクセスも利用できます。システムにアクセスできない場合は、システム内の NVRAM\_CLR ジャンパをリセットし、BIOS をデフォルト設定に復元します。
9. 各 USB デバイスを一度に 1 つずつ再接続し、電源を入れます。
10. 同じ問題が発生するデバイスがあれば、そのデバイスの電源を切り、USB ケーブルを動作確認済みのケーブルと交換して、デバイスの電源を入れます。

すべてのトラブルシューティングに失敗する場合は、「困ったときは」を参照してください。

## シリアル I/O デバイスのトラブルシューティング

1. システム、およびシリアルポートに接続された周辺機器すべての電源を切ります。
2. シリアルインタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと取り替え、システムとシリアルデバイスの電源を入れます。  
問題が解決したら、インタフェースケーブルを動作確認済みのケーブルと交換します。
3. システムとシリアルデバイスの電源を切り、デバイスを同じタイプのデバイスと取り替えます。
4. システムとシリアルデバイスの電源を入れます。

問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

## NIC のトラブルシューティング

1. 適切な Diagnostic (診断) テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「システム診断の使用」を参照してください。
2. システムを再起動し、NIC コントローラに関するシステムメッセージがないかチェックします。
3. NIC コネクタの該当するインジケータを確認します。
  - リンクインジケータが点灯しない場合は、すべてのケーブル接続を確認します。
  - アクティビティインジケータが点灯しない場合は、ネットワークドライバファイルが損傷しているか、失われた可能性があります。該当する場合は、ドライバを削除し、再インストールします。NIC のマニュアルを参照してください。
  - 必要に応じて、オートネゴシエーション設定を変更します。
  - スイッチまたはハブの別のコネクタを使用します。

- 適切なドライバがインストールされ、プロトコルがバインドされていることを確認します。NIC のマニュアルを参照してください。
  - セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面で NIC ポートが有効になっていることを確認します。
  - ネットワーク上の NIC、ハブ、およびスイッチが、すべて同じデータ転送速度、および二重に設定されていることを確認します。各ネットワークデバイスのマニュアルを参照してください。
  - すべてのネットワークケーブルのタイプが適切で、最大長を超えていないことを確認します。
- すべてのトラブルシューティングが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

## システムが濡れた場合のトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

- システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- システムカバーを開きます。
- 以下のコンポーネントをシステムから取り外します。
  - ハードドライブ
  - ハードドライブバックプレーン
  - USB メモリキー
  - 冷却用エアフローカバー
  - 拡張カード
  - 電源ユニット
  - 冷却ファン
  - プロセッサとヒートシンク
  - メモリモジュール

- システムを完全に乾燥させます (少なくとも 24 時間)。
- 手順 3 で取り外したコンポーネントを取り付けます。
- システムカバーを閉じます。
- システムと周辺機器の電源を入れます。

システムが正常に起動しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

- システムが正常に起動する場合は、システムをシャットダウンして、取り外した拡張カードをすべて取り付けます。
- 適切な診断テストを実行します。詳細については、「[システム診断プログラムの実行](#)」を参照してください。

テストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

## システムが損傷した場合のトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

- システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
- システムカバーを開きます。
- 以下のコンポーネントが正しく取り付けられていることを確認します。
  - 冷却用エアフローカバー
  - 拡張カード
  - 電源ユニット
  - 冷却ファン

- プロセッサとヒートシンク
- メモリモジュール
- ハードドライブキャリア
- ハードドライブバックプレーン

4. すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認します。
5. システムカバーを閉じます。
6. 適切な診断テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。  
テストが失敗した場合は、「困ったときは」を参照してください。

## システムバッテリーのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**ⓘ メモ:** システムの電源が長い期間（数週間から数か月）切られていた場合、NVRAM からシステム設定情報が失われる可能性があります。この状態は不良バッテリーが原因で発生します。

1. セットアップユーティリティで時刻と日付を再入力します。
2. システムの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから少なくとも1時間外しておきます。
3. 電源ケーブルをコンセントに再接続し、システムの電源を入れます。
4. セットアップユーティリティを起動します。

セットアップユーティリティの日付と時刻が正しくない場合は、SEL でシステムバッテリーに関するメッセージをチェックします。

問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

**ⓘ メモ:** 一部のソフトウェアは、システム時間が速くなったり遅くなったりする原因となる場合があります。セットアップユーティリティの時刻以外はシステムが正常に動作していると思われる場合、この問題は不良バッテリーではなく、ソフトウェアに起因するものである可能性があります。

## 非冗長電源ユニットのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 電源ユニットの自己診断ボタンを押します。
2. 電源ユニットのステータスインジケータが点灯しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. 電源ユニットを装着しなおして、ケーブルを再び取り付けます。
5. システムカバーを閉じます。
6. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

## 冗長電源ユニットのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 電源ユニットを取り外し、取り付けなおすことによって、再装着します。

**メモ:** 電源ユニットの取り付け後、システムが電源ユニットを認識し、正しく動作していることを確認するまで数秒待ちます。

2. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

## 冷却問題のトラブルシューティング

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

次の状態が発生していないことを確認してください。

- システムカバー、冷却用エアフローカバー、EMI フィラーパネル、メモリモジュールのダミー、または背面フィラーブラケットが取り外されている。
- 室温が高すぎる。
- 外部の通気が遮断されている。
- 冷却ファンが取り外されている、または故障している。
- 拡張カードの取り付けガイドラインに準拠していない。

## 冷却ファンのトラブルシューティング

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムカバーを開きます。
2. ファンを装着しなおすか、またはファンの電源ケーブルを抜き差しします。
3. ファンが正常に動作する場合は、システムカバーを閉じます。

問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

## システムメモリのトラブルシューティング

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムが動作可能な場合、適切な Diagnostics（診断）テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。  
診断で障害が示された場合は、診断プログラムによって示される対応処置を行います。
2. システムが動作しない場合、システムおよび周辺機器の電源を切り、コンセントからシステムを外します。少なくとも 10 秒待ってから、システムを電源に再接続します。
3. システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、画面のメッセージをメモします。  
特定のメモリモジュールにおける障害を示すエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。
4. セットアップユーティリティを起動し、システムメモリ設定をチェックします。必要に応じてメモリ設定を変更します。  
メモリの設定が取り付けられているメモリと一致しているにもかかわらず、引き続きエラーメッセージが表示される場合は、手順 12 に進みます。
5. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。

6. システムカバーを開きます。
7. メモリチャンネルをチェックし、正しく装着されていることを確認します。
8. ソケットに装着されている各メモリモジュールを抜き差しします。
9. システムカバーを閉じます。
10. セットアップユーティリティを起動して、システムメモリの設定を確認します。

問題が解決しない場合は、次の手順に進みます。

11. システムカバーを開きます。
  12. Diagnostic (診断) テストまたはエラーメッセージで特定のメモリに障害があることが表示された場合、そのモジュールを動作確認済みのメモリモジュールと取り替え、または交換します。
  13. 特定されていないメモリモジュールで障害が発生している場合のトラブルシューティングを行うには、1 番目の DIMM ソケットに装着されているメモリモジュールを同じタイプおよび容量のモジュールと交換します。  
画面にエラーメッセージが表示される場合、取り付けられた DIMM のタイプ、誤った DIMM の取り付け、または不良 DIMM 関連の問題である場合があります。画面上の手順に従って、問題を解決します。詳細については、「メモリモジュール取り付けの一般的なガイドライン」を参照してください。
  14. システムカバーを閉じます。
  15. システムの起動中、表示されるエラーメッセージ、およびシステム前面の診断インジケータを観察します。
  16. メモリの問題が引き続き表示される場合は、取り付けられているメモリモジュールごとに、手順 12~15 を繰り返します。
- すべてのメモリモジュールをチェックしても問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

## 内蔵 USB キーのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムユーティリティを起動し、**Integrated Devices** (内蔵デバイス) 画面から、**USB key port** (USB キーポート) が有効化されていることを確認します。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. USB キーの位置を確認し、抜き差しします。
5. システムカバーを閉じます。
6. システムおよび接続されている周辺機器の電源を入れ、USB キーが機能しているかどうかチェックします。
7. 問題が解決されない場合は、手順 2 および 3 に進みます。
8. 動作確認済みの別の USB キーを挿入します。
9. システムカバーを閉じます。

問題が解決しない場合、「困ったときは」を参照してください。

## SD カードのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**ⓘ メモ:** 特定の SD カードには、カード上に物理的な書き込み保護スイッチがあります。書き込み保護スイッチがオンになっていると、SD カードには書き込みできません。

1. セットアップユーティリティを起動し、**Internal SD Card Port** (内蔵 SD カードポート) が有効になっていることを確認します。
2. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを開きます。

**注意:** セットアップユーティリティの **Integrated Devices (内蔵デバイス)** 画面で **Internal SD Card Redundancy (内蔵 SD カードの冗長性)** オプションを **Mirror Mode (ミラーモード)** に設定している場合は、データ損失を避けるため、手順 4 から 6 の手順を実行する必要があります。

**メモ:** SD カード障害が発生すると、内蔵デュアル SD モジュールコントローラがシステムに通知します。次の再起動で、システムが障害を示すメッセージを表示します。

4. **Internal SD Card Redundancy (内蔵 SD カードの冗長性)** オプションが **Disabled (無効)** に設定されている場合は、障害の発生した SD カードを新しい SD カードと交換します。
5. SD カード 1 が故障した場合、そのカードを SD カードスロット 1 から取り外します。SD カード 2 が故障した場合は、SD カードスロット 2 に新しい SD カードを取り付け、手順 7 に進みます。
6. SD カードスロット 2 に取り付けられているカードを取り外し、SD カードスロット 1 に挿入します。
7. 新しい SD カードを SD カードスロット 2 に挿入します。
8. システムカバーを閉じます。
9. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
10. セットアップユーティリティを起動し、**Internal SD Card Port (内蔵 SD カードポート)** と **Internal SD Card Redundancy (内蔵 SD カードの冗長性)** モードが有効になっていることを確認します。
11. SD カードが正常に機能しているかどうかを確認します。  
問題が解決しない場合は、「**困ったときは**」を参照してください。

## オプティカルドライブまたはテープドライブのトラブルシューティング

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 別の CD または DVD を使用してみます。
2. セットアップユーティリティを起動し、内蔵 SATA コントローラとドライブの SATA ポートが有効になっていることを確認します。
3. 適切な診断テストを実行します。
4. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
5. システムカバーを開きます。
6. 前面ベゼルを取り外します。
7. インタフェースケーブルがドライブおよびコントローラにしっかり接続されていることを確認します。
8. 電源ケーブルがドライブに正しく接続されていることを確認します。
9. システムカバーを閉じます。

問題が解決しない場合は、「**困ったときは**」を参照してください。

## ハードディスクドライブのトラブルシューティング

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**注意:** このトラブルシューティング手順により、ハードディスクドライブに保存されたデータが削除されるおそれがあります。続行する前に、ハードディスクドライブ上のすべてのファイルをバックアップしてください。

1. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。  
Diagnostics (診断) テストの結果に応じて、随時次の手順を実行します。

2. システムに RAID コントローラが搭載され、お使いのハードディスクドライブが RAID アレイに設定されている場合は、次の手順を実行します。
  - a. システムを再起動し、システム起動中に<F10>を押して Lifecycle Controller を実行してから、Hardware Configuration (ハードウェア設定) ウィザードを実行して RAID 設定を確認します。  
RAID 設定についての情報は、Lifecycle Controller マニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。
  - b. ハードディスクドライブが RAID アレイ用に正しく設定されていることを確認します。
  - c. ハードディスクドライブをオフラインにして取り外し、再度取り付けます。
  - d. 設定ユーティリティを終了し、オペレーティングシステムを起動します。
3. お使いのコントローラカード用に必要なデバイスドライバがインストールされており、正しく設定されていることを確認してください。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
4. システムを再起動し、セットアップユーティリティを開始します。
5. セットアップユーティリティで、コントローラが有効になっており、ドライブが表示されていることを確認します。

問題が解決しない場合は、拡張カードのトラブルシューティングを試行するか、または「困ったときは」を参照してください。

## 拡張カードのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

**① メモ:** 拡張カードのトラブルシューティングを行う際には、オペレーティングシステムと拡張カードのマニュアルを参照してください。

1. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
3. システムカバーを開きます。
4. 各拡張カードがコネクタにしっかりと装着されていることを確認します。
5. システムカバーを閉じます。
6. 問題が解決しない場合は、システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
7. システムカバーを開きます。
8. システムに取り付けられている拡張カードをすべて取り外します。
9. システムカバーを閉じます。
10. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。  
テストが失敗した場合は、「困ったときは」を参照してください。
11. 手順 8 で取り外した各拡張カードについて、次の手順を実行します。
  - a. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
  - b. システムカバーを開きます。
  - c. 拡張カードのうち 1 枚を取り付けなおします。
  - d. システムカバーを閉じます。
  - e. 適切な Diagnostics (診断) テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。

問題が引き続き表示される場合は、「困ったときは」を参照してください。

## プロセッサのトラブルシューティング

**△ 注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理 (内部作業) による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. 適切な診断テストを実行します。実行可能な診断テストについては、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。
2. システムおよび接続されている周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。

3. システムカバーを開きます。
  4. プロセッサとヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。
  5. システムカバーを閉じます。
  6. 適切な診断テストを実行します。詳細については、「システム診断プログラムの実行」を参照してください。
- 問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

# システム診断プログラムの使い方

システムに問題が起こった場合、デルのテクニカルサポートに電話する前にシステム診断プログラムを実行してください。システム診断プログラムを使うと、特別な装置を使用せずにシステムのハードウェアをテストでき、データが失われる心配もありません。お客様がご自分で問題を解決できない場合でも、サービスおよびサポート担当者が診断プログラムの結果を使って問題解決の手助けを行うことができます。

**トピック：**

- ・ [Dell Online Diagnostics](#)
- ・ [Dell Embedded System Diagnostics](#)

## Dell Online Diagnostics

Dell Online Diagnostics は、診断プログラムまたはテストモジュールのスタンドアロンスイートであり、本番環境内のシステムでの診断テストの実行を可能にし、システムの稼働時間を最大限に確保するために役立ちます。Online Diagnostics を使用して、ハードドライブ、物理メモリ、ネットワークインタフェースカード (NIC) などのストレージコンポーネントやシャーシに診断テストを行うことができます。Online Diagnostics が検知するシステム上のハードウェアで診断テストを実行するには、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) またはコマンドラインインタフェース (CLI) を使用できます。Diagnostics の使用についての情報は、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) の **ソフトウェア > サービスツール** で『Dell Online PowerEdge Diagnostics User's Guide』(Dell Online PowerEdge Diagnostics ユーザーズガイド) を参照してください。

## Dell Embedded System Diagnostics

 **メモ:** ePSA (Enhanced Pre-boot System Assessment) Diagnostics とも呼ばれます。

内蔵されたこのシステム診断プログラムには、特定のデバイスグループや各デバイス用の一連のオプションが用意されており、以下の処理が可能です。

- テストを自動的に、または対話モードで実行
- テストの繰り返し
- テスト結果の表示または保存
- 詳細なテストで追加のテストオプションを実行し、障害の発生したデバイスに関する詳しい情報を得る
- テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

## 内蔵されたシステム診断プログラムの実行が必要な場合

システム内の主要なコンポーネントまたはデバイスが正しく動作していない場合、内蔵されたシステム診断プログラムを実行すると、コンポーネントの障害が示されることがあります。

## 内蔵されたシステム診断プログラムの実行

内蔵されたシステム診断プログラムは、Dell Lifecycle Controller から実行します。

 **注意:** 内蔵されたシステム診断プログラムは、お使いのシステムをテストする場合にのみ使用してください。このプログラムを他のシステムで使用すると、無効な結果やエラーメッセージが発生する場合があります。

1. システム起動中に <F11> を押します。
2. 上下矢印キーを使用して、**System Utilities** (システムユーティリティ) > **Launch Dell Diagnostics** (Dell Diagnostics (診断) の起動) と選択します。

**ePSA Pre-boot System Assessment ( ePSA 起動前システムアセスメント )** ウィンドウが表示され、システム内に検知された全デバイスがリストアップされます。Diagnostics ( 診断 ) が検知された全デバイスのテストを開始します。

## システム診断プログラムのコントロール

メニュー	説明
構成	検知された全デバイスの設定およびステータス情報が表示されます。
結果	実行された全テストの結果が表示されます。
システム正常性	システムパフォーマンスの現在の概要が表示されます。
イベントログ	システムで実行された全テストの結果のタイムスタンプ付きログが表示されます。少なくとも1つのイベントの説明が記録されていれば、このログが表示されます。

内蔵されたシステム診断プログラムについては、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) で『Dell Enhanced Pre-boot System Assessment User Guide』( Dell Enhanced Pre-boot System Assessment ユーザーガイド ) を参照してください。

## ジャンパとコネクタ

### トピック：

- ・ システム基板のジャンパ設定
- ・ システム基板のジャンパとコネクタ
- ・ パスワードを忘れたとき

## システム基板のジャンパ設定

パスワードジャンパをリセットしてパスワードを無効にする方法については、「パスワードを忘れたとき」を参照してください。

表 5. システム基板のジャンパ設定

ジャンパ	設定	説明
PWRD_EN	 2 4 6 (デフォルト)	パスワード機能が有効です (ピン 2 ~ 4)。
	 2 4 6	パスワード機能は無効です (ピン 4 ~ 6)。iDRAC ローカルアクセスは次の AC 電源サイクルでロック解除されます。
NVRAM_CLR	 1 3 5 (デフォルト)	構成設定は、次のシステム起動時にクリアされます (ピン 3 ~ 5)。
	 1 3 5	構成設定がシステム起動時に保持されます (ピン 1 ~ 3)。

## システム基板のジャンパとコネクタ

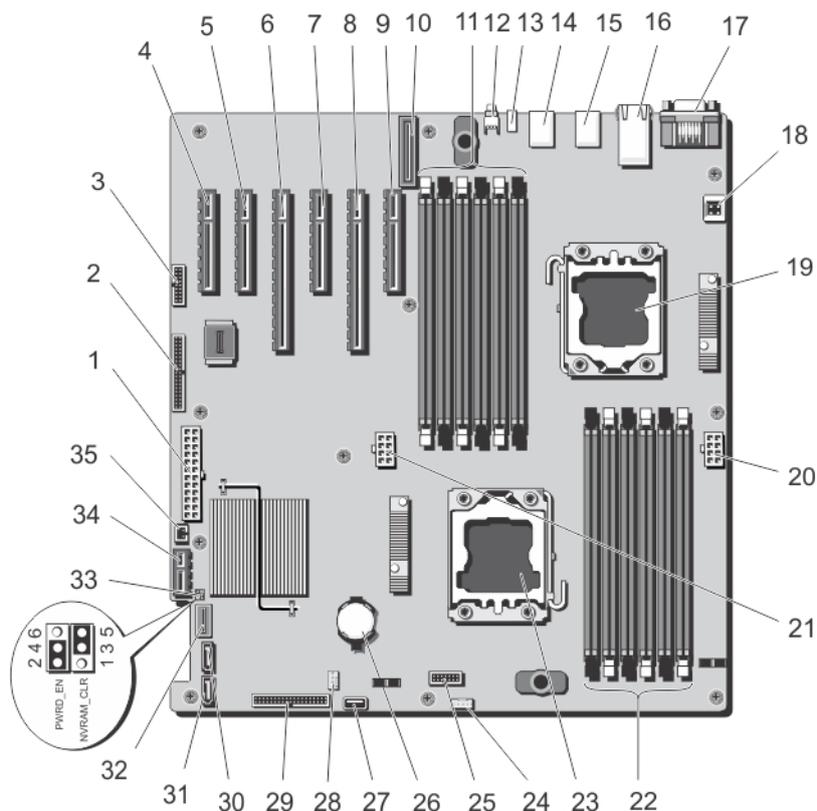


図 71. システム基板のジャンパとコネクタ

項目	コネクタ	説明
1	PWR_CONN/P1	電源コネクタ
2	CTRL_PNL	コントロールパネルインタフェースコネクタ
3	FRONT_VGA	ビデオコネクタ
4	SLOT1_PCIE-G2-X4 (CPH)	PCIe カードコネクタ 1
5	SLOT2_PCIE-G2-X1 (CPH)	PCIe カードコネクタ 2
6	SLOT3_PCIE-G3-X16 (CPU1)	PCIe カードコネクタ 3
7	SLOT4_PCIE-G3-X4 (CPU1)	PCIe カードコネクタ 4
8	SLOT5_PCIE_G3_X16 (CPU2)	PCIe カードコネクタ 5
9	SLOT6_PCIE-G3-X4 (CPU1)	PCIe カードコネクタ 6
10	iDRAC_ENT	iDRAC コネクタ
11	B1、B4、B2、B5、B3、B6	メモリモジュールソケット
12	ID_BTN	システム識別ボタン
13	CMA_JACK	システム識別コネクタ (ケーブル処理アーム)
14	USB4 TOP、USB5、USB6 BOT	USB コネクタ
15	USB1 TOP、USB2、USB3 BOT	USB コネクタ
16	NIC1 TOP、NIC2 BOT	NIC コネクタ
17	COM TOP/VGA BOT	シリアルコネクタ/ビデオコネクタ

項目	コネクタ	説明
18	INTRUSION	シャーシイントルージョンスイッチコネクタ
19	CPU2	プロセッサ 2
20	I2V_2/P2	電源コネクタ
21	12V_1/P3	電源コネクタ
22	A6、A3、A5、A3、A4、A1	メモリモジュールソケット
23	CPU1	プロセッサソケット
24	FAN2	外付けの冷却ファンコネクタ
25	BP_CONN	バックプレーンコネクタ
26	BATTERY	システムバッテリーコネクタ
27	INT USB	内部 USB コネクタ
28	FAN1	内蔵の冷却ファンコネクタ
29	PDB_12C/P6	配電基板コネクタ
30	ODD2/TBU	オプティカルディスクドライブ 2 またはテープバックアップユニット用の SATA_F コネクタ
31	ODD1/TBU	オプティカルディスクドライブ 1、またはソフトウェア RAID が構成されたシステムのテープバックアップユニット用の SATA_E コネクタ
32	SATA_A	SATA コネクタ
33	ジャンパ	ジャンパ
34	IDSMD	IDSMD コネクタ
35	PERC カード CONN	ハードドライブ動作インジケータのコネクタ

## パスワードを忘れたとき

システムのソフトウェアセキュリティ機能により、システムパスワードとセットアップパスワードを設定することができます。パスワードジャンパを使用すると、これらのパスワード機能を有効または無効にして、現在使用中のパスワードをどれでもクリアすることができます。

**注意:** 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルで認められていない修理（内部作業）による損傷は、保証の対象となりません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
2. システムカバーを開きます。
3. システム基板ジャンパ上のジャンパを 2 および 4 番ピンから 4 および 6 番ピンに動かします。
4. システムカバーを閉じます。

既存のパスワードは、ジャンパが 4 および 6 番ピンにある状態でシステムを起動するまで無効化（削除）されません。ただし、新しいシステムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てる前に、ジャンパを 2 および 4 番ピンに戻す必要があります。

**メモ:** 4 および 6 番ピンにジャンパがある状態で新しいシステムパスワードまたはセットアップパスワードを割り当てると、システムは次の起動時に新しいパスワードを無効化します。

5. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
6. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、システムをコンセントから外します。
7. システムカバーを開きます。
8. システム基板ジャンパ上のジャンパを 4 および 6 番ピンから 2 および 4 番ピンに動かします。

9. システムカバーを閉じます。
10. システムおよびシステムに接続されているすべての周辺機器をコンセントに接続し、電源を入れます。
11. 新しいシステムパスワードとセットアップパスワードの両方またはそのどちらか一方を設定します。

**プロセッサ**

プロセッサのタイプ	1つまたは2つの Intel Xeon プロセッサ E5-2400 および E5-2400 v2 製品シリーズ
-----------	---

**拡張バス**

バスのタイプ	PCI Express Generation 3 および 2
--------	--------------------------------

**拡張スロット**

- (スロット 1) フルハイト、ハーフレングスの x4 PCIe Gen2 カードスロット 1個、プラットフォームコントローラハブ (PCH) に接続
- (スロット 2) フルハイト、フルレングスの x1 PCIe Gen2 カードスロット 1個、PCH に接続
- (スロット 3) フルハイト、フルレングスの x16 PCIe Gen3 カードスロット 1個、プロセッサ 1 に接続
- (スロット 4) フルハイト、フルレングスの x4 PCIe Gen3 カードスロット 1個、プロセッサ 1 に接続
- (スロット 5) フルハイト、フルレングスの x16 PCIe Gen3 カードスロット 2個、プロセッサ 2 に接続
- (スロット 6) フルハイト、ハーフレングスの x4 PCIe Gen3 カードスロット 1個、プロセッサ 1 に接続

**メモリ**

アーキテクチャ	800 MT/s、1066 MT/s、1333 MT/s、または 1600 MT/s レジスタ、またはバッファなし、エラー訂正コード (ECC) DIMM アドバンス ECC またはメモリ最適化操作のサポート
メモリモジュールソケット	240 ピンソケット 12 個
メモリモジュールの容量	2 GB、4 GB、8 GB、16 GB、および 32 GB
RDIMM	2 GB (シングルランク)、4 GB (シングルランク / デュアルランク)、8 GB (シングルランク / デュアルランク)、16 GB (デュアルランク)、32 GB (クアッドランク)
UDIMM	2 GB (シングルランク) および 4 GB (シングルランク / デュアルランク)
最小 RAM	シングルプロセッサで 2 GB プロセッサ 2 基で 4 GB
最大 RAM	
RDIMM	384 GB
UDIMM	48 GB

**Drives**

ハードドライブ	
ハードドライブ 4 台のシステム	3.5 インチ、ケーブル接続された内蔵 SATA、NL SAS (Nearline SAS)、SAS (15K) ハードドライブ 4 台まで。

## Drives

ハードドライブ 8 台のシステム	ホットスワップ対応の 3.5 インチ、内蔵 SAS、NL SAS ( Nearline SAS )、または SAS ( 15K ) ハードドライブ 8 台まで。 ① <b>メモ:</b> 3.5 インチキャリアでの 2.5 インチドライブが SAS、SAS SSD、および SATA SSD ハードドライブでサポートされています。
ハードドライブ 16 台のシステム	ホットスワップ対応の 2.5 インチ、内蔵 SATA、NL SAS ( Nearline SAS )、SAS、SAS SSD、または SATA SSD ハードドライブ。
光学ドライブ	オプションの SATA DVD-ROM ドライブまたは DVD+/-RW ドライブ 2 台まで。 ① <b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。
テープドライブ	オプションの 5.25 インチテープドライブ 1 台。 ① <b>メモ:</b> システムにダブル幅 GPU カードが取り付けられている場合は、5.25 インチのリムーバブルメディアストレージデバイス 1 台のみがサポートされます。

## コネクタ

### 背面

NIC	10/100/1000 Mbps × 2
シリアル	16550 互換 9 ピン DTE
USB	4 ピン USB 2.0 対応コネクタ 6 個
ビデオ	15 ピン VGA
iDRAC	iDRAC 7 ポート 1 個
SD vFlash	SD vFlash カードスロット 1 個

### 前面

USB	4 ピン USB ホスト 2 個
ビデオ	15 ピン VGA、ラックモードのシステムのみ

### 内蔵

USB	4 ピン USB 2.0 対応コネクタ 1 個
内蔵デュアル SD モジュール	内蔵 SD モジュールを備えたオプションのフラッシュメモリカードスロット 2 個 ① <b>メモ:</b> カードスロット 1 個は冗長専用。

## ビデオ

ビデオのタイプ	内蔵 Matrox G200
ビデオメモリ	16 MB 共有

## 動作時の拡張温度

- ① **メモ:** 動作時の拡張温度範囲で使用すると、システムのパフォーマンスに影響が生じる場合があります。
- ① **メモ:** 拡張温度範囲でシステムを使用している際に、LCD とシステムイベントログに周囲温度の警告が報告される場合があります。

年間動作時間の 10 パーセント 未満

相対湿度 5 ~ 85 パーセント、露点温度 26 °C で、5 ~ 40 °C。

## 動作時の拡張温度

年間動作時間の1パーセント未満

**メモ:** 標準動作温度範囲 (10 ~ 35 °C) 外で使用する場合は、最大年間動作時間の最大10パーセントまで5 ~ 40 °Cの範囲で動作することができます。

35 ~ 40 °C の場合、950 m を超える場所では175 m 上昇することに最大許容乾球温度を1 °C 下げます (1 °F/319 フィート)。

相対湿度 5 ~ 90 パーセント、露点温度 26 °C で、-5 ~ 45 °C。

**メモ:** 標準動作温度範囲 (10 ~ 35 °C) 外で使用する場合は、最大年間動作時間の最大1パーセントまで-5 ~ 45 °Cの範囲で動作することができます。

40 ~ 45 °C の場合、950 m を超える場所では125 m 上昇することに最大許容乾球温度を1 °C 下げます (1 °F/228 フィート)。

動作時の拡張温度範囲に関する制約

- 内蔵の冷却ファンと外付けの冷却ファンの両方を取り付ける必要があります。
- 指定されている動作温度は、最大高度 3048 2000 m (10,000 6560 フィート) を対象にしています。
- GPU カードはサポートされていません。
- LRDIMM はサポートされていません。
- 非冗長電源ユニットはサポートされていません。
- デル認定外の周辺機器カードおよび/または 25 W を超える周辺機器カードは非対応です。

## 環境

**メモ:** 特定のシステム構成でのその他の環境条件の詳細については、[dell.com/environmental\\_datasheets](https://dell.com/environmental_datasheets) を参照してください。

### 温度

最大温度勾配 (稼働時および保管時)

20 °C/時 (36 °F/時)

保管温度制限

-40 ~ 65 °C (-40 ~ 149 °F)

### 温度 (連続稼働)

温度範囲 (高度 950 m (3117 フィート) 未満)

10 ~ 35 °C (50 ~ 95 °F)、装置への直射日光なし。

比較湿度範囲

最大露点 26 °C (78.8 °F) で 10 ~ 80% の相対湿度。

### 相対湿度

保管時

最大露点 33 °C (91 °F) で 5 ~ 95% の相対湿度。空気は常に非結露状態であること。

### 最大振動

稼働時

0.26 G<sub>rms</sub> (5 ~ 350 Hz) (全稼働方向)。

保管時

1.87 G<sub>rms</sub> (10 ~ 500 Hz) で 15 分間 (全6面で検証済)。

### 最大衝撃

稼働時

全動作方向で z 軸の正方向に 2.6 ミリ秒で 31 G の 1 衝撃パルス

保管時

x、y、z 軸の正および負方向に 6 連続衝撃パルス (システムの各面に対して 1 パルス)、2 ミリ秒以下で 71 G。

### 最大高度

稼働時

30482000 m (10,0006560 フィート)。

保管時

12,000 m (39,370 フィート)。

### 動作高度ディレーティング

## 環境

最高 35 °C ( 95 °F )	950 m ( 3,117 ft ) を越える高度では、最高温度は 300 m ( 547 フィート ) ごとに 1°C ( 1°F ) 低くなります。
35 ~ 40 °C ( 95 ~ 104 °F )	950 m ( 3,117 ft ) を越える高度では、最高温度は 175 m ( 319 フィート ) ごとに 1°C ( 1°F ) 低くなります。
40 ~ 45 °C ( 104 ~ 113 °F )	950 m ( 3,117 ft ) を越える高度では、最高温度は 125 m ( 228 フィート ) ごとに 1°C ( 1°F ) 低くなります。

## 粒子汚染

**①** **メモ:** 本項では、粒子汚染およびガス汚染による IT 装置の損傷および / または故障を避けるために役立つ制限を定義します。粒子またはガス汚染のレベルが下記に指定される制限を越えており、これらがお使いの装置の損傷および / または故障の原因であると判断された場合、損傷および / または故障の原因となっている環境状態を改善する必要がある場合があります。環境状態の改善は、お客様の責任となります。

### 空気清浄

**①** **メモ:** データセンター環境のみに該当します。空気清浄要件は、事務所や工場現場などのデータセンター外での使用のために設計された IT 装置には適用されません。

データセンターの空気清浄レベルは、ISO 14644-1 の ISO クラス 8 の定義に準じて、95% 上限信頼限界です。

**①** **メモ:** データセンターに吸入される空気は、MERV11 または MERV13 フィルタで濾過する必要があります。

### 伝導性ダスト

**①** **メモ:** データセンターおよびデータセンター外環境の両方に該当します。

空気中に伝導性ダスト、亜鉛ウィスカ、またはその他伝導性粒子が存在しないようにする必要があります。

### 腐食性ダスト

**①** **メモ:** データセンターおよびデータセンター外環境の両方に該当します。

- 空気中に腐食性ダストが存在しないようにする必要があります。
- 空気中の残留ダストは、潮解点が相対湿度 60% 未満である必要があります。

## ガス状汚染物

**①** **メモ:** ≤50% 相対湿度で測定された最大腐食汚染レベル

銅クーボン腐食度

クラス G1 ( ANSI/ISA71.04-1985 の定義による ) に準じ、ひと月あたり 300 Å 未満。

銀クーボン腐食度

AHSRAE TC9.9 の定義に準じ、ひと月あたり 200 Å 未満。

## システムメッセージ

トピック：

- ・ LCD メッセージ
- ・ システムエラーメッセージ
- ・ 警告メッセージ
- ・ 診断メッセージ
- ・ アラートメッセージ

### LCD メッセージ

**メモ:** お使いのシステムに LCD ディスプレイが搭載されている場合にのみ該当します。

LCD メッセージは、システムイベントログ (SEL) に記録されたイベントに言及する短いテキストメッセージで構成されています。SEL およびシステム管理設定の詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

**メモ:** システムが起動しない場合は、LCD にエラーコードが表示されるまで、システム ID ボタンを少なくとも 5 秒間押します。コードを記録した後、システムエラーメッセージを参照してください。

### LCD メッセージの表示

システムエラーが発生すると、LCD 画面が橙色に変わります。エラーまたはステータスメッセージのリストを表示するには、選択ボタンを押します。左/右ボタンを使用してエラー番号をハイライト表示し、選択ボタンを押してエラーを表示します。

### LCD メッセージの削除

温度、電圧、ファンなどのセンサーに関する障害については、センサーが通常の状態に戻ると、LCD メッセージは自動的に削除されます。その他の障害の場合、ディスプレイからメッセージを削除する処置を行う必要があります。

- SEL のクリア — このタスクはリモートで実行できますが、システムのイベント履歴は失われます。
- パワーサイクル — システムの電源を切り、コンセントから外します。約 10 秒待ってから電源ケーブルを接続し、システムを再起動します。

### システムエラーメッセージ

システムに問題がある可能性が検知されると、システムメッセージがモニターに表示されます。メッセージは、システムイベントログ (SEL) に記録されたイベントに基づきます。SEL およびシステム管理設定の詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

他のメッセージも、システムの LCD に短縮形で表示されます (システムにその機能が含まれている場合)。

**メモ:** ここにリストアップされている LCD エラーメッセージは簡易形式で表示されます。メッセージの表示形式を選択するには、Setup Menu (セットアップメニュー) を参照してください。

**メモ:** ここに記載されていないシステムメッセージが表示された場合は、そのときに実行していたアプリケーションのマニュアルや、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、メッセージの説明と推奨されている処置を確認してください。

**メモ:** 一部のメッセージでは、特定のシステム部品が名前 (<名前>)、コンポーネント番号 (<番号>)、または場所 (<ベイ>) で表示される場合があります。

エラーコード	メッセージ情報
AMP0302	<p><b>Message (メッセージ)</b> The system board &lt;name&gt; current is greater than the upper warning threshold. (システム基板 &lt;名前&gt; の電流が上限警告値を上回っています。)</p> <p><b>詳細</b> システム基板 &lt;名前&gt; の電流が最適な範囲から外れています。</p> <p><b>Action</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムの電力ポリシーを確認します。</li> <li>2. 電源関連の障害のシステムログを確認します。</li> <li>3. システム構成の変更を確認します。</li> <li>4. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>
AMP0303	<p><b>Message (メッセージ)</b> The system board &lt;name&gt; current is greater than the upper critical threshold. (システム基板 &lt;名前&gt; の電流がクリティカル上限値を上回っています。)</p> <p><b>LCD メッセージ</b> System board &lt;name&gt; current is outside of range.</p> <p><b>詳細</b> システム基板 &lt;名前&gt; の電流が最適な範囲から外れています。</p> <p><b>Action</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムの電力ポリシーを確認します。</li> <li>2. 電源関連の障害のシステムログを確認します。</li> <li>3. システム構成の変更を確認します。</li> <li>4. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>
ASR0000	<p><b>Message (メッセージ)</b> ウォッチドッグタイマーが切れました。</p> <p><b>詳細</b> OS またはアプリケーションがタイムアウト時間内に通信できませんでした。</p> <p><b>Action</b> 例外イベントが発生していないか、OS、アプリケーション、ハードウェア、システムのイベントログを確認します。</p>
ASR0001	<p><b>Message (メッセージ)</b> ウォッチドッグタイマーによってシステムがリセットされました。</p> <p><b>詳細</b> OS またはアプリケーションがタイムアウト時間内に通信できませんでした。システムがリセットされました。</p> <p><b>Action</b> 例外イベントが発生していないか、OS、アプリケーション、ハードウェア、システムのイベントログを確認します。</p>
ASR0002	<p><b>Message (メッセージ)</b> ウォッチドッグタイマーによってシステムの電源がオフになりました。</p> <p><b>詳細</b> OS またはアプリケーションがタイムアウト時間内に通信できませんでした。システムがシャットダウンされました。</p> <p><b>Action</b> 例外イベントが発生していないか、OS、アプリケーション、ハードウェア、システムのイベントログを確認します。</p>
ASR0003	<p><b>Message (メッセージ)</b> ウォッチドッグタイマーによってシステムのパワーサイクルが行われました。</p> <p><b>詳細</b> OS またはアプリケーションがタイムアウト時間内に通信できませんでした。システムの電源が切れ、入れなおされました。</p> <p><b>Action</b> 例外イベントが発生していないか、OS、アプリケーション、ハードウェア、システムのイベントログを確認します。</p>
BAT0002	<p><b>Message (メッセージ)</b> The system board battery has failed. (システム基板のバッテリーに障害が発生しました。)</p> <p><b>LCD メッセージ</b> The system board battery has failed. Check battery.</p> <p><b>詳細</b> システム基板のバッテリーがないか、または不良です。</p>

エラーコード	メッセージ情報	
	<b>Action</b>	「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>BAT0017</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The <name> battery has failed. (<名前> バッテリーに障害が発生しました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	The <name> battery has failed. Check battery.
	<b>詳細</b>	<名前> バッテリーがないか、不良であるか、または温度が正常でないために充電できません。
	<b>Action</b>	システムファンをチェックします。問題が解決しない場合は、 <a href="#">困ったときは</a> を参照してください。
<b>CPU0000</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> has an internal error (IERR). (CPU <番号> に内部エラー (IERR) があります。)
	<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> has an internal error (IERR). (CPU <番号> に内部エラー (IERR) があります。)
	<b>詳細</b>	システムイベントログと OS のログに、例外がプロセッサの外部にあることが示される場合があります。
	<b>Action</b>	システムイベントログと OS のログを確認します。問題が解決しない場合は、「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>CPU0001</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> has a thermal trip (over-temperature) event. (CPU <番号> にサーマルトリップ (過熱) イベントが発生しています。)
	<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> has a thermal trip. Check CPU heat sink.
	<b>詳細</b>	プロセッサの温度が動作範囲を超えました。
	<b>Action</b>	ファン障害があるかどうかをログで確認します。ファンの障害が検知されていない場合、吸気温度 (利用可能な場合) をチェックしてプロセッサヒートシンクを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、 <a href="#">困ったときは</a> を参照してください。
<b>CPU0005</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> configuration is unsupported. (CPU <番号> の構成がサポートされていません。)
	<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> configuration is unsupported. Check CPU or BIOS revision.
	<b>詳細</b>	システムが起動しないか、または劣化状態で実行されます。
	<b>Action</b>	仕様で対応プロセッサのタイプを確認します。
<b>CPU0010</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> is throttled. (CPU <番号> が調整されています。)
	<b>詳細</b>	熱または電源の状態が原因で、CPU の動作が調整されています。
	<b>Action</b>	電源または熱の例外イベントが発生していないか、システムログを確認します。
<b>CPU0023</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> is absent. (CPU <番号> がありません。)
	<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> is absent. Check CPU.
	<b>Action</b>	プロセッサの取り付けを確認します。プロセッサが取り付けられている場合は、抜き差しします。
<b>CPU0204</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	CPU <number> <name> voltage is outside of range. (CPU <番号> <名前> 電圧が範囲外です。)
	<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> <name> voltage is outside of range. Re-seat CPU.

## エラーコード

## メッセージ情報

**詳細** 電圧が許容範囲から外れると、電気関係の部品が損傷したり、システムがシャットダウンしたりする原因になります。

- Action**
1. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。
  2. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。
  3. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。
  4. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### CPU0700

**Message (メッセージ)** CPU <number> initialization error detected. (CPU <番号> の初期化エラーが検知されました。)

**LCD メッセージ** CPU <number> initialization error detected. Power cycle system.

**詳細** システム BIOS がプロセッサを初期化できませんでした。

- Action**
1. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。
  2. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。
  3. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。
  4. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### CPU0701

**Message (メッセージ)** CPU <number> protocol error detected. (CPU <番号> のプロトコルエラーが検知されました。)

**LCD メッセージ** CPU <number> protocol error detected. Power cycle system.

**詳細** システムイベントログと OS のログに、例外がプロセッサの外部にあることが示される場合があります。

- Action**
1. 例外イベントが発生していないか、システムと OS のログを確認します。例外がない場合は続行します。
  2. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。
  3. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。
  4. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。
  5. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### CPU0702

**Message (メッセージ)** CPU bus parity error detected. (CPU バスパリティエラーが検知されました。)

**LCD メッセージ** CPU bus parity error detected. Power cycle system.

**詳細** システムイベントログと OS のログに、例外がプロセッサの外部にあることが示される場合があります。

- Action**
1. 例外イベントが発生していないか、システムと OS のログを確認します。例外がない場合は続行します。
  2. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。
  3. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。
  4. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。
  5. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### CPU0703

**Message (メッセージ)** CPU bus initialization error detected. (CPU バスの初期化エラーが検知されました。)

**LCD メッセージ** CPU bus initialization error detected. Power cycle system.

**詳細** システムイベントログと OS のログに、例外がプロセッサの外部にあることが示される場合があります。

- Action**
1. 例外イベントが発生していないか、システムと OS のログを確認します。例外がない場合は続行します。
  2. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。

## エラーコード      メッセージ情報

3. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。
4. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。
5. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### CPU0704

<b>Message</b> (メッセージ)	CPU <number> machine check error detected.( CPU <番号> のマシンチェックエラーが検知されました。)
<b>LCD メッセージ</b>	CPU <number> machine check error detected. Power cycle system.
<b>詳細</b>	システムイベントログと OS のログに、例外がプロセッサの外部にあることが示される場合があります。
<b>Action</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 例外イベントが発生していないか、システムと OS のログを確認します。例外がない場合は続行します。</li><li>2. システムの電源を切り、入力電源を1分間オフにしておきます。</li><li>3. プロセッサが正しく装着されていることを確認します。</li><li>4. 入力電源を入れ、システムの電源をオンにします。</li><li>5. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li></ol>

### FAN0000

<b>Message</b> (メッセージ)	Fan <number> RPM is less than the lower warning threshold.( ファン <番号> の RPM が警告下限値を下回っています。)
<b>詳細</b>	ファンの動作速度が範囲外です。
<b>Action</b>	ファンを取り外し、取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### FAN0001

<b>Message</b> (メッセージ)	Fan <number> RPM is less than the lower critical threshold. ( ファン <番号> の RPM がクリティカル下限値を下回っています。)
<b>LCD メッセージ</b>	Fan <number> RPM is outside of range. Check fan.
<b>詳細</b>	ファンの動作速度が範囲外です。
<b>Action</b>	ファンを取り外し、取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

### FAN1201

<b>Message</b> (メッセージ)	Fan redundancy is lost. ( ファンの冗長性が失われました。)
<b>LCD メッセージ</b>	Fan redundancy is lost. Check fans.
<b>詳細</b>	ファンが故障しています。
<b>Action</b>	故障したファンを取り外してから再度取り付けるか、追加のファンを取り付けます。

### HWC1001

<b>Message</b> (メッセージ)	The <name> is absent. ( <名前> がありません。)
<b>LCD メッセージ</b>	The <name> is absent. Check hardware.
<b>詳細</b>	存在しないデバイスが正常な動作に必要な可能性があります。システムの機能が低下する場合があります。
<b>Action</b>	ハードウェアを再度取り付けるか、または接続しなおします。

### HWC2003

<b>Message</b> (メッセージ)	The storage <name> cable is not connected, or is improperly connected.( ストレージ <名前> のケーブルが接続されていないか、または接続が正しくありません。)
<b>LCD メッセージ</b>	Storage <name> cable or interconnect failure. Check connection.
<b>詳細</b>	正常な動作にケーブルが必要な場合があります。システムの機能が低下する場合があります。

エラーコード	<b>メッセージ情報</b>	
	<b>Action</b>	ケーブルが存在するかどうかをチェックして、再度取り付けるか再接続します。
<b>HWC2005</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system board <name> cable is not connected, or is improperly connected. (システム基板 <名前> のケーブルが接続されていないか、または接続が正しくありません。)
	<b>LCD メッセージ</b>	System board <name> cable connection failure. Check connection.
	<b>詳細</b>	正常な動作にケーブルが必要な場合があります。システムの機能が低下する場合があります。
	<b>Action</b>	ケーブルが存在するかどうかをチェックして、再度取り付けるか再接続します。
<b>MEM0000</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Persistent correctable memory errors detected on a memory device at location(s) <location>. (持続的で修正可能なメモリエラーがメモリデバイスの <場所> に検知されました。)
	<b>詳細</b>	将来修正不能なエラーが発生する可能性を示す予告です。
	<b>Action</b>	メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>MEM0001</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Multi-bit memory errors detected on a memory device at location(s) <location>. (マルチビットメモリエラーがメモリデバイスの <場所> に検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Multi-bit memory error on <location>. Re-seat memory.
	<b>詳細</b>	メモリモジュールに修正不能なエラーが発生しました。システムパフォーマンスが低下する場合があります。その結果、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b>	メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>MEM0007</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Unsupported memory configuration; check memory device at location <location>. (サポートされていないメモリ構成です。 <場所> のメモリデバイスをチェックしてください。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Unsupported memory configuration. Check memory <location>.
	<b>詳細</b>	メモリが正しく取り付けられていない、メモリの構成が間違っている、または障害が発生している可能性があります。メモリサイズが縮小しています。
	<b>Action</b>	メモリ構成を確認します。メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>MEM0701</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Correctable memory error rate exceeded for <location>. (<場所> で修正可能なメモリエラー率を超えました。)
	<b>詳細</b>	メモリが機能していない可能性があります。将来修正不能なエラーが発生する可能性を示す予告です。
	<b>Action</b>	メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>MEM0702</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Correctable memory error rate exceeded for <location>. (<場所> で修正可能なメモリエラー率を超えました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Correctable memory error rate exceeded for <location>. Re-seat memory.
	<b>詳細</b>	メモリが機能していない可能性があります。将来修正不能なエラーが発生する可能性を示す予告です。
	<b>Action</b>	メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。

エラーコード	メッセージ情報
MEM1205	<b>Message (メッセージ)</b> Memory mirror redundancy is lost. Check memory device at location(s) <location>. (メモリミラーの冗長性が失われました。<場所>のメモリデバイスをチェックしてください。)
	<b>LCD メッセージ</b> Memory mirror lost on <location>. Power cycle system.
	<b>詳細</b> メモリが正しく取り付けられていない、メモリの構成が間違っている、または障害が発生している可能性があります。
	<b>Action</b> メモリ構成を確認します。メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
MEM1208	<b>Message (メッセージ)</b> Memory spare redundancy is lost. Check memory device at location <location> (メモリスベアの冗長性が失われました。<場所>のメモリデバイスをチェックしてください。)
	<b>LCD メッセージ</b> Memory spare lost on <location>. Power cycle system.
	<b>詳細</b> メモリスベアリングが使用できなくなっています。
	<b>Action</b> メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
MEM8000	<b>Message (メッセージ)</b> Correctable memory error logging disabled for a memory device at location <location>. (メモリデバイスの<場所>で、修正可能なメモリエラーのログが無効になりました。)
	<b>LCD メッセージ</b> SBE log disabled on <location>. Re-seat memory.
	<b>詳細</b> エラーを修正中ですが、現在は記録されていません。
	<b>Action</b> メモリの例外が発生してしないか、システムログを確認します。<場所>の位置にメモリを取り付けなおします。
PCI1302	<b>Message (メッセージ)</b> A bus time-out was detected on a component at bus <bus> device<device> function <func>. (バス<バス>デバイス<デバイス>機能<機能>のコンポーネントで、バスのタイムアウトが検知されました。)
	<b>詳細</b> システムパフォーマンスが低下する場合があります。デバイスがトランザクションに反応しませんでした。
	<b>Action</b> 入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
PCI1304	<b>Message (メッセージ)</b> An I/O channel check error was detected. (I/O チャンネルチェックエラーが検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b> I/O channel check error detected. Power cycle system.
	<b>Action</b> 入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
PCI1308	<b>Message (メッセージ)</b> A PCI parity error was detected on a component at bus <bus> device<device> function <func>. (バス<バス>デバイス<デバイス>機能<機能>のコンポーネントで、PCI パリティエラーが検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b> PCI parity error on bus <bus> device <device> function <func>. Power cycle system.
	<b>詳細</b> システムパフォーマンスが低下するか、PCI デバイスが動作しなくなるか、またはシステムが動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b> 入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
PCI1320	<b>Message (メッセージ)</b> A bus fatal error was detected on a component at bus <bus> device<device> function <func>. (バス<バス>デバイス<デバイス>機能<機能>のコンポーネントで、バスの致命的なエラーが検知されました。)

エラーコード	メッセージ情報	
	<b>LCD メッセージ</b>	Bus fatal error on bus <bus> device <device> function <func>. Power cycle system.
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下するか、またはシステムが動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b>	入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
<b>PCI1342</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	A bus time-out was detected on a component at slot <number>. (スロット <番号> のコンポーネントで、バスのタイムアウトが検知されました。)
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下するか、またはシステムが動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b>	入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
<b>PCI1348</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	A PCI parity error was detected on a component at slot <number>. (スロット <番号> のコンポーネントで、PCI パリティエラーが検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	PCI parity error on slot <number>. Re-seat PCI card.
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下するか、またはシステムが動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b>	入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
<b>PCI1360</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	A bus fatal error was detected on a component at slot <number>. (スロット <番号> のコンポーネントで、バスの致命的なエラーが検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Bus fatal error on slot <number>. Re-seat PCI card.
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下するか、またはシステムが動作しなくなるおそれがあります。
	<b>Action</b>	入力電源を切って入れなおし、コンポーネントのドライバをアップデートし、デバイスがリムーバブルの場合は、デバイスを再び取り付けます。
<b>PDR0001</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Fault detected on drive <number>. (ドライブ <番号> で障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Fault detected on drive <number>. Check drive.
	<b>詳細</b>	コントローラがディスクに障害を検知し、ディスクをオフラインにしました。
	<b>Action</b>	障害の発生したディスクを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>PDR1016</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Drive <number> is removed from disk drive bay <bay>. (ディスクドライブベイ <ベイ> からドライブ <番号> が取り外されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Drive <number> removed from disk drive bay <bay>. Check drive.
	<b>詳細</b>	コントローラがドライブの取り外しを検知しました。
	<b>Action</b>	ドライブの取り付けを確認します。障害の発生したドライブを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>PST0128</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	No memory is detected. (メモリが検知されませんでした。)
	<b>LCD メッセージ</b>	No memory is detected. Inspect memory devices.
	<b>詳細</b>	システム BIOS がシステム内にメモリを検知できませんでした。

エラーコード	<b>メッセージ情報</b>	
	<b>Action</b>	メモリモジュールを抜き差しします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>PST0129</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Memory is detected, but is not configurable. (メモリが検知されましたが、設定不能です。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Memory is detected, but is not configurable. Check memory devices.
	<b>詳細</b>	システム BIOS がメモリを検知しましたが、システムが動作するようにメモリを設定できませんでした。
	<b>Action</b>	システムメモリが取り付けられている状態をサポートされているシステムメモリの構成と比較します。
<b>PSU0001</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Power supply <number> failed. (電源装置 <番号> が故障しました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	PSU <number> failed. Check PSU.
	<b>Action</b>	電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>PSU0002</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	A predictive failure detected on power supply <number>. (電源ユニット <番号> に予測障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Predictive failure on PSU <number>. Check PSU.
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスと電源の冗長性が低下するか、または失われる可能性があります。
	<b>Action</b>	次のサービスウィンドウが表示された時に、電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
<b>PSU0003</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The power input for power supply <number> is lost. (電源ユニット <番号> の電源入力 が失われました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Power input for PSU <number> is lost. Check PSU cables.
	<b>詳細</b>	電源ユニットは正しく取り付けられていますが、入力電源が接続されていないか、機能していません。
	<b>Action</b>	入力電源が電源ユニットに接続されていることを確認します。入力電源が電源ユニットの動作要件を満たしていることを確認します。
<b>PSU0006</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Power supply <number> type mismatch. (電源ユニット <番号> のタイプが mismatches です。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Power supply <number> is incorrectly configured. Check PSU.
	<b>詳細</b>	電源ユニットは入力タイプと電力定格が一致している必要があります。
	<b>Action</b>	一致している電源ユニットを取り付け、このマニュアルで正しい構成を確認します。
<b>PSU0016</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	電源装置 <番号> は存在しません。
	<b>LCD メッセージ</b>	PSU <number> is absent. Check PSU.
	<b>詳細</b>	電源装置が取り外されているか、または故障しています。
	<b>Action</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。</li> <li>2. システムのケーブルやサブシステムコンポーネントに損傷がないか確認します。</li> <li>3. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>

エラーコード	メッセージ情報	
PSU0031	<b>Message</b> (メッセージ)	Cannot communicate with power supply <number>. (電源装置 <番号> と通信できません。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Cannot communicate with PSU <number>. Re-seat PSU.
	<b>詳細</b>	電源装置は動作する可能性があります。電源装置の監視機能が劣化します。システムパフォーマンスが低下する場合があります。
	<b>Action</b>	電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
PSU0032	<b>Message</b> (メッセージ)	The temperature for power supply <number> is in a warning range. (電源装置 <番号> の温度が警告範囲に達しています。)
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下する場合があります。
	<b>Action</b>	通気および吸気温度を含むシステムの動作環境をチェックします。システムログで温度およびサーマルコンポーネント障害をチェックします。
PSU0033	<b>Message</b> (メッセージ)	The temperature for power supply <number> is outside of the allowable range. (電源装置 <番号> の温度が許容範囲外です。)
	<b>LCD メッセージ</b>	PSU <number> temperature outside of range. Check PSU.
	<b>詳細</b>	システムパフォーマンスが低下する場合があります。
	<b>Action</b>	通気および吸気温度を含むシステムの動作環境をチェックします。システムログで温度およびサーマルコンポーネント障害をチェックします。
PSU0034	<b>Message</b> (メッセージ)	An under voltage fault detected on power supply <number>. (電源装置 <番号> で電圧不足障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	An under voltage fault detected on PSU <number>. Check power source.
	<b>詳細</b>	この障害は、システム内のケーブルまたはサブシステム部品の電気関係問題の結果である場合があります。
	<b>Action</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。</li> <li>2. システムのケーブルやサブシステムコンポーネントに損傷がないか確認します。</li> <li>3. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>
PSU0035	<b>Message</b> (メッセージ)	An over voltage fault detected on power supply <number>. (電源装置 <番号> で過電圧障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Over voltage fault on PSU <number>. Check PSU.
	<b>Action</b>	入力電源を確認するか、または電源装置を取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。
PSU0036	<b>Message</b> (メッセージ)	An over current fault detected on power supply <number>. (電源装置 <番号> で過電流障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	An over current fault detected on PSU <number>. Check PSU.
	<b>詳細</b>	この障害は、システム内のケーブルまたはサブシステム部品の電気関係問題の結果である場合があります。
	<b>Action</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源ユニットを取り外し、取り付けなおします。</li> <li>2. システムのケーブルやサブシステムコンポーネントに損傷がないか確認します。</li> <li>3. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>
PSU0037	<b>Message</b> (メッセージ)	Fan failure detected on power supply <number>. (電源装置 <番号> でファンの障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Fan failure detected on PSU <number>. Check PSU.

エラーコード	メッセージ情報	
	<b>Action</b>	ファンを妨害するものがないかチェックします。問題が解決しない場合は、 <a href="#">困ったときは</a> を参照してください。
<b>PSU0076</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	A power supply wattage mismatch is detected; power supply <number> is rated for <value> watts. (電源装置のワット数の不一致が検知されました。電源装置<番号>の定格ワット数は<値>ワットです。)
	<b>LCD メッセージ</b>	PSU wattage mismatch; PSU <number> = <value >watts
	<b>詳細</b>	電源ユニットは入力タイプと電力定格が一致している必要があります。
	<b>Action</b>	一致している電源装置を取り付け、このマニュアルで正しい構成を確認します。
<b>PSU1201</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Power supply redundancy is lost. (電源装置の冗長性が失われました。)
	<b>詳細</b>	電源装置は劣化状態での動作を試みます。システムパフォーマンスと電源の冗長性が低下するか、または失われる可能性があります。
	<b>Action</b>	入力電源を確認します。電源ユニットを取り付けなおします。問題が解決しない場合は、「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>PSU1204</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The power supplies are not redundant. Insufficient resources to maintain normal operations. (電源装置が非冗長です。正常な動作を維持するためのリソースが不足しています。)
	<b>LCD メッセージ</b>	PSU redundancy degraded. Check PSU cables.
	<b>詳細</b>	電源ユニットの例外イベント、電源ユニットのインベントリ変更、またはシステム電源のインベントリ変更のために、現在の電源動作モードは非冗長です。
	<b>Action</b>	電源ユニットの障害が発生していないか、イベントログを確認します。システム構成と電力消費を確認します。
<b>PWR1004</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system performance degraded because power capacity has changed. (電源の容量が変化したため、システムのパフォーマンスが低下しました。)
	<b>詳細</b>	システムの電源が切れるか、またはパフォーマンスが低下した状態で動作する可能性があります。
	<b>Action</b>	電源ユニットの障害が発生していないか、イベントログを確認します。システム構成と電力消費を確認し、電源ユニットを正しくアップグレードするか、または正しく取り付けます。
<b>PWR1005</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system performance degraded because the user-defined power capacity has changed. (ユーザー定義の電源の容量が変化したため、システムのパフォーマンスが低下しました。)
	<b>詳細</b>	ユーザー定義の電力設定によってシステムの動作が影響を受けました。
	<b>Action</b>	意図した状態でない場合は、システム構成の変更と電力ポリシーを確認します。
<b>PWR1006</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system halted because system power exceeds capacity. (システム電力が限度を超えたため、システムが停止しました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	System power demand exceeds capacity. System halted.
	<b>詳細</b>	システム電力が限度を超えたため、システムが停止しました。
	<b>Action</b>	システム構成を確認し、電源ユニットをアップグレードするか、システムの電力消費を減らします。
<b>RFM1008</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Failure detected on Removable Flash Media <name>. (リムーバブルフラッシュメディア<名前>に障害が検知されました。)

エラーコード	<b>メッセージ情報</b>	
	<b>LCD メッセージ</b>	Removable Flash Media <name> failed. Check SD Card.
	<b>詳細</b>	SD カードの読み取りまたは書き込み中にエラーが報告されました。
	<b>Action</b>	フラッシュメディアを抜き差しします。問題が解決しない場合は、 <a href="#">困ったときは</a> を参照してください。
<b>RFM1014</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Removable Flash Media <name> is write protected. ( リムーバブルフラッシュメディア <名前> は書き込み防止にされています。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Removable Flash Media <name> is write protected. Check SD Card.
	<b>詳細</b>	カードは SD カード上の物理的なラッチによって書き込み防止にされています。書き込み防止のカードは使用できません。
	<b>Action</b>	意図した状態でない場合は、メディアを取り出し、書き込み防止を解除します。
<b>RFM1201</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Internal Dual SD Module redundancy is lost. ( 内蔵デュアル SD モジュールの冗長性が失われました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Internal Dual SD Module redundancy is lost. Check SD Card.
	<b>詳細</b>	片方または両方の SD カードが正常に機能していません。
	<b>Action</b>	「 <a href="#">困ったときは</a> 」を参照してください。
<b>RFM2001</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Internal Dual SD Module <name> is absent. ( 内蔵デュアル SD モジュール <名前> がありません。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Internal Dual SD Module <name> is absent. Check SD Card.
	<b>詳細</b>	SD カードモジュールが検知されないか、または取り付けられていません。
	<b>Action</b>	意図した状態でない場合は、SD モジュールを取り付けなおします。
<b>RFM2002</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Internal Dual SD Module <name> is offline.( 内蔵デュアル SD モジュール <名前> がオフラインです。)
	<b>詳細</b>	SD カードモジュールは取り付けられていますが、正しく取り付けられていないか、設定が正しくない可能性があります。
	<b>Action</b>	SD モジュールを取り付けなおします。
<b>RFM2004</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Failure detected on Internal Dual SD Module <name>. ( 内蔵デュアル SD モジュール <名前> に障害が検知されました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Internal Dual SD Module <name> failed. Check SD Card.
	<b>詳細</b>	SD カードモジュールが取り付けられていますが、設定が正しくないか、初期化ができませんでした。
	<b>Action</b>	SD モジュールを取り付けなおし、SD カードを抜き差しします。
<b>RFM2006</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	Internal Dual SD Module <name> is write protected.( 内蔵デュアル SD モジュール <名前> は書き込み防止にされています。)
	<b>詳細</b>	モジュールが書き込み防止になっています。メディアに変更を書き込むことができません。
	<b>Action</b>	意図した状態でない場合は、メディアを取り出し、書き込み防止を解除します。
<b>SEC0031</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The chassis is open while the power is on. ( 電源がオンの状態でシャーシが開けられました。)
	<b>LCD メッセージ</b>	Intrusion detected. Check chassis cover.

エラーコード	メッセージ情報
	<p><b>詳細</b> シャーシが開いています。システムパフォーマンスが低下し、セキュリティが低下するおそれがあります。</p> <p><b>Action</b> シャーシを閉じます。システムログを確認します。</p>
SEC0033	<p><b>Message (メッセージ)</b> The chassis is open while the power is off. (電源がオフの状態でシャーシが開けられました。)</p> <p><b>LCD メッセージ</b> Intrusion detected. Check chassis cover.</p> <p><b>詳細</b> 電源がオフの間にシャーシが開かれました。システムセキュリティが低下した可能性があります。</p> <p><b>Action</b> シャーシを閉じ、ハードウェアインベントリを確認します。システムログを確認します。</p>
SEL0006	<p><b>Message (メッセージ)</b> All event logging is disabled. (すべてのイベントのログが無効化されています。)</p> <p><b>詳細</b> このメッセージは、すべてのイベントログをユーザーが無効にした時に表示されます。</p> <p><b>Action</b> 意図した状態でない場合は、ログを再び有効にします。</p>
SEL0008	<p><b>Message (メッセージ)</b> Log is full. (ログが満杯です。)</p> <p><b>詳細</b> イベントログがいっぱいの場合、以降のイベントはログに書き込まれません。古いイベントが上書きされて失われる可能性があります。このメッセージは、ユーザーがイベントログを無効にした時にも表示される場合があります。</p> <p><b>Action</b> ログをバックアップしてクリアします。</p>
SEL0012	<p><b>Message (メッセージ)</b> Could not create or initialize the system event log.(システムイベントログを作成または初期化できませんでした。)</p> <p><b>詳細</b> システムイベントログが初期化できなかった場合、プラットフォームステータスとエラーイベントはキャプチャされません。一部の管理ソフトウェアはプラットフォームの例外を報告しません。</p> <p><b>Action</b> 管理コントローラまたはiDRACを再起動します。システム入力電源を切って入れなおします。問題が解決しない場合は、サポートにご連絡ください。</p>
SEL1204	<p><b>Message (メッセージ)</b> An unknown system hardware failure detected. (不明なシステムハードウェア障害が検知されました。)</p> <p><b>LCD メッセージ</b> Unknown system hardware failure.</p> <p><b>詳細</b> システムイベントログが初期化できなかった場合、プラットフォームステータスとエラーイベントはキャプチャされません。一部の管理ソフトウェアはプラットフォームの例外を報告しません。</p> <p><b>Action</b> システムをサポートされている最小構成に再構成します。問題が解決しない場合は、サポートにご連絡ください。</p>
TMP0118	<p><b>Message (メッセージ)</b> The system inlet temperature is less than the lower warning threshold. (システムの吸気温度が下限警告値を下回っています。)</p> <p><b>LCD メッセージ</b> System inlet temperature is outside of range.</p> <p><b>詳細</b> 室温が低すぎます。</p> <p><b>Action</b> システムの動作環境を確認します。</p>
TMP0119	<p><b>Message (メッセージ)</b> The system inlet temperature is less than the lower critical threshold. (システムの吸気温度がクリティカル下限値を下回っています。)</p>

エラーコード	メッセージ情報	
	<b>LCD メッセージ</b>	System inlet temperature is outside of range.
	<b>詳細</b>	室温が低すぎます。
	<b>Action</b>	システムの動作環境を確認します。
<b>TMP0120</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system inlet temperature is greater than the upper warning threshold.( システムの吸気温度が上限警告値を上回っています。)
	<b>LCD メッセージ</b>	System inlet temperature is outside of range.
	<b>詳細</b>	室温が高すぎるか、または少なくとも1台のファンに障害が発生している可能性があります。
	<b>Action</b>	システムの動作環境を確認し、イベントログにファンの障害が記録されていないか確認します。
<b>TMP0121</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system inlet temperature is greater than the upper critical threshold. ( システムの吸気温度がクリティカル上限値を上回っています。)
	<b>LCD メッセージ</b>	System inlet <name> temperature is outside of range. Check Fans.
	<b>詳細</b>	室温が高すぎるか、または少なくとも1台のファンに障害が発生している可能性があります。
	<b>Action</b>	システムの動作環境を確認し、イベントログにファンの障害が記録されていないか確認します。
<b>VLT0204</b>	<b>Message (メッセージ)</b>	The system board <name> voltage is outside of the allowable range. ( システム基板<名前>の電圧が許容範囲外です。)
	<b>LCD メッセージ</b>	System board voltage is outside of range.
	<b>詳細</b>	システムハードウェアが電圧が高すぎるかまたは低すぎる状態を検知しました。複数の電圧例外イベントが連続して発生すると、システムはフェイルセーフモードになって電源が切れる場合があります。
	<b>Action</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源ユニットの例外イベントが発生していないか、システムログを確認します。</li> <li>2. システムを最小構成に再構成し、システムケーブルを点検して取り付けなおします。</li> <li>3. 問題が解決しない場合は、「困ったときは」を参照してください。</li> </ol>

## 警告メッセージ

警告メッセージは、問題発生の可能性のあることを知らせ、作業を続行する前に対応策をとるように求めます。たとえば、ハードドライブをフォーマットする前に、ハードドライブ上のすべてのデータが失われるおそれがあることを警告するメッセージが表示されます。警告メッセージは、通常、処理を中断して、y (はい) または n (いいえ) を入力して応答することを要求します。

 **メモ:** 警告メッセージはアプリケーションまたはオペレーティングシステムにより生成されます。詳細については、オペレーティングシステムまたはアプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

## 診断メッセージ

お使いのシステムで Diagnostics (診断) テストを実行すると、システム診断ユーティリティがメッセージを表示する場合があります。システム診断の詳細については、「システム診断プログラムの実行」の章を参照してください。

## アラートメッセージ

システム管理ソフトウェアは、システムのアラートメッセージを生成します。アラートメッセージには、ドライブ、温度、ファン、および電源の状態についての情報、ステータス、警告、およびエラーメッセージがあります。詳細については、システム管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

## 困ったときは

トピック：

- ・ デルへのお問い合わせ

### デルへのお問い合わせ

① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [dell.com/support](https://dell.com/support) にアクセスします
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの上部にある 国/地域の選択 ドロップダウンメニューで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。